



S6 設置ガイド

Avid S6 M10 システムおよび S6 M40 システム用

Legal Notices

© 2014 Avid Technology, Inc., ("Avid"), all rights reserved. 本ガイドの全部または一部を Avid の書面による同意なしに複製することは禁じられています。

003, 192 Digital I/O, 192 I/O, 96 I/O, 96i I/O, Adrenaline, AirSpeed, ALEX, Alienbrain, AME, AniMatte, Archive, Archive II, Assistant Station, AudioPages, AudioStation, AutoLoop, AutoSync, Avid, Avid Active, Avid Everywhere, Avid Advanced Response, Avid DNA, Avid DNxcel, Avid DNxHD, Avid DS Assist Station, Avid Ignite, Avid Liquid, Avid Media Engine, Avid Media Processor, Avid MEDIAArray, Avid Mojo, Avid Remote Response, Avid Unity, Avid Unity ISIS, Avid VideoRAID, AvidRAID, AvidShare, AVIDstripe, AVX, Beat Detective, Beauty Without The Bandwidth, Beyond Reality, BF Essentials, Bomb Factory, Bruno, C|24, CaptureManager, ChromaCurve, ChromaWheel, Cineractive Engine, Cineractive Player, Cineractive Viewer, Color Conductor, Command8, Control24, Cosmonaut Voice, CountDown, d2, d3, DAE, D-Command, D-Control, Deko, DekoCast, D-Fi, D-fx, Digi 002, Digi 003, DigiBase, Digidesign, Digidesign Audio Engine, Digidesign Development Partners, Digidesign Intelligent Noise Reduction, Digidesign TDM Bus, DigiLink, DigiMeter, DigiPanner, DigiProNet, DigiRack, DigiSerial, DigiSnake, DigiSystem, Digital Choreography, Digital Nonlinear Accelerator, DigiTest, DigiTranslator, DigiWear, DINR, DNxchange, Do More, DPP-1, D-Show, DSP Manager, DS-StorageCalc, DV Toolkit, DVD Complete, D-Verb, Eleven, EM, Euphonix, EUCON, EveryPhase, Expander, ExpertRender, Fairchild, FastBreak, Fast Track, Film Cutter, FilmScribe, Flexevent, FluidMotion, Frame Chase, FXDeko, HD Core, HD Process, HDpack, Home-to-Hollywood, HyperSPACE, HyperSPACE HDCAM, iKnowledge, Impact, Improv, iNEWS, iNEWS Assign, iNEWS ControlAir, InGame, Instantwrite, Instinct, Intelligent Content Management, Intelligent Digital Actor Technology, IntelliRender, Intelli-Sat, Intelli-Sat Broadcasting Recording Manager, InterFX, Interplay, inTONE, Intraframe, iS Expander, iS9, iS18, iS23, iS36, iSIS, IsoSync, LaunchPad, LeaderPlus, LFX, Lightning, Link & Sync, ListSync, LKT-200, Lo-Fi, MachineControl, Magic Mask, Make Anything Hollywood, make manage move|media, Marquee, MassivePack, MassivePack Pro, Maxim, Mbox, Media Composer, MediaFlow, Medialog, MediaMix, Media Reader, Media Recorder, MEDIAArray, MediaServer, MediaShare, MetaFuzé, MetaSync, MIDI I/O, Mix Rack, Moviestar, MultiShell, NaturalMatch, NewsCutter, NewsView, NewsVision, Nitris, NL3D, NLP, NSDOS, NSWIN, OMF, OMF Interchange, OMM, OnDVD, Open Media Framework, Open Media Management, Painterly Effects, Palladium, Personal Q, PET, Podcast Factory, PowerSwap, PRE, ProControl, ProEncode, Profiler, Pro Tools, Pro Tools|HD, Pro Tools LE, Pro Tools M-Powered, Pro Transfer, QuickPunch, QuietDrive, Realtime Motion Synthesis, Recti-Fi, Reel Tape Delay, Reel Tape Flanger, Reel Tape Saturation, Reprise, Res Rocket Surfer, Reso, RetroLoop, Reverb One, ReVibe, Revolution, rS9, rS18, RTAS, Salesview, Sci-Fi, Scorch, ScriptSync, SecureProductionEnvironment, Shape-to-Shape, ShuttleCase, Sibelius, SimulPlay, SimulRecord, Slightly Rude Compressor, Smack!, Soft SampleCell, Soft-Clip Limiter, SoundReplacer, SPACE, SPACEShift, SpectraGraph, SpectraMatte, SteadyGlide, Streamfactory, Streamgenie, StreamRAID, SubCap, Sundance, Sundance Digital, SurroundScope, Symphony, SYNC HD, SYNC I/O, Synchronic, SynchroScope, Syntax, TDM FlexCable, TechFlix, Tel-Ray, Thunder, TimeLiner, Titansync, Titan, TL Aggro, TL AutoPan, TL Drum Rehab, TL Everyphase, TL Fauxlдер, TL In Tune, TL MasterMeter, TL Metro, TL Space, TL Utilities, tools for storytellers, Transit, TransJammer, Trillium Lane Labs, TruTouch, UnityRAID, Vari-Fi, Video the Web Way, VideoRAID, VideoSPACE, VTEM, Work-N-Play, Xdeck, X-Form, and XMON are either registered trademarks or trademarks of Avid Technology, Inc. in the United States and/or other countries. 「Interplay」の名称は、Interplay Entertainment Corp. の許可に基づいて使用しています。Interplay Entertainment Corp. は、Avid 製品に関して、いかなる責務も負いません。文中に記載されている商標はすべて、各所有者に帰属します。

Bonjour, Bonjour ロゴ, Bonjour シンボルは Apple Computer, Inc. の商標です。

Thunderbolt および Thunderbolt ロゴは、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

本ソフトウェアの一部 : copyright 2009 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) で使用するために OpenSSL Project が開発したソフトウェアが含まれています。

この製品は、米国またはその他の国の 1 つまたは複数の特許によって保護されている場合があります。詳細は、www.avid.com/patents をご覧ください。

製品の機能、仕様、システム要件、および販売形態は、予告なく変更されることがあります。

Guide Part Number 9320-65199-01 REV C 02/14

内容

I 部 はじめに

第 1 章 はじめに	1
設置の概要	2
同梱内容	2
システム要件と互換性	3
アクティベーションと登録	3
このマニュアルについて	4
www.avid.com について	4
第 2 章 モジュールと構成の概要	5
マスター・セクション・モジュール	5
モジュールのレイアウト	8

II 部 フレーム

第 3 章 脚部を組み立てる	13
脚フレームを開封する	13
脚フレームの組み立ての概要	13
後方の梁を取り付ける	14
前方の梁を取り付ける	15
背面コーナー・ブラケットを取り付ける	16
エンド・シェルフを取り付ける	17
脚フレームの高さを調節する	17
作業の進め方	18
第 4 章 フレーム・シャーシを組み立てる	19
作業を開始する前に	19
シャーシを組み立てる	21
後脚を取り付ける	25
ボルスターを取り付ける	28
ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットを設置する	29
リア・パネル取り付け用ブラケットを設置する	30
サイド・カバーを設置する	31
作業の進め方	32

III 部 モジュール

第 5 章 テーブルタップ、PSU、スイッチ、およびケーブルを設置する	35
概要	35
テーブルタップを設置する	36
システム構成に応じた Ethernet スイッチと PSU の配置	37
Ethernet スイッチを設置する	40
PSU を設置する	41
ケーブルの設置と接続	44
外側のサイド・カバーを取り付ける	50
作業の進め方	52
第 6 章 モジュールを設置する	53
モジュールを設置する	54
フィル・パネルを設置する	60
ディスプレイ・モジュールを設置する	60
第 7 章 作業の進め方	63
起動およびシャットダウンする	63
アクティベートおよび登録する	63
ハードウェアの組み立てを完了する	64
S6 システム・ソフトウェアの更新	67

S6 システムを構成する	68
--------------------	----

IV 部 付録

付録 A.S6 の拡張または解体	71
概要	71
モジュールを取り外す	71
フレームを解体する	72
付録 B. コンプライアンス	73
環境コンプライアンス	73
EMC (電磁コンプライアンス)	74
安全性コンプライアンス	75

Ⅰ部：はじめに

第1章: はじめに

Avid® S6は、Avid Pro Tools®およびその他のEUCON™互換DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）用に人間工学的に設計されたプロフェッショナルなモジュール式コントロール・サーフェスです。S6は柔軟性と拡張性が高く、ニーズを満たす最適なシステムです。多彩な構成が可能で、フェーダー、ノブ、およびディスプレイの数を自由に選ぶことができます。どのような構成のシステムでも、マスター・セクションをフレーム内のあらゆる位置に配置できます。フェーダー・ストリップ数、ストリップごとのノブの数、またはディスプレイ数を後から増やすことができます。

このガイドでは、システム・フレームの組み立て方法、モジュールの設置方法、およびS6システムの構成方法について説明します。

作業を開始する前に

- 作業場所が清潔であること、乾燥していること、十分な明かりがあること、および作業に必要な空間があることを確認してください。
 - 頑丈なテーブルなどの平らな台があることを確認してください。ハードウェアを衝撃から守るためのパッド付きの台が推奨されます。（システムに脚部を設置する場合は、テーブルの代わりに脚フレームを使います。）
 - 組み立て作業中またはそれ以降にシステムを持ち上げたり、回転させたり、移動したりする場合は、必ず2人以上で作業してください。
- A** コンポーネントやシステムは重いので、必ず2人以上で持ち上げてください。推奨される作業人数は4人で、それぞれが四隅を持ちます。幅がシャーシ5つ分以上あるシステムをそのまま移動しないでください。移動前に、ある程度まで解体してください（付録A「S6の拡張または解体」を参照）。また、どのようなサイズのシャーシでも、そのサイド・カバー、ボルスター、またはリア・パネルを持って移動したり持ち上げたりしないでください（破損するおそれがあります）。移動したり持ち上げたりするときには、金属製シャーシ（フレーム）を持ってください。
- 購入したシステムを形成するパッケージがすべて揃っていることを確認し、整理しておく（図1を参照）、組み立て作業が簡単になります。必要な工具はすべてサイド・カバー・パッケージに含まれています（2ページの「同梱内容」を参照）

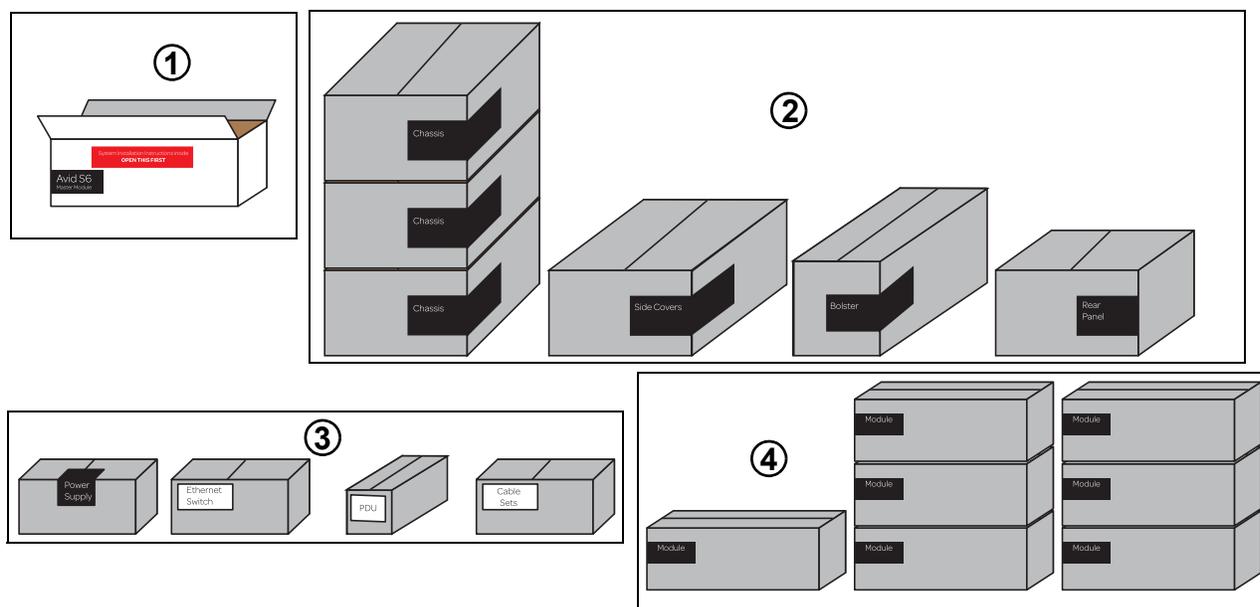


図 1. 組み立て前のパッケージの整理 (S6 M10 16-5システムの場合) :

- 1 – **マスター・モジュール**：本ガイド、M10またはM40マスター・モジュール
- 2 – **フレーム・コンポーネント**：シャーシ・キット、サイド・カバー、ボルスター、およびリア・パネル・パッケージ
- 3 – **電源と接続**：電源ユニット（PSU）、Ethernetスイッチ、テーブルタップ、およびケーブル・セット
- 4 – **モジュール**：オートメーション、フェーダー、プロセス、ノブ、およびディスプレイの各モジュール（数とタイプは構成に応じて異なる）

設置の概要

- 1 モジュールのレイアウトを決定する（5ページの「モジュールと構成の概要」）
- 2 フレームを組み立てる
 - システムに脚部を設置する場合は脚部を組み立てる（13ページの「脚部を組み立てる」）
 - フレーム・シャーシ・キットを組み立てる（19ページの「フレーム・シャーシを組み立てる」）
- 3 モジュールを設置する
 - Ethernetスイッチ、電源、およびケーブルを設置する（35ページの「テーブルタップ、PSU、スイッチ、およびケーブルを設置する」）
 - モジュールを設置する（53ページの「モジュールを設置する」）
- 4 システムを起動してモジュール通信を確認してから、ハードウェアを組み立てる（第7章「作業の進め方」）
- 5 オンラインでシステム購入情報をアクティベートし、Avidマスター・アカウントにログインして、S6ソフトウェア・アップデート、Workstationインストーラー、S6マニュアルなどのリソースをダウンロードしてインストールする（67ページの「S6システム・ソフトウェアの更新」）

同梱内容

マスター・モジュール・パッケージには以下のアイテムが入っています。

- マスター・モジュール（M10またはM40）
 - 本ガイド（S6設置ガイド）。バインダーの表紙に付いている小袋に以下のアイテムが入っています。
 - アクティベーション・カード
 - ユーザー登録カード
 - システム復元USBフラッシュ・ドライブ
- ▲** S6システム復元ソフトウェア以外の用途で、このシステム復元ドライブを使用しないでください。オーディオ・ファイルやその他のデータまたはソフトウェアを保存する目的で、このドライブを使用しないでください。
- 安全にお使いいただくためのガイド

工具

S6フレームを組み立てるには、以下の工具が必要です。すべてサイド・カバー・パッケージに同梱されています。

- Hex M2.5
- Hex M3
- Hex M4
- Hex M5
- Hex M6
- Phillips プラス・ドライバー #1（長軸）
- Phillip プラス・ドライバー #2
- 小型のマイナス・ドライバー

脚部

以下の工具は、脚セット・パッケージに同梱されています（すべてのシステムに脚部が含まれているわけではありません）。

- オープン・エンド・レンチ（13mm）1本

その他の必要なコンポーネント

S6を使用するには、以下のアイテムが必要ですが、別売です。

- USBフラッシュ・ドライブ（S6システム・ソフトウェア・アップデートを転送しインストールするときに使用）
- Pro Toolsが稼働するワークステーション、またはその他のEUCON互換デジタル・オーディオ・ワークステーション（互換性に関する情報については、Avid.comを参照）

オプション

以下のアイテムは推奨されますが、別売です。

- UPS（無停電電源装置）、電力調整器、電源タイマー、またはその他の電力管理システム
- USB コンピューター・キーボードと、マウスまたはトラックボール（マスター・モジュールにはタッチスクリーン・キーボードがありますが、一部の管理タスクまたはトラブルシューティング・タスクには専用のキーボード、マウス、トラックボールを使うこともできます）

システム要件と互換性

Avidでは、互換性を含め、コンピューター本体やハードディスク、SCSIアクセラレーター、シリアル・ポート・コンバーターなど、サード・パーティの製品について一定の基準で動作確認作業を行っています。

システムの完全な必要条件と推奨コンピュータ、オペレーティング・システム、ハード・ドライブ、サードパーティ機器については以下をご覧ください。

www.avid.com/compatibility にアクセスしてください。

アクティベーションと登録

同梱のアクティベーション・カードとオンライン登録情報カードの内容を確認し、アクティベート（必須）と登録（オプションだけが推奨される）の手順に従ってください。これらのカードは、本ガイドの表紙に付いている小袋に入っています。

S6システム・ソフトウェアを即時にアクティベートする

S6システムを組み立て、ハードウェアを正常に設置できたことを確認したらすぐに、S6システム・ソフトウェアをオンラインでアクティベートします。同梱されているS6システム・ソフトウェア・アクティベーション・カードに記載の英数字コードを入力してアクティベートし、S6システム・ソフトウェアと資料をすべてダウンロードします。



同梱のS6アクティベーションカードを使用して、購入情報を必ずアクティベートしてください。これにより、ご使用のAvidアカウントで直接、ソフトウェア・アップデートを受け取ることができるようになります。システム・ソフトウェア・アップデート、Workstationソフトウェア、およびXMON EUCONソフトウェアがないか、Avidアカウントを確認します。

登録する

登録されると、以下のサービスを受けることができます。

- テクニカル・サポート情報
- ソフトウェアアップデートおよびアップグレードの通知
- ハードウェア保証情報

このマニュアルについて

このガイドでは、Avid S6 システムを組み立てる方法について説明します。

本ガイドで使用される表記規則

本書では、メニュー・アイテムの選び方やマウスの操作方法を簡略化するために、以下のような方法で表記しています。

表記法	アクション
[File] > [Save]	[ファイル] メニューから [保存] を選択する
Control+N	Control キーを押しながら N キーを押す
Control-クリック	Control キーを押しながらクリックする
右クリック	右側のマウス・ボタンをクリックする

画面に表示されるコマンド、オプション、設定の名前はそれぞれフォントが異なります。

コントロール・サーフェスのスイッチとキーの名前は太字で記載されています（例：**SEL**）。

以下の記号は重要な情報を強調するために使用します。

 「ユーザーのヒント」はシステムを最大限に活用するために役立つヒントです。

 重要なお知らせには、データやシステムのパフォーマンスに影響する情報が含まれます。

 コンピューターのキーボードやマウスで利用できる便利なショートカットを紹介しています。

 このガイドとその他の Avid ガイドのセクションとの関連を示すクロスリファレンスです。

www.avid.com について

ご使用の Avid システムを最大限に活用するためにも、Avid の Web サイト（www.avid.com）をご利用ください。次に、利用可能なサービスと機能の一部を紹介します。

製品登録とアクティベーション 購入した製品をオンラインで登録でき、アクティベートできます。

サポートとダウンロード Avid カスタマー・サクセス（テクニカル・サポート）にアクセスすると、ソフトウェアのアップデートや最新版のオンライン・マニュアルのダウンロード、システム要件の互換性ガイドの閲覧、オンライン・ナレッジベースの検索、そしてユーザー・フォーラムから世界規模の Avid コミュニティへの参加が可能です。

トレーニングと教育 オンライン・コースを活用した学習、Avid 公認のトレーニング・センターで実施される授業について検索することができます。

製品と開発者 Avid 製品に関する情報 — ソフトウェアのデモ版のダウンロード、デベロップメント・パートナーとそのプラグイン、アプリケーション、ハードウェアに関する情報をご覧ください。

ニュースとイベント Avid の最新ニュースを取得したり、製品デモにサイン・アップしたりすることができます。

第2章：モジュールと構成の概要

この章では、各S6モジュールを確認し、システム内での配置方法と配置場所について説明します。組み立てを始める前に、ここに記載されている情報を参考にして、モジュールのレイアウトを決定します。

システム内のプライマリ・モジュールには2つのタイプがあります。1つはマスター・モジュールで、もう1つはチャンネル・モジュールです。

マスター・セクション・モジュール

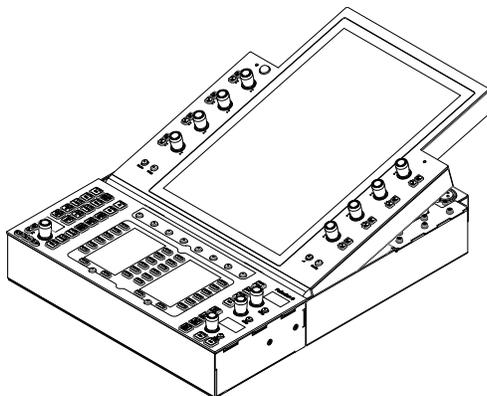
S6マスター・モジュールとS6オートメーション・モジュールは多くの場合、同じシャーシ内に設置し、マスター・セクションを形成します。

マスター・モジュール

マスター・モジュールはシステムのプライマリ・モジュールであり、タッチスクリーン、ソフトキーのバンク2つ、モニタリング・セクション、およびその他のコントロールを備えています。各システムに1つずつマスター・モジュールが必要です。S6 M10とS6 M40のそれぞれのシステムで使用されるマスター・モジュールには、M10とM40の2つのモデルがあります。どちらにも同じコントロールと機能がありますが、それぞれがサポートするモジュールの数、および接続できるワークステーションの数は異なります。

S6 M10システム このシステムにはM10マスター・モジュールが組み込まれており、他のS6モジュールを最大10個までサポートし、最大2つのワークステーションに接続できます。S6 M10システムには、フレームごとに8個～24個のフェーダーを設置でき、比較的小規模な構成に適しています。S6 M10システムではディスプレイ・モジュールはサポートされていません。

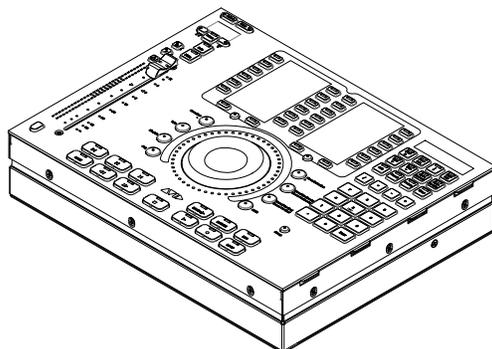
S6 M40システム このシステムにはM40マスター・モジュールが組み込まれており、S6チャンネル・モジュールを最大40個まで、フェーダー・ストリップを最大64個までサポートし、ディスプレイ・モジュールもサポートされます。M40システムは、最大8つのワークステーションに接続できます。



マスター・モジュール

オートメーション・モジュール

オートメーション・モジュールには、トランスポート・コントロールとロケート・コントロール、アテンション・フェーダー・ストリップ、ジョグホイールまたはシャトルホイール、数値キーパッド、およびその他のソフトキーがあります。オートメーション・モジュールはほとんどの場合、マスター・モジュールのすぐ下（同じシャーシ内）に直接設置します。



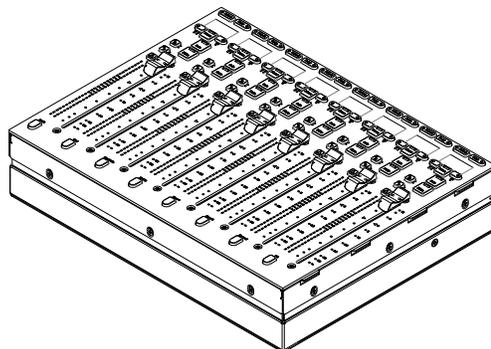
オートメーション・モジュール

チャンネル・モジュール

チャンネル・モジュールには、S6 フェーダー・モジュール、S6 プロセス・モジュール、S6 ノブ・モジュール、および S6 ディスプレイ・モジュールがあり、これらを複数組み合わせることによって、システムのフェーダー・ストリップを形成します。すべての構成で各タイプのチャンネル・モジュールを使用する必要はありません。

フェーダー・モジュール

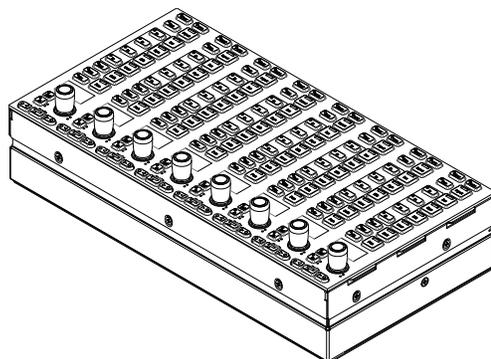
各フェーダー・モジュールには、8つのメーター付きチャンネルと、その他のコントロールがあります。フェーダー・モジュールは、各シャーシの最初のスロット（最前面のスロット）に設置します。



フェーダー・モジュール

プロセス・モジュール

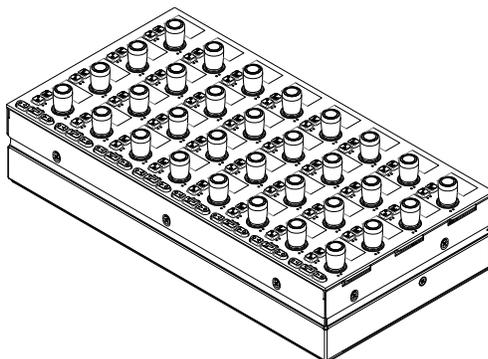
各プロセス・モジュールには、8つのチャンネル・ストリップ（各ストリップに1つずつノブを設置）、OLED ディスプレイ、およびその他のコントロールがあります。



プロセス・モジュール

ノブ・モジュール

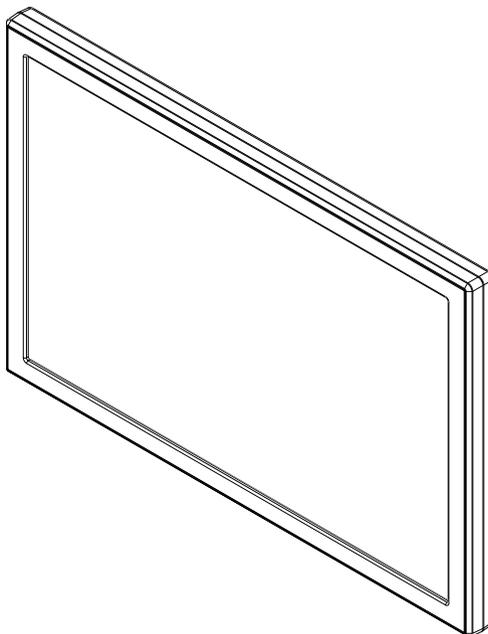
各ノブ・モジュールには、デュアル・ファンクション（回転/押下）のエンコーダーが4つずつある8つのチャンネル・ストリップ、OLEDディスプレイ、およびその他のコントロールがあります。ノブ・モジュールの設置先は、比較的大型のシャーシのM40システムに限られ、最大2つまで設置できます。



ノブ・モジュール

ディスプレイ・モジュール (M40システムのみ)

ディスプレイ・モジュールは、S6 M40システムでのみサポートされ、チャンネル・モジュールの上に設置します。各ディスプレイ・モジュールには、最大8つのストリップの名前、メーター、波形、およびその他のデータが表示される大型のディスプレイがあります。



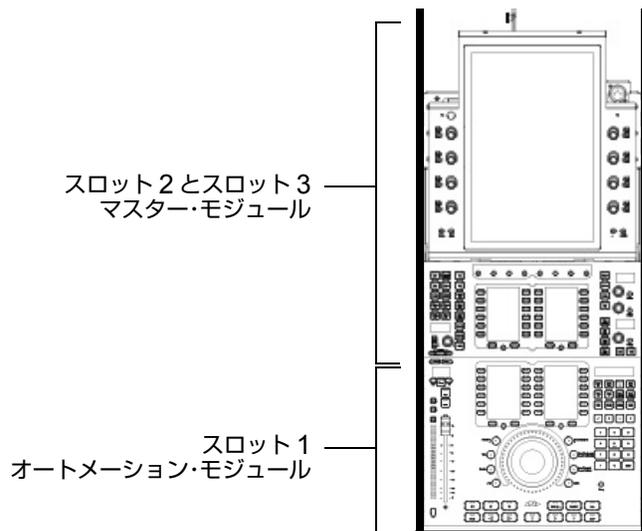
ディスプレイ・モジュール

モジュールのレイアウト

このセクションでは、シャーシ内に前面から順にモジュールを配置する方法、およびフレーム内に左端から順にシャーシを配置する方法について説明します。

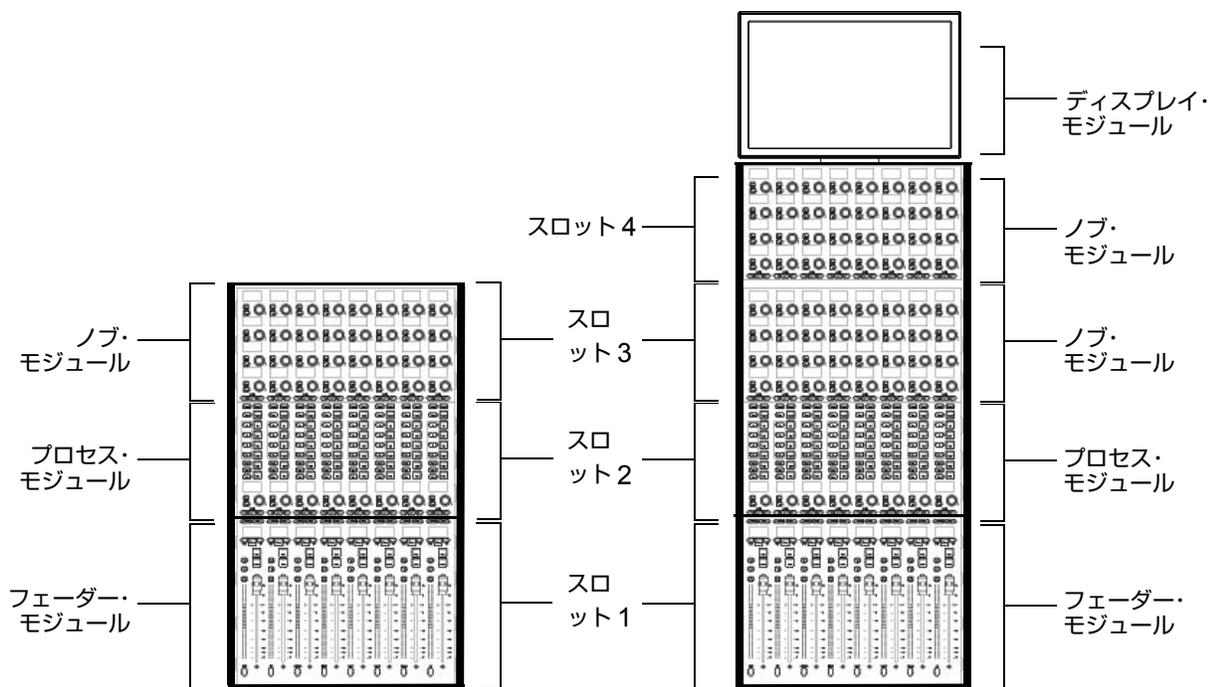
モジュールを前面から順に配置する方法

ほとんどの構成において、複数のマスター・セクション・モジュールを1つのシャーシ内に一緒に設置し、マスター・モジュールをオートメーション・モジュールの上に設置します。同じシャーシ内に設置する必要はありませんが、このガイドではわかりやすくするために、一緒に設置する方法について説明します。



小型フレーム・シャーシに設置したマスター・セクション・モジュール

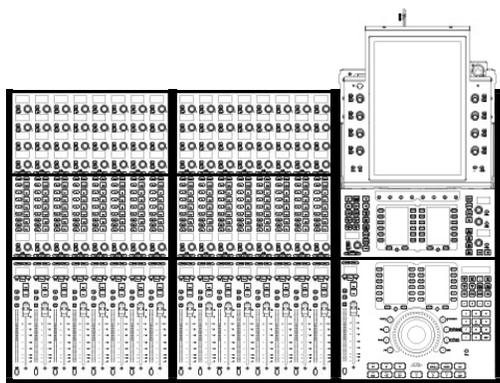
通常は、システムのフェーダー・ストリップを形成する複数のチャンネル・モジュールを一緒に設置します。フェーダー・モジュールをスロット1、プロセス・モジュールをスロット2、ノブ・モジュールをスロット3に設置します。小型フレーム・シャーシではシャーシごとに1つのノブ・モジュールがサポートされ、大型フレーム・シャーシではシャーシごとに最大2つのノブ・モジュールがサポートされます。M40ベースのシステムでは、ディスプレイ・モジュールもサポートされます。すべてのスロットにモジュールを設置する必要はありません。未使用のスロットには、フィル・パネルをかぶせることができます。



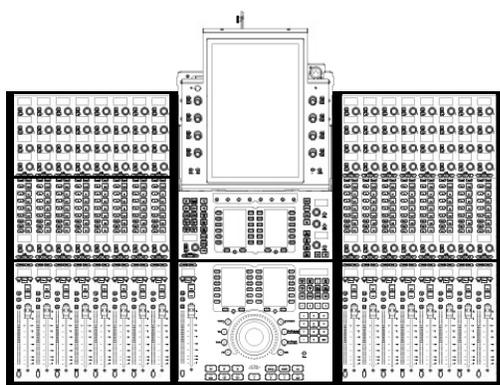
小型フレーム・シャーシ (左) と大型フレーム・シャーシ (右) に設置したチャンネル・モジュール

シャーシとモジュールを左端から順に配置する方法

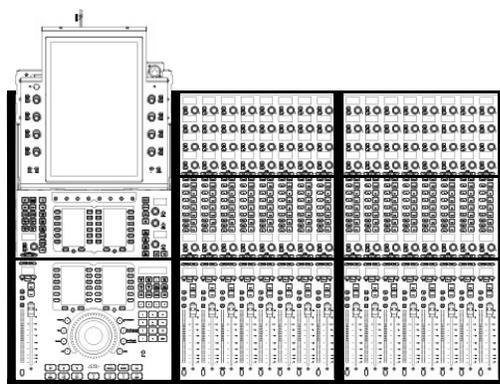
チャンネル・セクション・モジュールとマスター・セクション・モジュールを左端から順に任意の順序で配置します。たとえば、S6 M10-16-5システム（各ストリップに16個のフェーダーと5つのノブを設置）にマスター・セクション・モジュールを設置する方法としては、以下の3とおりが考えられます。



例1：マスター・セクションを右端に配置したS6 M10-16-5



例2：マスター・セクションを中央に配置したS6 M10-16-5



例3：マスター・セクションを左端に配置したS6 M10-16-5

モジュールのカスタム構成について

モジュールの標準的な配置をサポートする工場出荷時の構成で利用できるS6システムもありますが、モジュールの配置は、さまざまな方法でカスタマイズできます。システムを組み立てたら、タッチスクリーンを使って、モジュールの設置場所と種類をシステムに通知します。さまざまなシャーシにさまざまな方法でチャンネル・モジュールとマスター・セクション・モジュールを配置できます。

ここでフェーダー・ストリップとマスター・セクション・モジュールの位置関係を決めてから、II部「フレーム」に進んでください。

II部：フレーム

第3章：脚部を組み立てる

この章では、S6の脚フレームを組み立てる方法について説明します。すべてのシステムで脚部を使用する必要はありません。システムに脚フレームを設置しない場合は、第4章「フレーム・シャーシを組み立てる」に進んでください。

▲ 組み立て作業中またはそれ以降にシステムを持ち上げたり、回転させたり、移動したりする場合は、必ず2人以上で作業してください。コンポーネントやシステムは重いため、必ず2人以上で持ち上げてください。

脚フレームを開封する

脚部と梁を開封し、部品が揃っていることを確認します（図1を参照）。

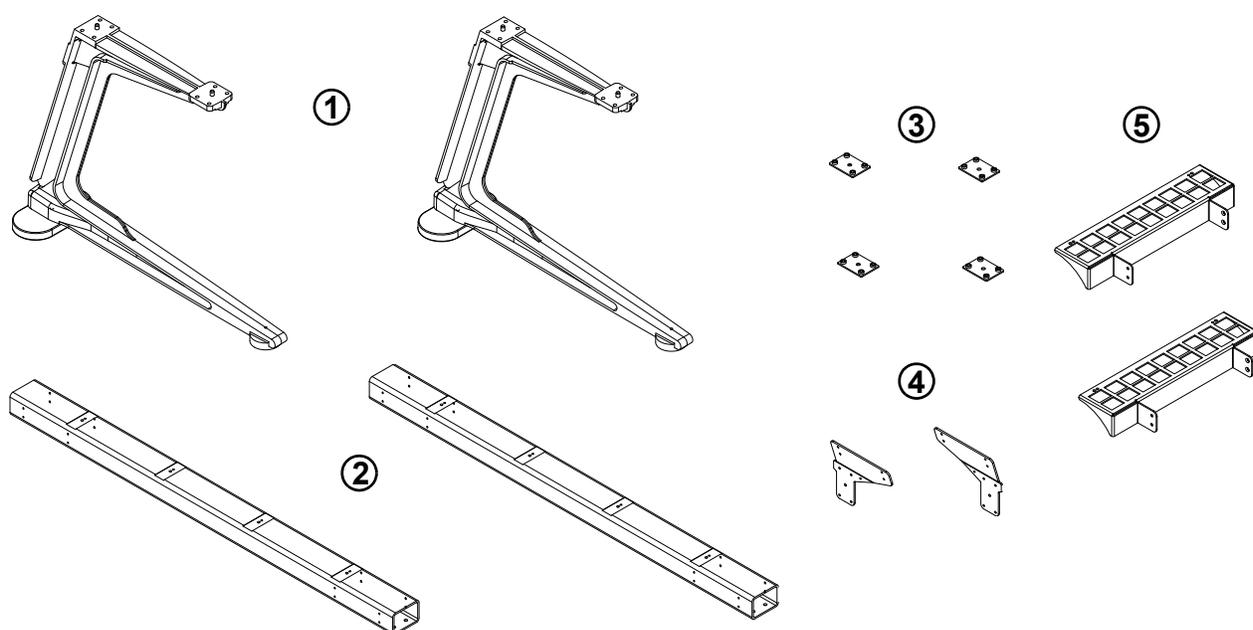


図 1. 脚フレームの部品

- 1 - 脚部
- 2 - 梁
- 3 - 梁取り付け用プレート
- 4 - 背面コーナー・ブラケット
- 5 - エンド・シェルフ
- 6 - 留め具と工具（図に含まない）

脚フレームの組み立ての概要

脚フレームは、脚部の前方と後方を横切る2本の梁（コーナー・ブラケットに固定）、左右のエンド・シェルフ、および高さ調節脚から成ります。

次のセクションの説明に従って脚フレームを組み立てる際には、まず1本の梁を床に置いて、2本の脚部の間に必要となる距離を測ります。その距離を空けた状態で2本の脚部を互いに平行にして床に置いたら、最初の梁を脚部の後方を横切るように置き（梁の向きについては下図を参照）、梁取り付け用プレートと留め具を使って固定します。両方の梁と両方の背面コーナー・ブラケットを取り付けるまで、留め具をきつく締めないでください。後方の梁を固定したら、もう1本の梁を脚部の前方を横切るように置き、梁取り付け用プレートと留め具を使って固定します。

後方の梁を取り付ける

後方の梁を取り付ける：

1 1本の梁を床に置いて、2本の脚部の間に必要となる距離を測ります。

💡 2人以上で作業を行い、1人の作業者が脚部に梁を置いて留め具で固定するときに、別の作業者はコンポーネントを支持してください。

2 後方の梁を取り付けるため、以下の作業を行います（図2を参照）。

- 最初の梁を、脚部の後方を横切るように置きます。梁の下側にあるピンを、脚部の上面にある穴に合わせます。後方の梁の上面にあるピンが、脚フレームの中心側にくるようにします。
- 留め具とワッシャー（同梱）を4つずつ使って、梁の両端に取り付け用プレートを固定します。両方の梁と両方の背面コーナー・ブラケットを取り付けるまで、留め具をきつく締めないでください。

脚部と梁を固定するための留め具、ワッシャー、および工具

留め具	M8x40
ワッシャー	M8
工具	M6 Hex

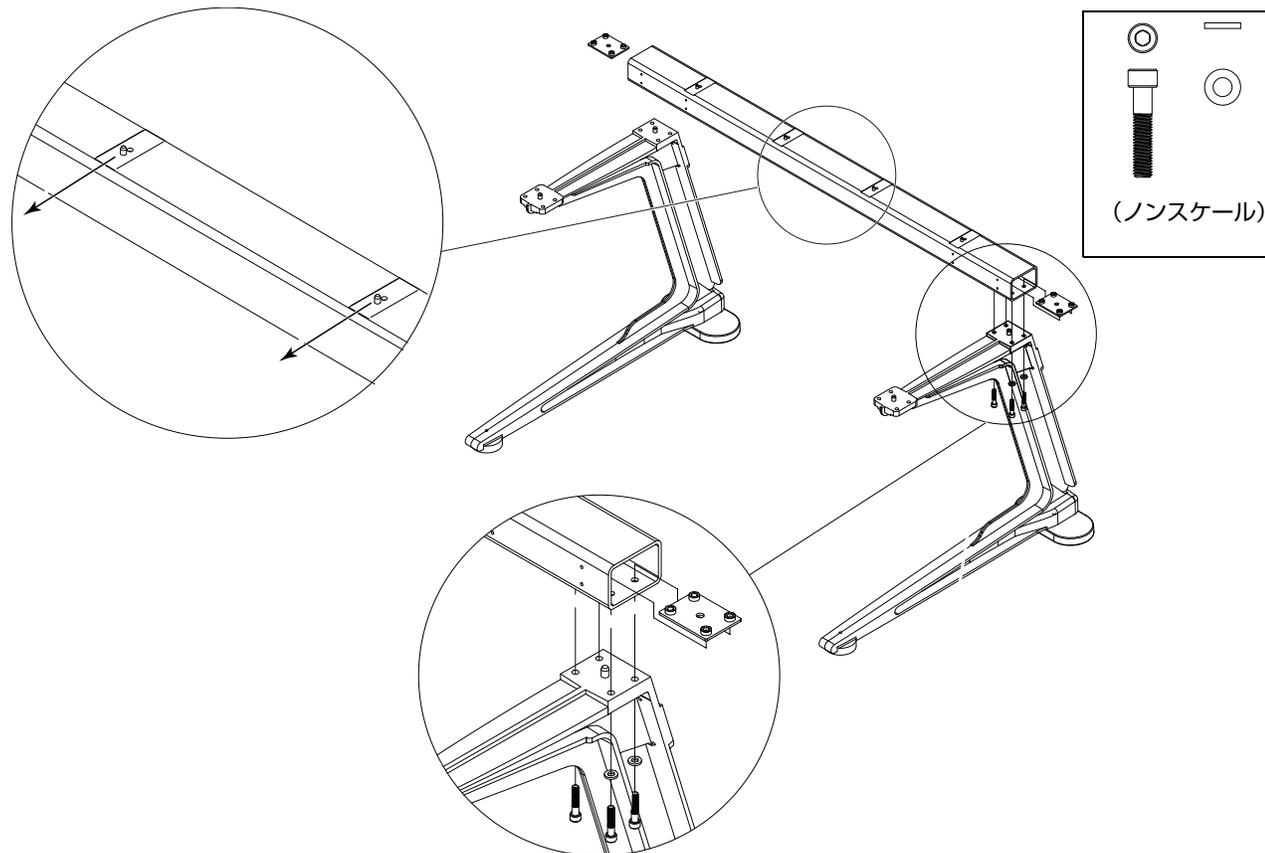


図2. 梁取り付け用プレートを使って梁を脚部に取り付ける

3 梁が脚部の上面と平行になっていることを確認します（図3を参照）。必要に応じて、脚部を前後左右に動かして、位置を調整してください。

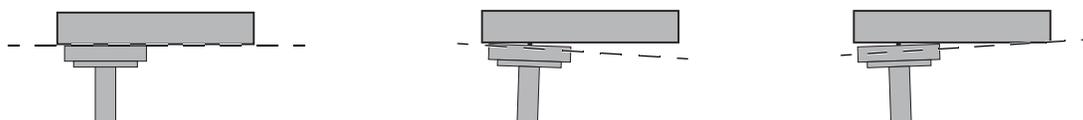


図3. 梁が脚部と平行になっている状態の背面図（左）、平行になっていない状態の背面図（中央、右）

前方の梁を取り付ける

前方の梁を取り付けるには：

- 1 梁の下側にあるピンを、脚部の上面にある穴に合わせます。前方の梁の上面にあるピンが、脚フレームの中心側にくるようにします。
- 2 留め具とワッシャー（同梱）を4つずつ使い、2つの取り付け用プレートを使って、梁を脚部の前方を横切るように取り付けます（図4を参照）。留め具をきつく締めないでください。

脚部と梁を固定するための留め具、ワッシャー、および工具

留め具	M8x40
ワッシャー	M8
工具	M6 Hex

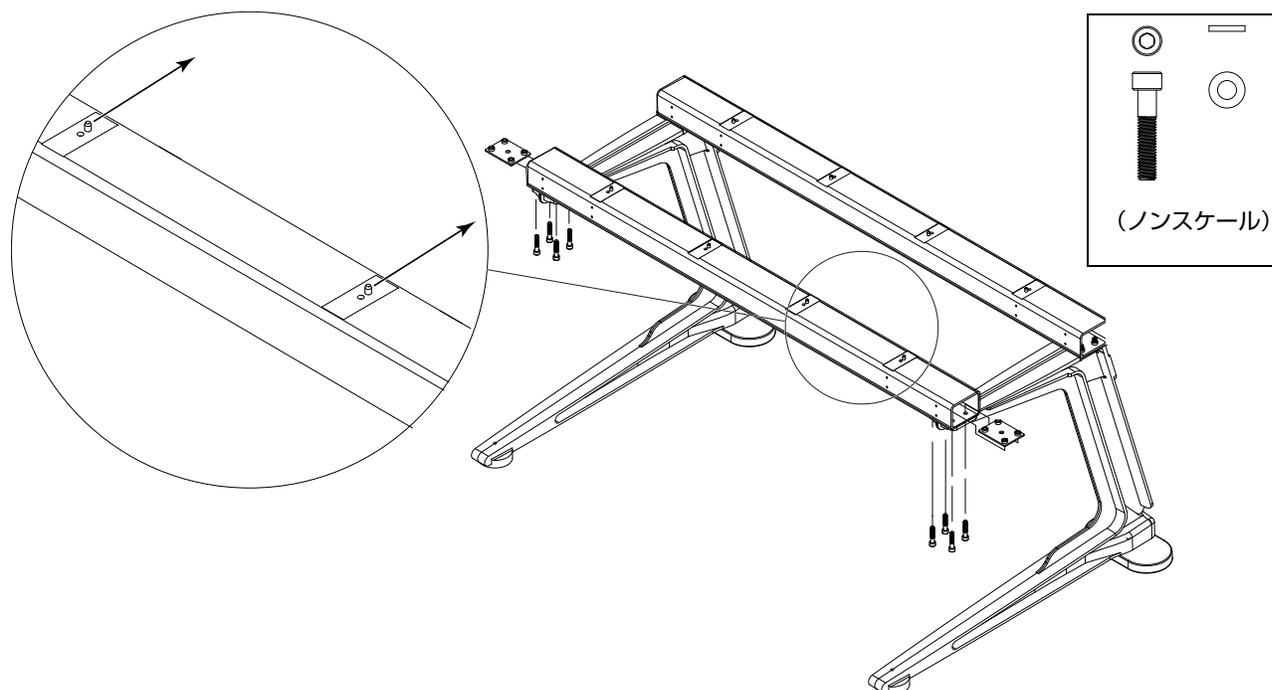


図4. 前方の梁の上面にあるピンの方向

背面コーナー・ブラケットを取り付ける

背面コーナー・ブラケットを取り付けるには：

- 1 各背面コーナー・ブラケットに留め具とワッシャー（同梱）を4つずつ使い、ブラケットを取り付けます（図5を参照）。ブラケット上のピンを、脚部の上面にある穴に合わせます。

背面カバー・ブラケットの留め具、ワッシャー、および工具

留め具	M5x15
ワッシャー	M5
工具	M4 Hex

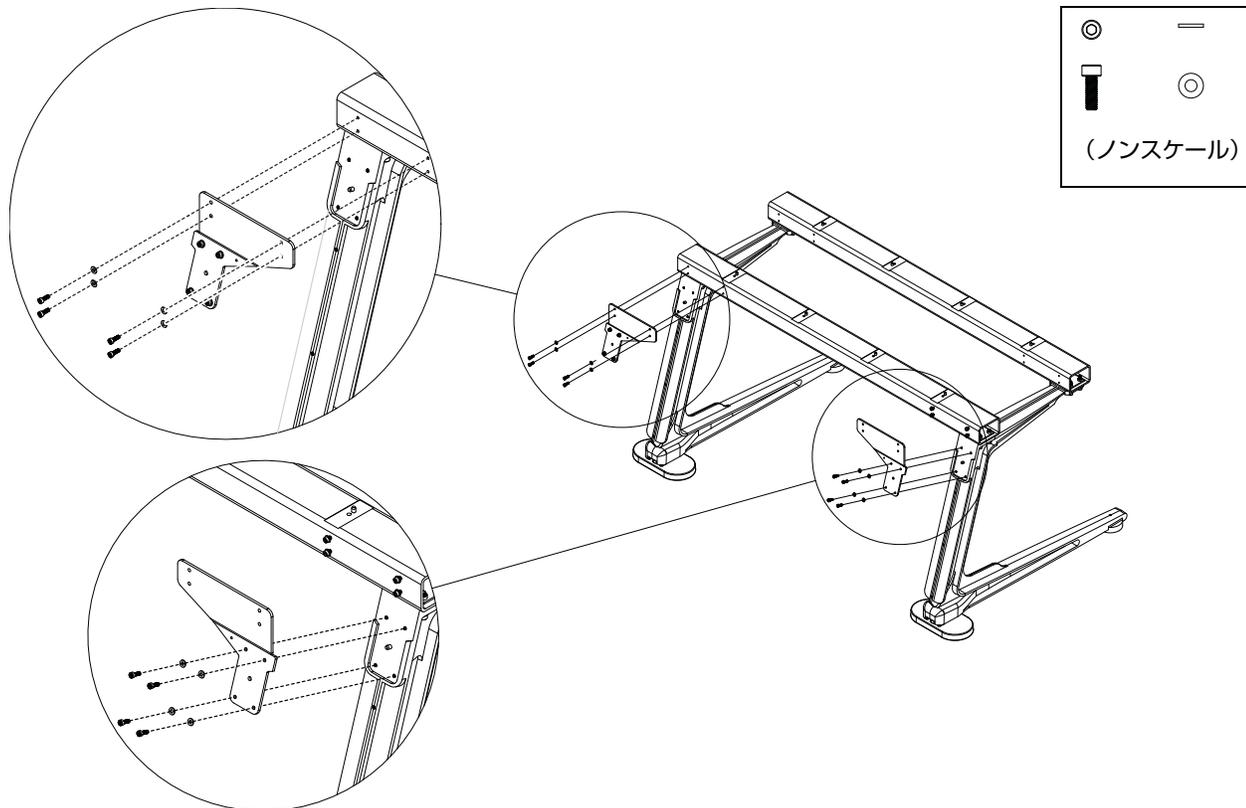


図5. 背面コーナー・ブラケットを取り付ける

- 2 上記のステップで取り付けたすべての留め具をきつく締めて、梁と背面コーナー取り付け用ブラケットを脚部にしっかり固定します。梁が脚部の上面と平行になっていることを確認します。

エンド・シェルフを取り付ける

エンド・シェルフを取り付けるには：

- 左右の各エンド・シェルフに留め具とワッシャーを4つずつ使って、シェルフを脚部に取り付けます(図6を参照)。

エンド・シェルフの留め具、ワッシャー、および工具

留め具	M5x15
ワッシャー	M5
工具	M4 Hex

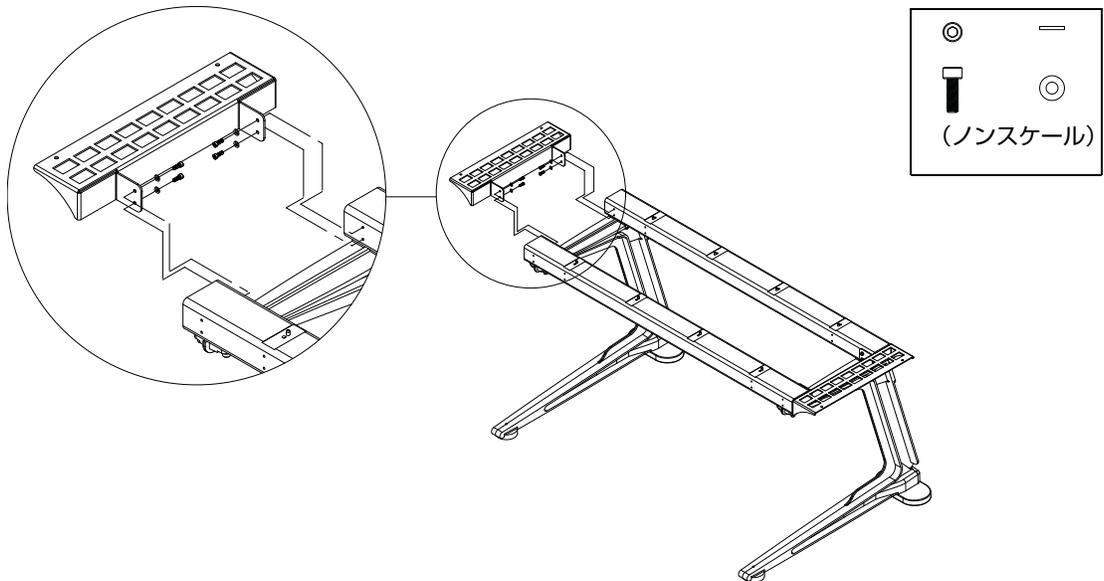


図6. 左側のエンド・シェルフを取り付ける (右側のエンド・シェルフは取り付け済み)

脚フレームの高さを調節する

脚後方の高さを調整するには：

- 後方の高さ調節脚を、13mmのオープン・エンド・レンチ(脚部に同梱)を使って調節します(図7を参照)。高くするには、レンチを上から見て時計回りに回し、低くするには、反時計回りに回します。

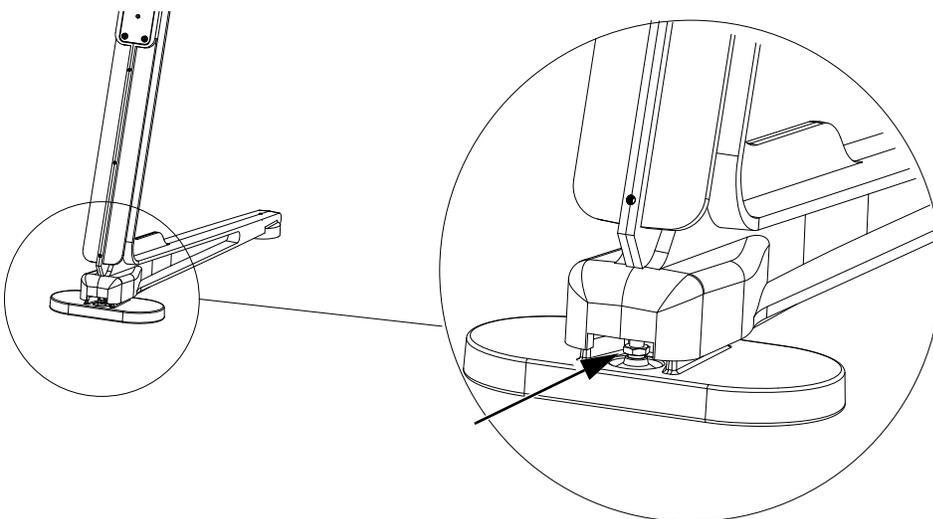


図7. 脚後方の高さ調整

脚前方の高さを調整するには：

- M4 Hex を使って、前方の高さ調節脚を調節します。高くするには、上から見て時計回りに回し、低くするには、反時計回りに回します。

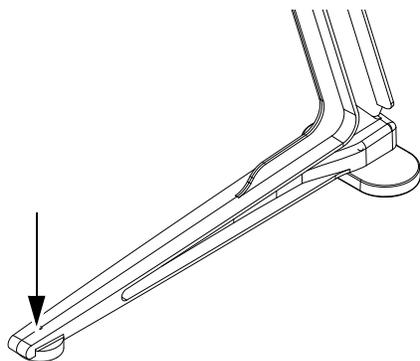


図 8. 前方の高さ調節脚

作業の進め方

脚フレームを組み立てたら、第 4 章「フレーム・シャーシを組み立てる」に進みます。

第4章: フレーム・シャーシを組み立てる

この章では、シャーシを組み立てて、相互に連結し、S6システムのフレームを形成する方法について説明します。

第1章で推奨したように、フレーム・コンポーネント・キット（シャーシ・キット、サイド・カバー、ボルスター、リア・パネル・キット）がすべて揃っていることを確認します（図9を参照）。

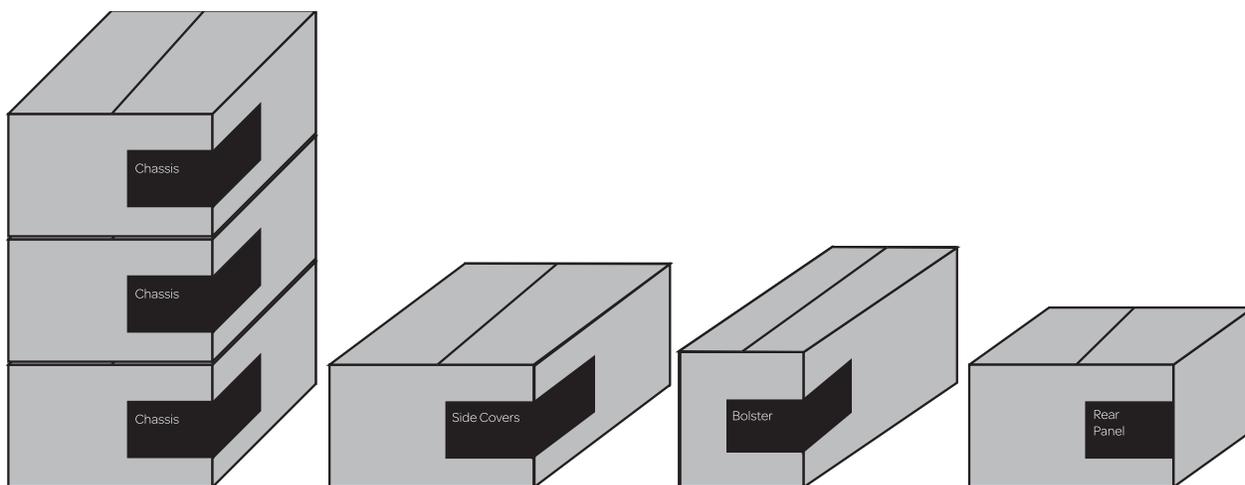


図 9. M10 16-5システムの場合のフレーム・コンポーネント・パッケージ（左から順に、シャーシ・キット、サイド・カバー、ボルスター、リア・パネル）

作業を開始する前に

以下の作業を行います。

- 1 サイド・カバー・パッケージからフレーム・ツールキット（7020-38627-00というラベルが貼付されている）を取り出します。
- 2 フレーム・シャーシのすべての部品が揃っていることを確認し、開封して、作業場所の近くに置いておきます。
- 3 各部品を確認し（図10を参照）、フレーム・シャーシが大型であるか小型であるかを確認しておきます。組み立てプロセスの一部のステップは、フレーム・シャーシの奥行き（大型または小型）によって異なります（手順に明記してあります）。

フレーム・シャーシ・キットの部品

フレーム・シャーシ・キットは、大型（奥行きが深い）または小型（奥行きが浅い）です。どちらのキットも内容は同じです。

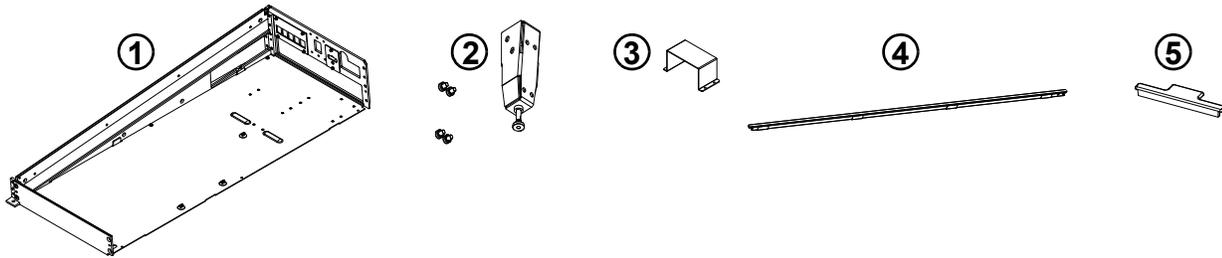


図 10. フレーム・シャーシ・キットの部品（ケーブル・ハーネスは図に含まない）

- 1 - シャーシ（図 11を参照）
- 2 - 後脚
- 3 - PSUの固定用ブラケット
- 4 - Tストリップ
- 5 - ディスプレイ・モジュール・フィラー
- 6 - ケーブル・ハーネス（図に含まない）
- 7 - 留め具：PhillipsとHexの留め具（図に含まない）

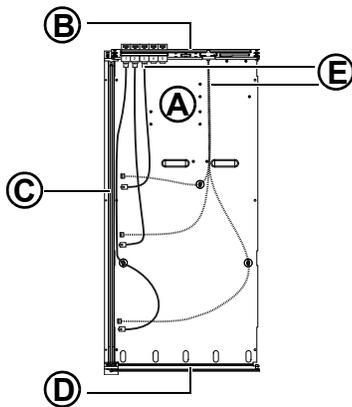


図 11. シャーシの部品

- A - シャーシの底面プレート
- B - 背面タイ・プレート
- C - サイド・ウォール
- D - 前面タイ・プレート
- E - ケーブル・ハーネス（Ethernetまたは電源）

シャーシを組み立てる

すべてのフレーム・シャーシおよび留め具がまだ未開封の場合は、開封し、作業場所に並べて置いておきます。

シャーシ・キットには、固定用ブラケット（PSU用）、Tストリップ、ディスプレイ・モジュール・フィラーも含まれています。この時点では、これらは横に置いておきます。

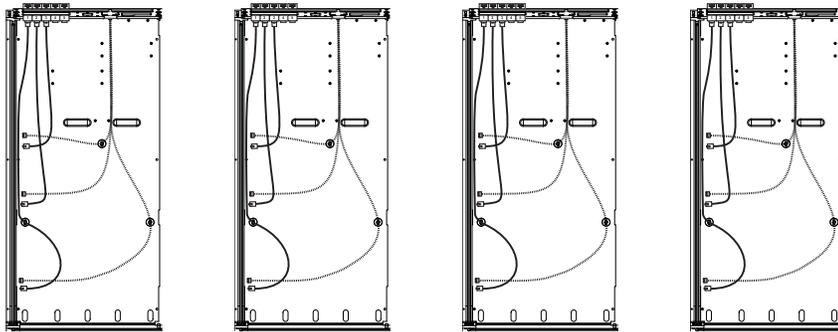


図 12. 4つの小型フレーム・シャーシ

サイド・ウォールを取り付ける

サイド・ウォールを取り付けるには：

- 1 S6サイド・カバー・パッケージに含まれているサイド・ウォールを開封します。

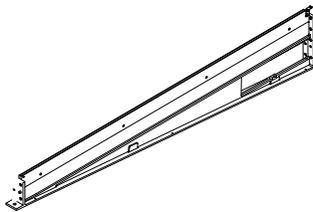


図 13. サイド・ウォール

- 2 ねじ#1 Phillipsを3つ使って、サイド・ウォールを右端のシャーシの底面プレートに取り付けます。シャーシの底面プレートの右端を、サイド・ウォールの左端の上に重ねて固定します（図 14を参照）。

シャーシの底面プレートとサイド・ウォールを固定するための留め具と工具

留め具	M3x6 (7760-30025-01)	SEMS
工具	#1 Phillips	

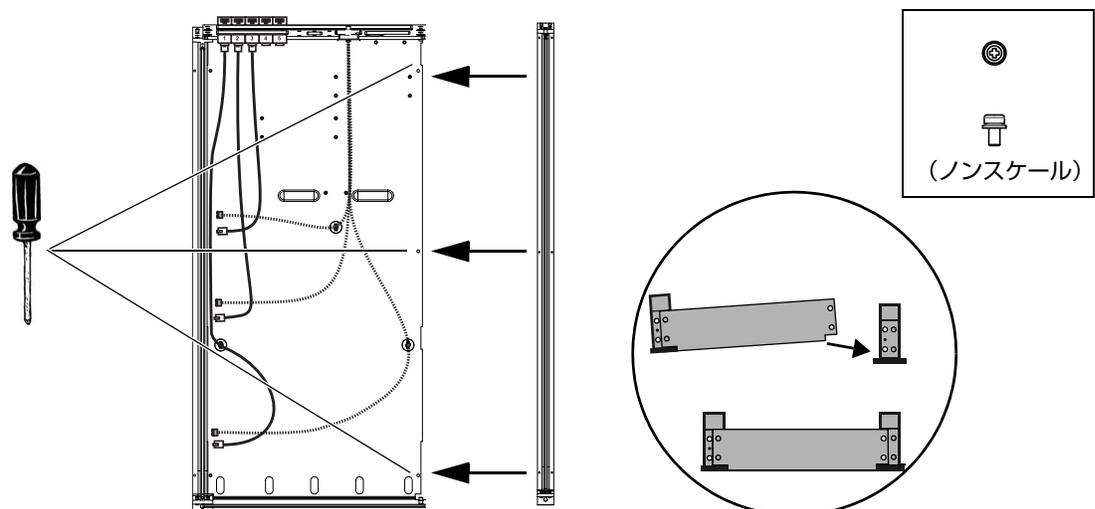


図 14. サイド・ウォールをシャーシの底面プレートに固定する様子を示した上面図（左）と正面図（右下）

3 留め具Hexを使って、サイド・ウォールを背面タイ・プレートと前面タイ・プレートに固定します。

サイド・ウォールを背面タイ・プレートと前面タイ・プレートに固定するための留め具と工具

留め具	M5x8 FHCS(7760-30553-00)
工具	M3 Hex

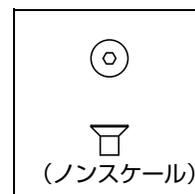
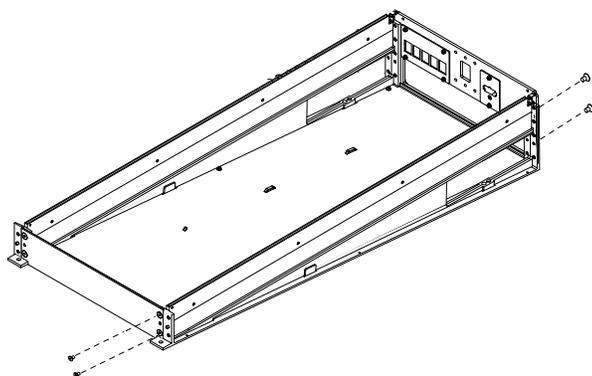


図 15. サイド・ウォールを背面タイ・プレートと前面タイ・プレートに取り付ける

4 システムに脚部を設置しない場合は、ステップ6に進みます。

5 システムに脚フレームを設置する場合は、最初のシャーシを梁に乗せ、留め具 Hex (梁に同梱) を使って、右端のシェルフに下からゆるく留めます (図 16 を参照)。梁上のピンをシャーシの底面プレートの開口部に合わせ、はめ込みます。この時点ではまだ、留め具をきつく締めないでください。

シャーシと梁を固定するための留め具、ワッシャー、および工具

留め具	M6x14 Hex (SHCS)
ワッシャー	M6
工具	M5 Hex

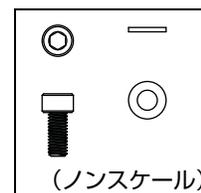
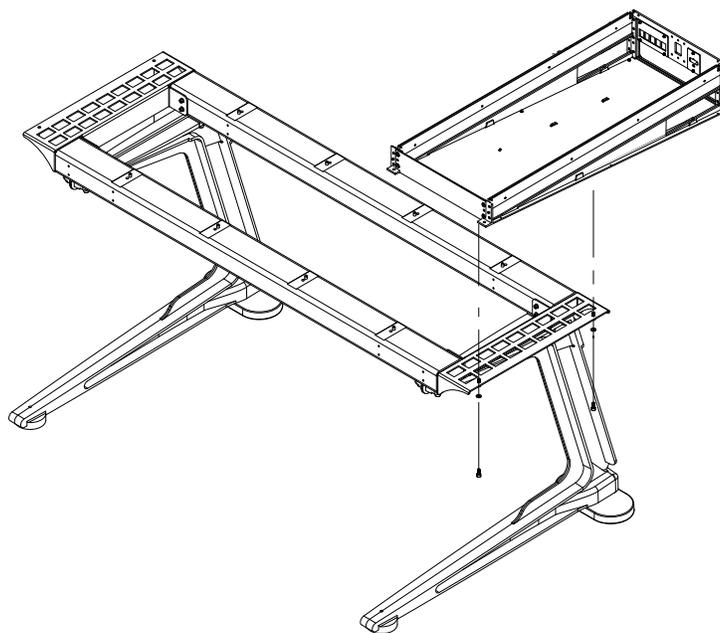


図 16. 最初のシャーシを脚フレームの梁に取り付ける

- 6 次のシャーシを設置します。そのシャーシの底面プレートの右端を、最初のシャーシの左端の上に重ねて固定します（図 17を参照）。

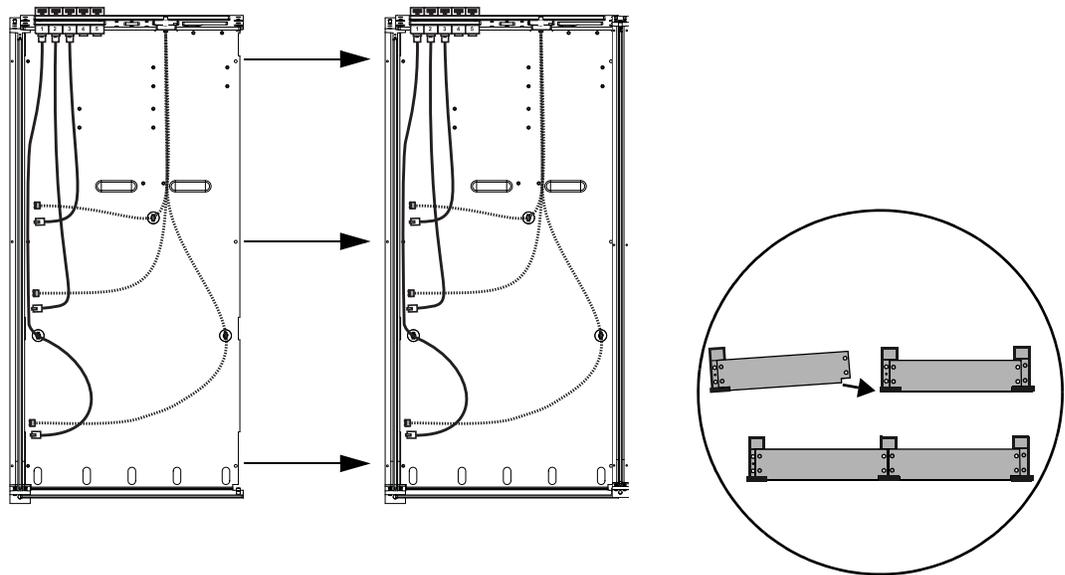


図 17. 最初の2つのシャーシを取り付ける様子を示した上面図（左）と正面図（右）

- 7 システムに脚フレームを設置する場合は、2番目のシャーシを梁に乗せ、留め具 Hex（梁に同梱）を使って梁にゆるく留めます（図 16を参照）。シャーシが動かないように留め具を締めます。ただし、きつく締めすぎないようにします。
- 8 ねじ #1 Phillips を3つ使って、2番目のシャーシの底面プレートの右端を、最初のシャーシのサイド・ウォールの左端に取り付けます（図 18を参照）。ねじをきつく締めないでください。

シャーシの底面プレートとサイド・ウォールを固定するための留め具と工具

留め具	M3x6 (7760-30025-01)	SEMS
工具	#1 Phillips	

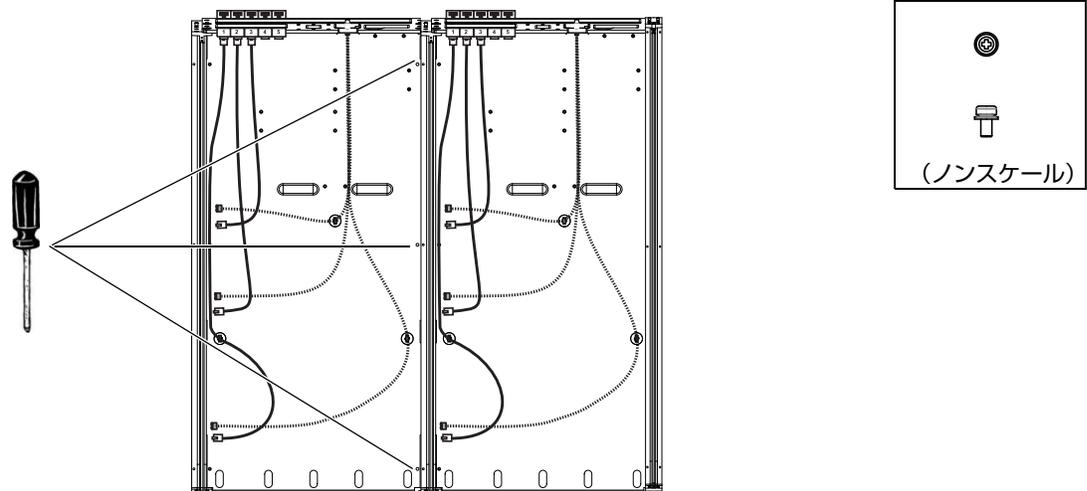


図 18. 最初のシャーシの底面プレートを2番目のシャーシのサイド・ウォールに固定する

9 留め具Hexを使って、2番目のシャーシの背面タイ・プレートと前面タイ・プレートを、最初のシャーシに固定します（図19を参照）。

サイド・ウォールを背面タイ・プレートと前面タイ・プレートに固定するための留め具と工具

留め具	M5x8 FHCS(7760-30553-00)
工具	M3 Hex

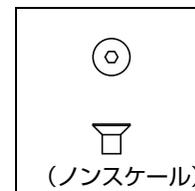
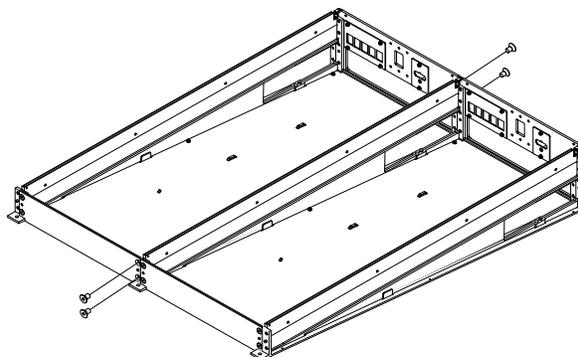


図19. 最初のシャーシの背面タイ・プレートと前面タイ・プレートを2番目のシャーシのサイド・ウォールに固定する（ケーブルは図に含まない）

10 サイド・ウォールとシャーシの底面プレートを固定するねじ（Phillips）、およびサイド・ウォールを背面タイ・プレートと前面タイ・プレートに固定するねじ（Hex）をすべてきつく締めます。

11 システムに脚部を設置する場合は、各シャーシと梁を固定するねじをきつく締めます。

128 フェーダー・システム（2シャーシ・システム）を組み立てている場合は、25ページの「後脚を取り付ける」に進みます。

13 それ以外の構成の場合は、上記のステップを繰り返して、フレーム・シャーシ・キットをすべて組み立ててから、次のセクションに進みます。

☰ システムにProducer's Desk オプションを設置する場合は、組み立てと設置の手順について、『Producer's Desk Guide』を参照してください。

図20に、組み立て終わった大型の4フレーム・シャーシ（24フェーダー・システム）を例示してあります。

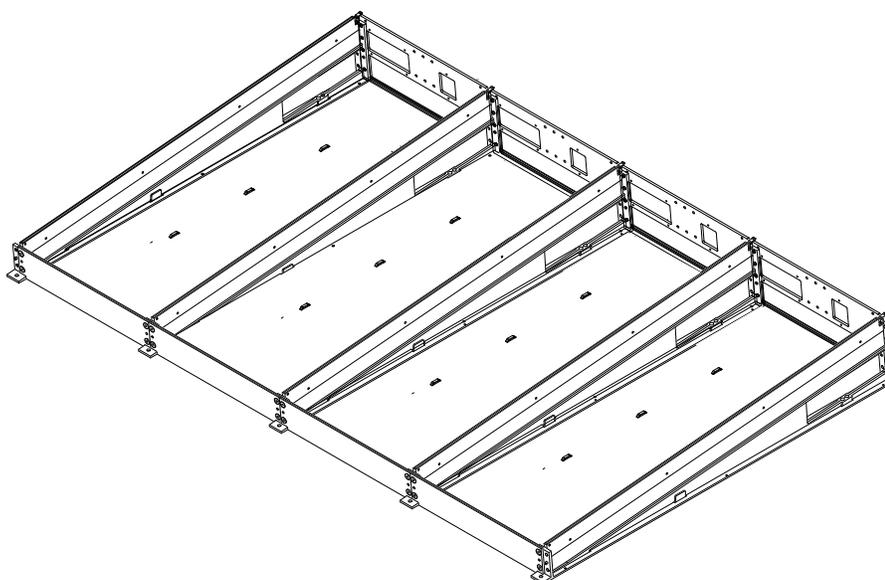


図20. 大型の4フレーム・シャーシ（ケーブルは図に含まない）

重要

- ▲** 幅がシャーシ5つ分以上あるS6デスクトップ・システム（32フェーダー以上）を持ち上げたり、移動したりしないでください。シャーシ5つ分以上の幅のS6システム（脚部を設置していない）を移動する必要がある場合は、各セクションの幅がシャーシ4つ分以下になるように、フレームを部分的に解体してください。詳しくは、付録A「S6の拡張または解体」を参照してください。

後脚を取り付ける

シャーシを組み立て終わったら、後脚を取り付けます。

- 各フレーム・シャーシ・キットに1つずつ、後脚が含まれています。
- サイド・カバー・キットには、後脚取り付け用スペーサー・バーが2つと、後脚がさらに1つ含まれています。

後脚取り付け用スペーサーを設置する

2つの後脚取り付け用スペーサーを設置するには：

- 1 サイド・カバー・キットに、後脚取り付け用スペーサー・バーが2つ含まれていることを確認します。

サイド・カバー・キットに含まれている後脚取り付け用スペーサー・バー

後脚取り付け用スペーサー	7600-31390-00
--------------	---------------

- 2 フレームの背面に立ち、留め具Hexを2つずつ使って、フレーム背面の左右の隅にスペーサー・バーを1つずつ取り付けます（図21を参照）。スペーサーの方向が正しいことを確認してください。

後脚取り付け用スペーサー・バーをサイド・ウォールに取り付けるための留め具と工具

留め具	M5x8 FHCS(7760-30553-00)
工具	M3 Hex

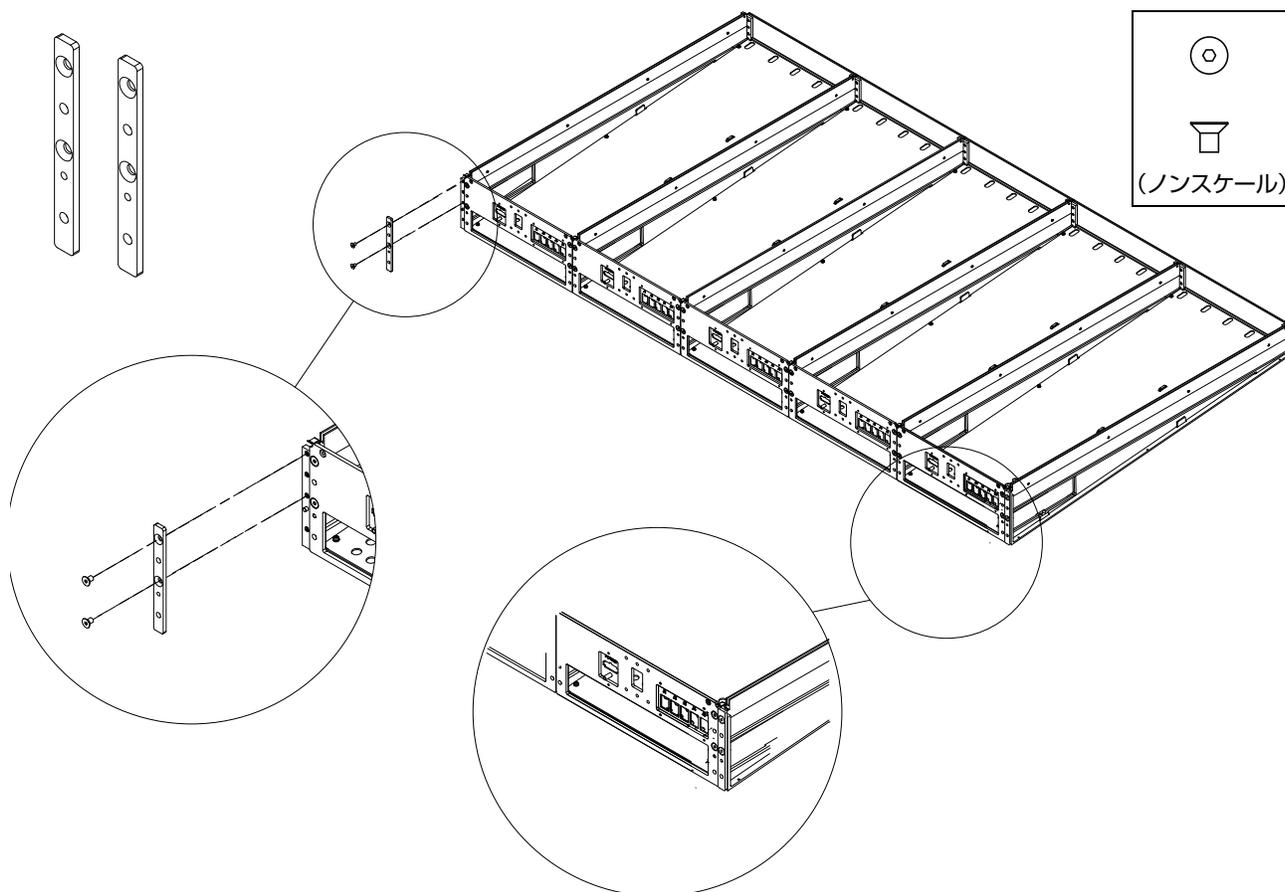


図 21. 後脚取り付け用スペーサー・バーを取り付ける、後脚取り付け用スペーサー・バー（左上）

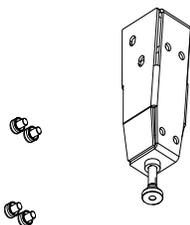
後脚を取り付ける

後脚を取り付けるには：

- 1 各フレーム・シャーシ・キットに含まれている後脚とねじを開封します。サイド・カバー・パッケージに、さらに後脚が含まれていることを確認し、開封します。

後脚

後脚と留め具	7020-38616-00
--------	---------------



後脚、取り付け用ブラケット、およびねじ

- 💡 後脚の数は、フレームのシャーシの数（幅）に1を加えた数です。たとえば、16フェーダーのS6システムのフレーム幅はシャーシ3つ分であるため、後脚は4つ（ $3+1=4$ ）必要です。同様に、32フェーダー・システムでは、後脚が6つ（ $5+1=6$ ）必要です。

- 2 プラス・ドライバー #2 Phillips（磁気チップのドライバーが推奨）と同梱のねじ #2 Phillips を使って、組み立てた脚をフレームの背面に取り付けます。脚の方向が正しいことを確認してから、フレームにしっかり固定してください。

後脚取り付け用ブラケットをシャーシに取り付けるための留め具と工具

留め具	M5x12 (7760-30554-00)
-----	-----------------------

- フレームの左端と右端にあるスペーサー・バーと、それに隣接する背面タイ・プレートに、脚を取り付けます（図 22 を参照）。

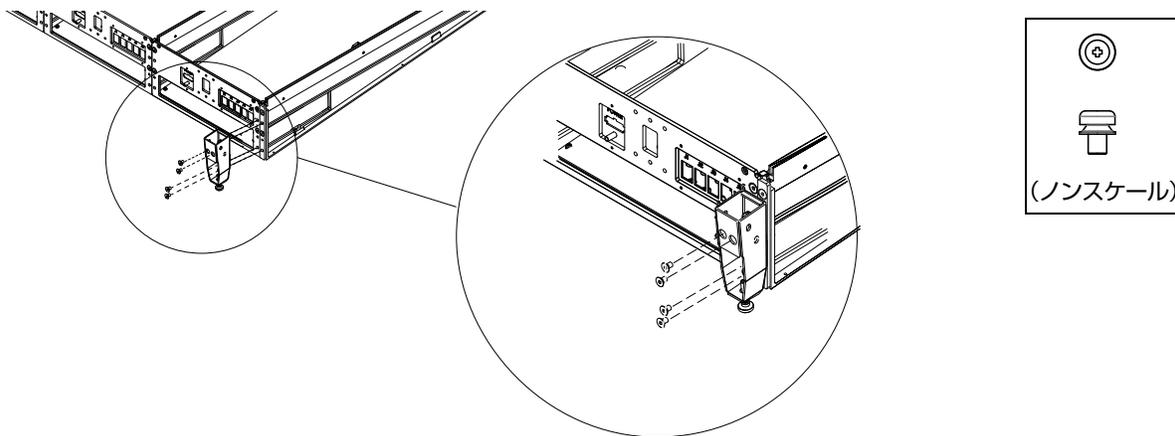


図 22. フレームの背面の端に後脚を取り付ける

- 💡 ねじ式の脚が邪魔で取り付け用ねじを回せない場合は、脚を何度か回して高くします。27 ページの「シャーシの高さを調節する」を参照してください。

- 残りの後脚をすべて、隣接する背面タイ・プレートに取り付けます（図 23 を参照）。

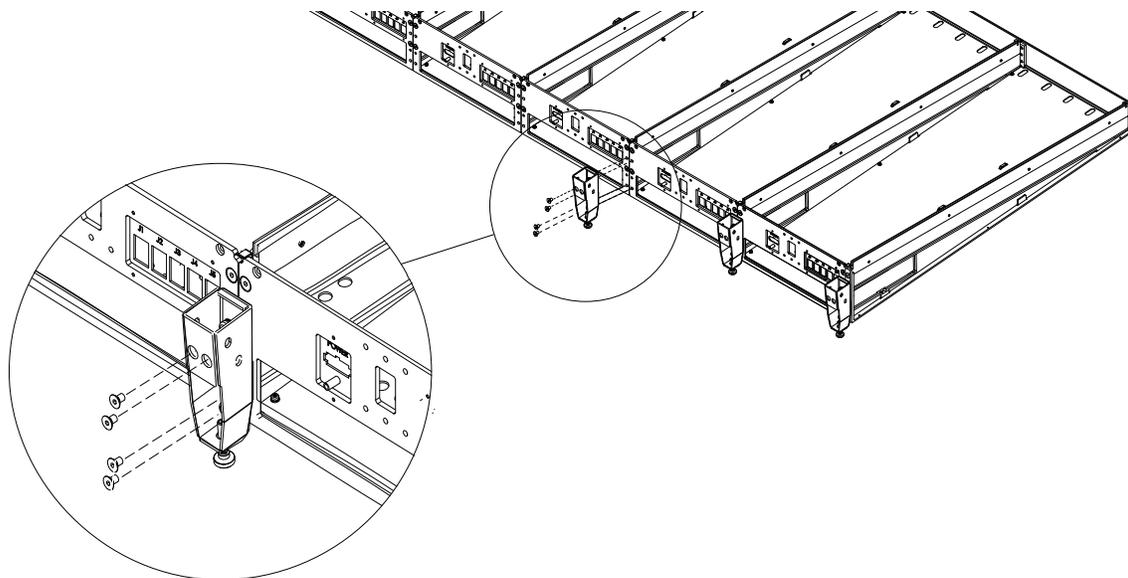


図 23. 後脚を2つの隣接する背面タイ・プレートに取り付ける

シャーシの高さを調節する

脚をフレームに取り付けたら、シャーシが水平であることを確認します。フレーム背面を支持する脚が1本でも短すぎたり長すぎたりした場合は、脚の長さを調節して、フレーム背面が水平になるようにしてください。脚を調節するには、M3六角ドライバーを使用します（図 24 を参照）

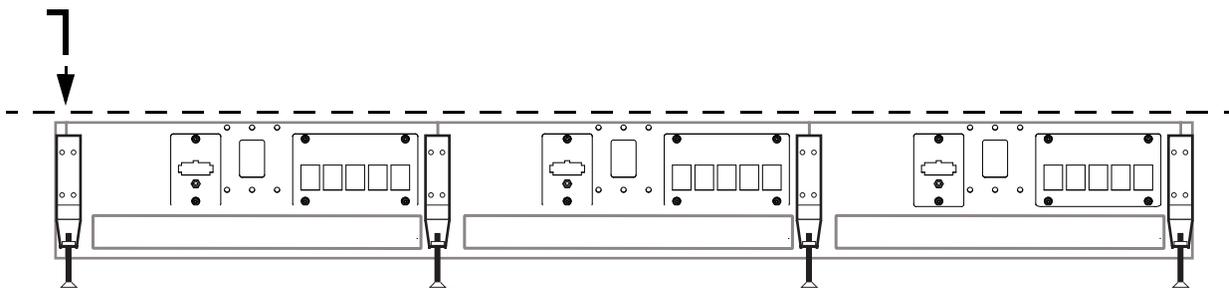


図 24. 後脚の高さを調整する

ボルスターを取り付ける

ボルスターとは、一体型の強化アーム・レストのことで、さまざまな構成の幅に対応します。この幅広のパッド付きレストは、作業域に快適性をもたらし、コントロール・サーフェスの前面に沿ったその一体型デザインによって、構造を補強します。

ボルスターは、フレームの前面のふちに引っ掛け、下から留め具で固定します。

ボルスターを取り付けるには：

- 1 ボルスターを確認し、開封します。このとき、留め具も含まれていることを確認してください。
- 2 ボルスター・パッケージには、電源ケーブルが含まれていることに注意してください。これらのケーブルは、PSU および Ethernet スイッチ用で、後から接続します。この時点では、これらは横に置いておきます。
- 3 ボルスターを両手で持ち上げます。大型のシステム（幅がシャーシ6つ以上のシステム）を設置するときには、2人以上で作業してください。
- 4 ボルスターの方向が正しいことを確認し、フレームの前面のふち上にある受け部に向けて注意深く下ろしていき、ボルスターを引っ掛けます（図 25 を参照）。
- 5 同梱の留め具 Hex を必要な数だけ下からねじ込んで、ボルスターをフレームに取り付けます。この時点ではまだ、留め具を完全に締めないでください。
- 6 すべての留め具をゆるく留めたら、最初の留め具に戻ってきつく締め、残りの留め具もきつく締めます。

ボルスターの留め具と工具

留め具	M5x10 BHCS(7760-30615-00)
工具	M3 Hex

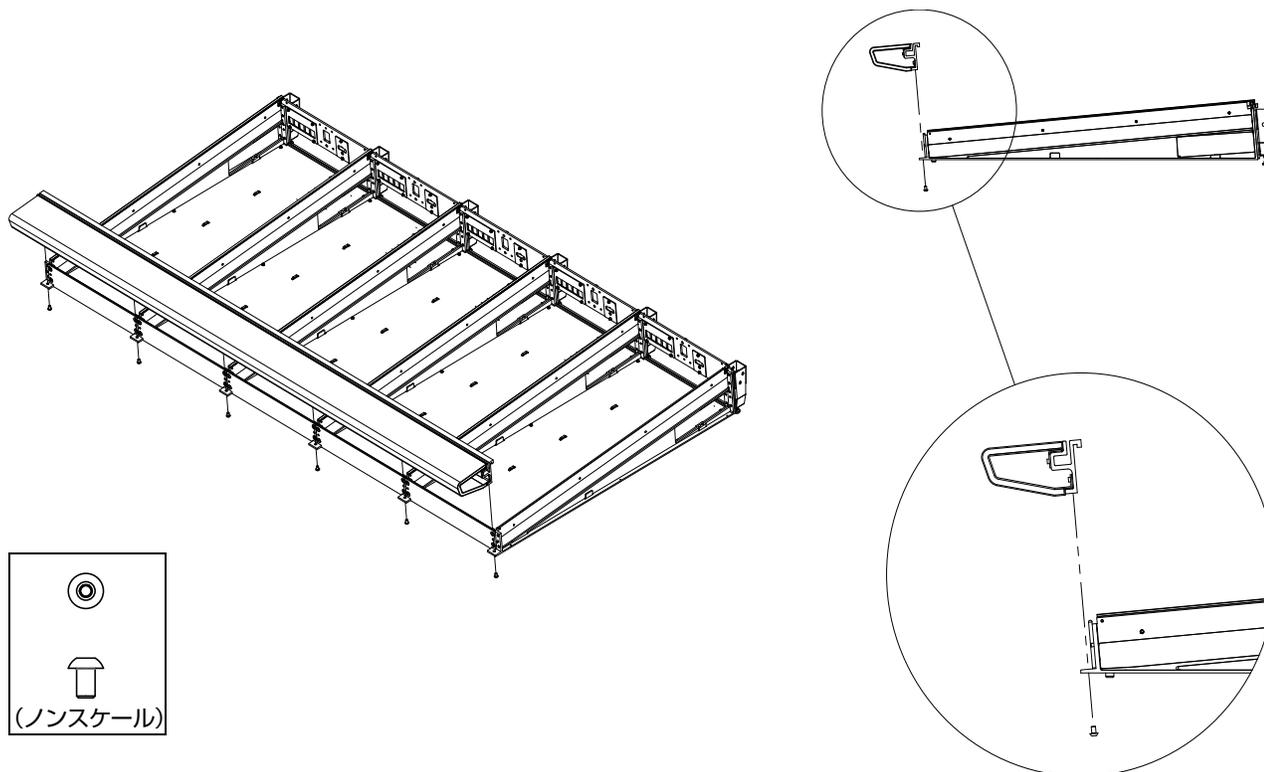


図 25. ボルスターを取り付ける

- ▲** どのようなサイズのシャーシでも、そのボルスター、サイド・カバー、またはリア・パネルを持って移動したり持ち上げたりしないでください（破損するおそれがあります）。移動したり持ち上げたりするときには、金属製シャーシ（フレーム）を持ってください。

ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットを設置する

システムにディスプレイ・モジュールを設置する場合は、下記の手順に従って、それらの取り付け用ブラケットを取り付けます。(ディスプレイ・モジュールは、後から取り付け用ブラケットに取り付けます。)

システムにディスプレイ・モジュールを設置しない場合は、30ページの「リア・パネル取り付け用ブラケットを設置する」に進みます。

システムに1つ以上のディスプレイ・モジュールを設置する場合は、以下の作業を行います。

- 1 S6ディスプレイ・モジュールをすべて開封し、それらの取り付け用ブラケットがあることを確認します。留め具はブラケットにテープ止めされた小さい袋に入っています。フラットヘッドの六角留め具を4つ使って、ブラケットをシャーシに取り付けます。残りの4つの丸型留め具は横に置いておきます(これらは後で、モジュールをブラケットに取り付けるときに使用します)。
- 2 フラットヘッドの六角留め具を4つ使って、最初のディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットを、各チャンネル・シャーシの背面タイ・プレートの中央にある4つの穴に取り付けます。ブラケットの方向が正しいことを確認してください(図26を参照)。ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットを、マスター・セクション・モジュールを設置する予定のシャーシに取り付けしないでください。

ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットの留め具と工具

留め具	M5x12 FHCS
工具	M3 Hex

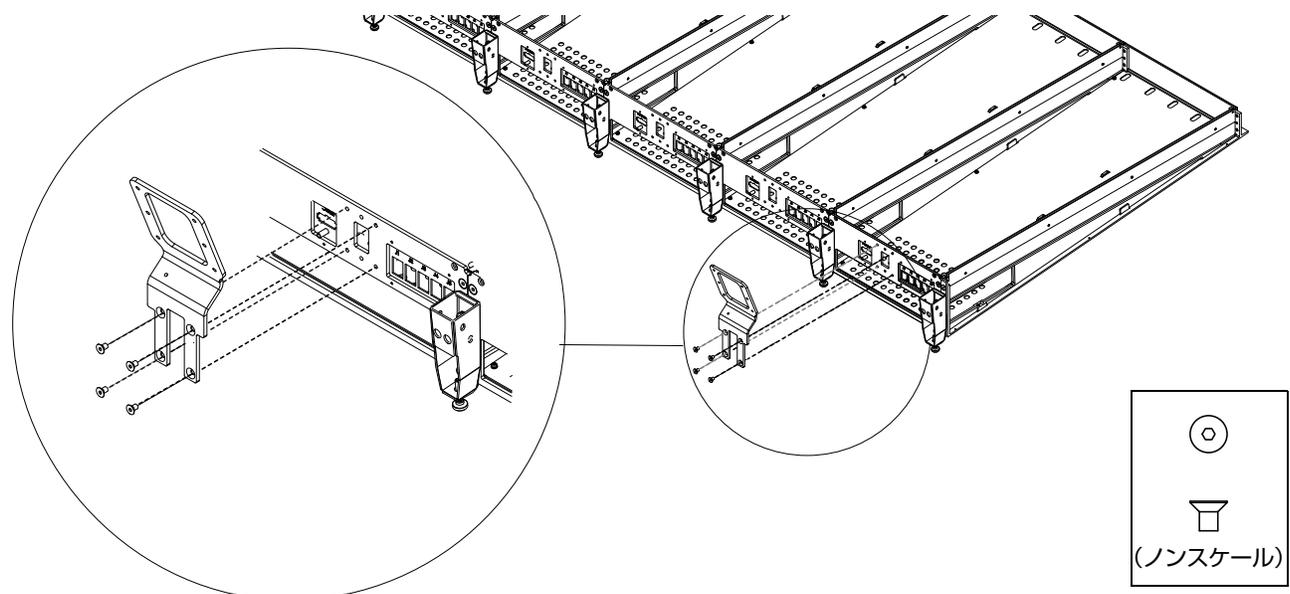


図 26. ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットを取り付ける

- 3 その他のディスプレイ・モジュールについても上記のステップを繰り返して、ブラケットを各チャンネル・シャーシの背面に取り付けます。
- 4 この時点では、ディスプレイ・モジュールはまだ取り付けません。ディスプレイ・モジュールは後から取り付け用ブラケットに取り付けます。

リア・パネル取り付け用ブラケットを設置する

リア・パネルはケーブルを支持し、隠します。リア・パネルは、フレームに取り付ける下部のブラケット部分と、ブラケットに取り付ける上部のヒンジ付きカバーの2つの部分から成ります。上部のカバーには、ディスプレイ・モジュールの電源および Ethernet を通せるように角に切り欠きがあり（ただし、ディスプレイ・モジュールを設置するシステムの場合）、S6オプション(スピーカー・ブリッジ、VESAモニター・マウントなど)を支持するための切り欠きがあります。

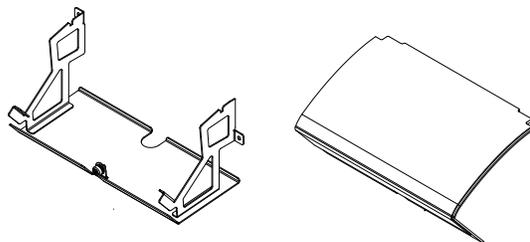


図 27. リア・パネルの下部の取り付け用ブラケット（左）と上部のカバー（右）。留め具、ディスプレイ・モジュール・フィラー、および切り欠きは図に含まない。

リア・パネル取り付け用ブラケットを設置するには：

- 1 リア・パネルの下部のブラケットとその留め具を開封します（各ブラケットに六角留め具とワッシャーを2つずつ使います）。
- 2 フレームの背面に立ち、留め具（六角）とワッシャーを使って、左端の2つのシャーシの背面タイ・プレートにリア・パネル・ブラケットを1つ取り付けます。図 28 に、シャーシへの取り付け方法を示してあります。

リア・パネル取り付け用ブラケットの留め具、ワッシャー、および工具

留め具	M5x8 SHCS(7760-30593-00)
ワッシャー	M5 WSHR
工具	M4 Hex

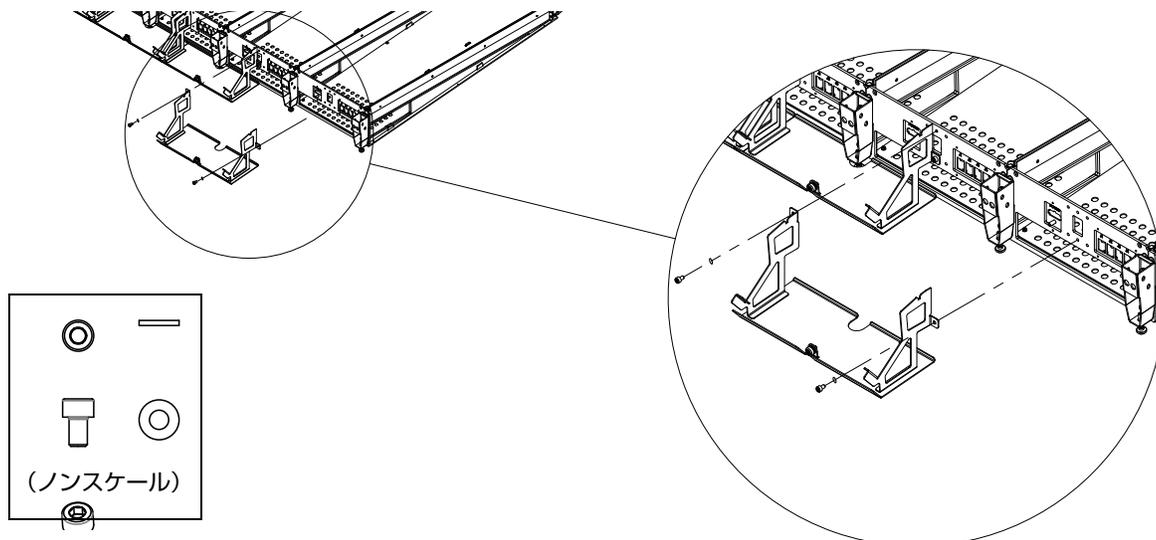


図 28. リア・パネル取り付け用ブラケットの設置

留め具をきつく締める前に、トレイ下部のへりがシャーシ背面の下端に対して平らになっていることを確認します（へりがシャーシの端に乗っていないこと、またはシャーシの端の下に引っ掛かった状態になっていないこと）を確認します（図 29 を参照）。

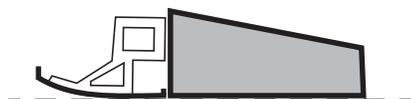


図 29. リア・パネルとシャーシ背面の適切な位置関係を示す側面図

- 3 この時点では、上部カバーはまだ取り付けません。上部カバーは、ケーブルを配線してから、下部の取り付け用ブラケットに取り付けます。

サイド・カバーを設置する

サイド・カバー（左側用1つと右側用1つ）は、フレームに取り付ける取り付け用プレートと、シャーシの内側から取り付け用プレートに取り付けて固定する外側パネルの2つの部分から成ります。

サイド取り付け用プレートを取り付ける

サイド取り付け用プレートを取り付けるには：

- 1 サイド・カバー・パッケージを開封し、左側と右側のサイド取り付け用プレートおよびそれらの留め具があることを確認します。
- 2 左側のサイド取り付け用プレートを、方向が正しいことを確認してから、同梱のフィリップス丸型ねじを使ってフレームの左側に固定します（図 30を参照）。

サイド取り付け用プレートの留め具と工具

留め具	M4x14 SEMS (7760-30610-00)
工具	#2 Phillips

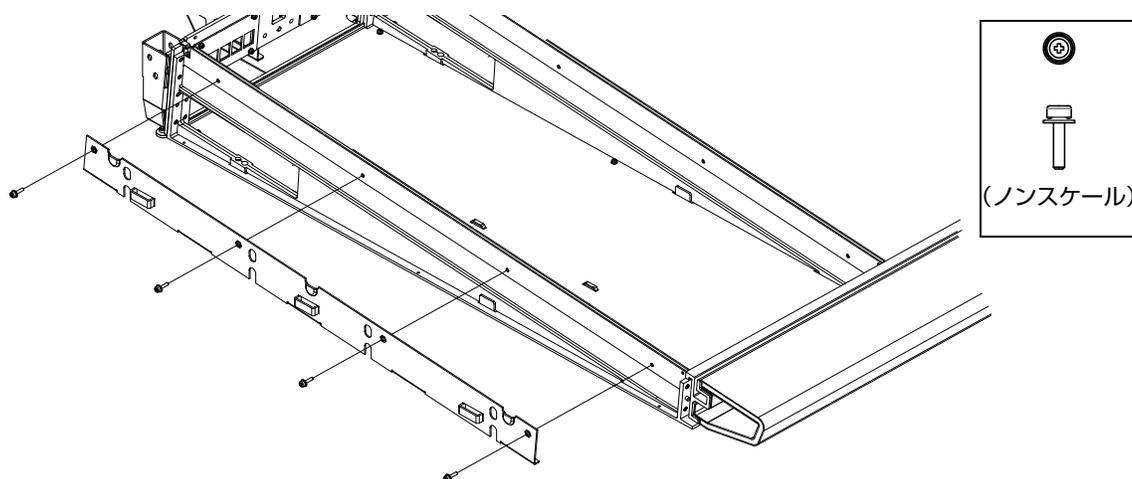


図 30. 左側のサイド・パネル取り付け用プレートを取り付ける

- 3 右側のサイド取り付け用プレートを、方向が正しいことを確認してから、フレームの右側に固定します（図 31を参照）。

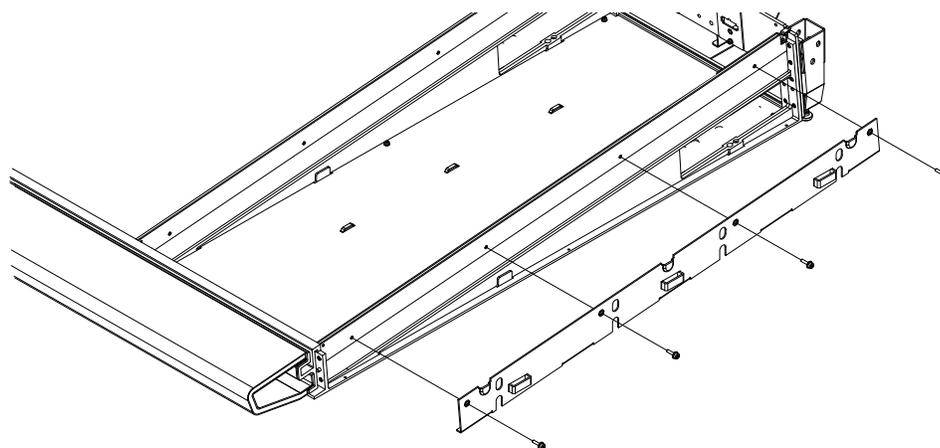


図 31. 右側のサイド・パネル取り付け用プレートを取り付ける

- 4 この時点では、外側のサイド・カバーはまだ取り付けません。外側のサイド・カバーは、ケーブルを配線してから取り付けます。

作業の進め方

システムのフレームを形成するシャーシを組み立てたら、第 5 章「テーブルトップ、PSU、スイッチ、およびケーブルを設置する」に進みます。

III部：モジュール

第5章：テーブルタップ、PSU、スイッチ、およびケーブルを設置する

この章では、テーブルタップ、Ethernetスイッチ、電源ユニット（PSU）を設置する方法、同梱のケーブル・セットを使ってシステム全体にEthernetをつなぐ方法、およびPSUとスイッチに電源をつなぐ方法について説明します。

第1章で推奨したとおりに、テーブルタップ、Ethernetスイッチ、PSU、およびケーブル・セットが含まれているパッケージを確認し、整理しておきます。

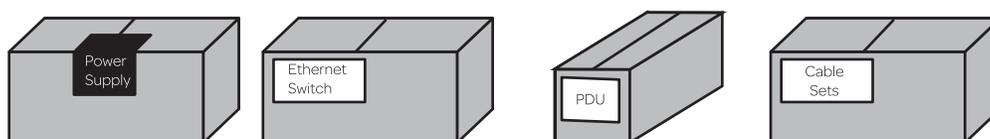


図 1. 電気部品のパッケージ（左から順に、電源、Ethernetスイッチ、テーブルタップ（PDU）、およびケーブルセット）。パッケージのタイプおよび数は、構成に応じて異なる。

概要

基本ステップは以下のとおりです。

- 1 テーブルタップを設置します（36ページの「テーブルタップを設置する」を参照）。
- 2 37ページの「システム構成に応じた Ethernet スイッチと PSU の配置」の説明を参照し、構成に応じてスイッチと PSU の配置を決めます。
- 3 該当するシャーシに Ethernet スイッチを設置します（40ページの「Ethernet スイッチを設置する」を参照）。
- 4 該当するシャーシに PSU を設置し（41ページの「PSU を設置する」を参照）、同梱の固定用ブラケットを使って固定します。
- 5 専用 AC 電源ケーブル（同梱）を Ethernet スイッチおよび PSU につなぎます（40ページの「Ethernet スイッチを設置する」を参照）。この時点ではまだ、電源ケーブルをテーブルタップにつながないでください。
- 6 Ethernet スイッチを各シャーシにつなぐためのケーブルセットを接続してから、ワークステーション用の単一 Ethernet ケーブルを接続します（44ページの「ケーブルの設置と接続」を参照）。
- 7 すべての Ethernet ケーブルを接続したら、スイッチ用および PSU 用の AC ケーブルをテーブルタップにつなぎます。
- 8 Ethernet スイッチ固定用ブラケットを取り付けて、シャーシに固定します。

テーブルタップを設置する

テーブルタップは、リア・パネル・ブラケットを横切るようにフレームの中心の後ろ側に置きます。

テーブルタップを設置するには：

- 1 フレーム背面の中央に立ち、テーブルタップをリア・パネル・ブラケットの上に置きます。このとき、ブラケットの傾斜するアームの上に収まるように置きます（図2を参照）。テーブルタップのソケットは、表側を上にしてフレームの前面に沿って置きます。

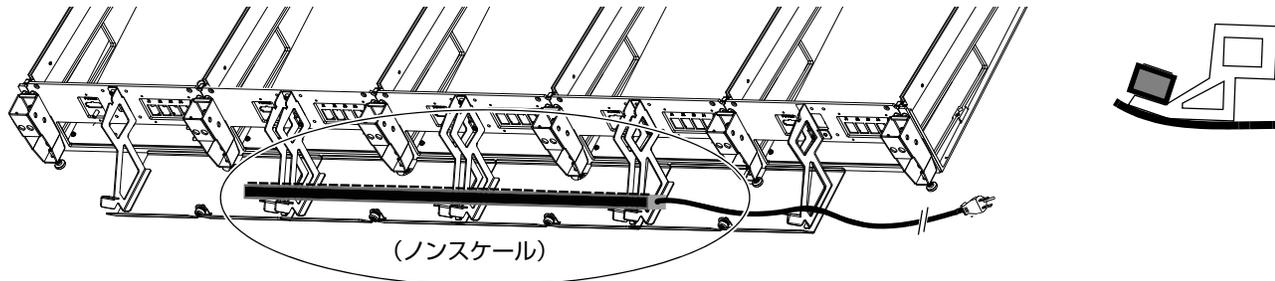


図2. リア・パネル・ブラケットの上に置いたテーブルタップの背面図（左）と側面図（右）

- 2 テーブルタップのACケーブルを、フレームの背面沿いに左端または右端まで通します。この時点ではまだ、電源コンセントにつながないでください。

システム構成に応じた Ethernet スイッチと PSU の配置

図 3 に、32 フェーダー（シャーシ 5 つ分の幅）のシステムにおけるスイッチと PSU の配置例を示してあります。

Ethernet スイッチの配置を決めたら、構成およびフレームの奥行きに基づいて以下のガイドラインを確認します。

- 奥行きが深いフレーム（大型フレーム・シャーシ）を組み立てる場合は、Ethernet スイッチを中央のシャーシ、またはフレームの中央付近に設置します（以降のページの図を参照）。
- 奥行きが浅いフレーム（小型フレーム・シャーシ）を組み立てる場合は、Ethernet スイッチをマスター・セクション・モジュールと同じシャーシ内に配置する必要があります。奥行きが浅いフレームの場合、フレーム内のマスター・セクションの位置（左端から右端までの任意の位置）によっては、図に示されているスイッチおよび PSU の位置が適切でないことがあります。Ethernet スイッチをマスター・セクション・モジュールと同じシャーシに設置していることを確認してから、その他のガイドラインに従って PSU の設置場所を決めます。すべてのシステムに、スイッチとすべてのシャーシをつなぐのに十分な長さのケーブル・セットが含まれています。
- 単体の PSU は、各シャーシに 1 つずつ設置しますが、Ethernet スイッチと同じシャーシ内には配置しないでください。ペアの PSU は、Ethernet スイッチの隣りのシャーシに配置します。

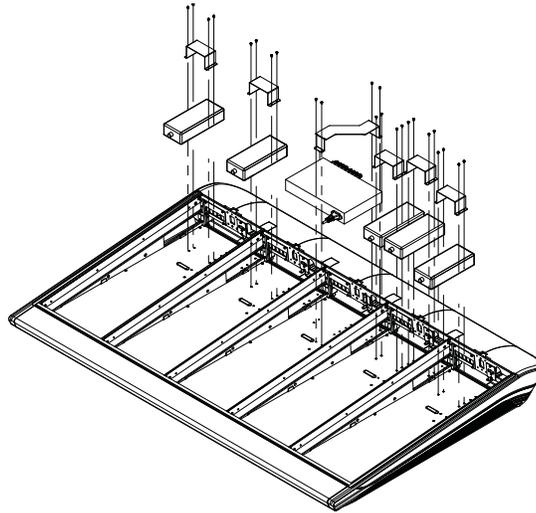


図 3. 32 フェーダー・システムにおける PSU、Ethernet スイッチ、および固定用ブラケットの配置例（ケーブルは図に含まない）

以下のページの図では、Avid による事前構成およびカスタム構成における PSU と Ethernet スイッチの配置場所を示しています。

- システムに Producer's Desk オプションを設置する場合は、スイッチ、PSU、およびケーブル配線の手順について、『Producer's Desk Guide』を参照してください。

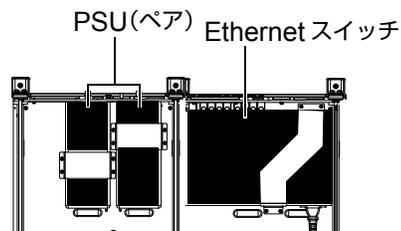
Avid 事前構成 S6 システムにおけるスイッチと PSU の配置

以下の図では、Avid 事前構成 S6 システムで使用可能な幅のフレームに応じたスイッチと PSU の配置を示します。このシステムで使用可能なフレームのサイズは、8 フェーダー / 2 シャーシ (S6 M10-8-5 など) ~ 32 フェーダー / 5 シャーシ (M40-32-9-D など) です。大規模 (カスタム) 構成の場合は、第 5 章「テーブルトップ、PSU、スイッチ、およびケーブルを設置する」を参照してください。

最初にユニットをシャーシ内に置いて、電源ケーブルをつなぎます。ユニットを設置したら、40 ページの「Ethernet スイッチを設置する」に進みます。

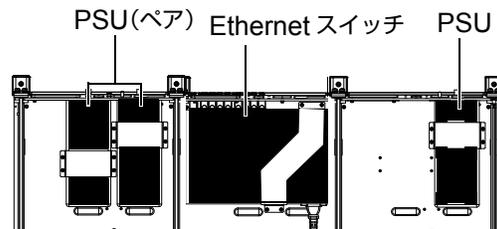
- ▲ 奥行きが浅いフレーム (小型フレーム・シャーシ) を組み立てる場合は、Ethernet スイッチをマスター・セクション・モジュールと同じシャーシ内に配置する必要があります。奥行きが浅いフレームの場合、フレーム内でのマスター・セクションの位置 (左端から右端までの任意の位置) によっては、図に示されているスイッチおよび PSU の位置が適切でないことがあります。Ethernet スイッチをマスター・セクション・モジュールと同じシャーシに設置していることを確認してから、その他のガイドラインに従って PSU の設置場所を決めます。すべてのシステムに、スイッチとすべてのシャーシをつなぐのに十分な長さのケーブル・セットが含まれています。

2 シャーシ・システム



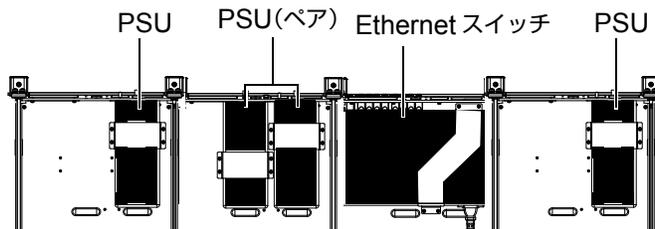
2 シャーシ、8 フェーダー・システムにおける Ethernet スイッチと PSU の配置 (ケーブルは図に含まない)

3 シャーシ・システム



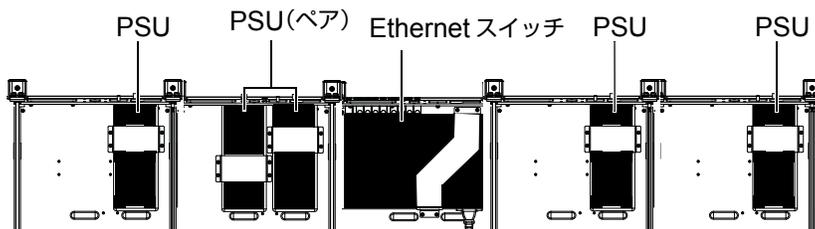
3 シャーシ、16 フェーダー・システムにおける Ethernet スイッチと PSU の配置 (ケーブルは図に含まない)

4 シャーシ・システム



4 シャーシ、24 フェーダー・システムにおける Ethernet スイッチと PSU の配置 (ケーブルは図に含まない)

5 シャーシ・システム



5 シャーシ、32 フェーダー・システムにおける Ethernet スイッチと PSU の配置 (ケーブルは図に含まない)

カスタム S6 構成におけるスイッチと PSU の配置

以下の図では、幅がシャーシ 6 つ分以上あるシステムにおけるスイッチと PSU の配置例を示します。お使いのフレーム・サイズの図を参照してユニットを設置し、固定してから、44 ページの「ケーブルの設置と接続」に進んでください。

☞ システムに Producer's Desk オプションを設置する場合は、スイッチ、PSU、およびケーブル配線の手順について、『Producer's Desk Guide』を参照してください。

6 シャーシ・システム

図 4 は、24 ポート Ethernet スイッチが 1 つ必要な 6 シャーシ・システムの例 (M40-40-5 など) です。

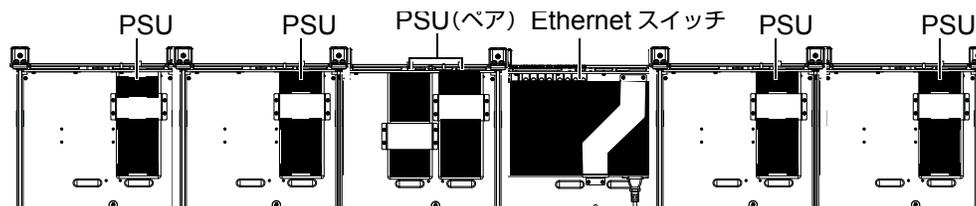


図 4. Ethernet スイッチが 1 つ必要な 40 フェーダー・システムにおけるスイッチと PSU の配置

図 5 は、6 シャーシ・システムのもう 1 つの例 (M40-40-9-D など) です。この構成では、Ethernet スイッチを 2 つ使用しています。

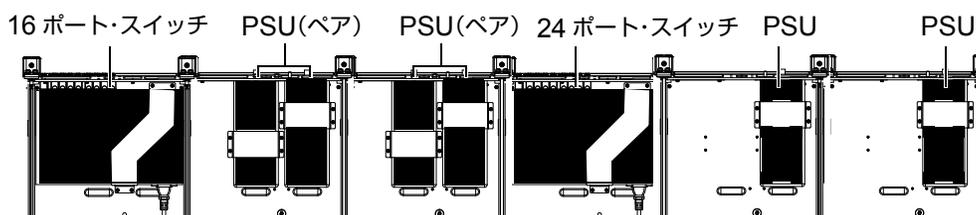


図 5. Ethernet スイッチを 2 つ使用する 40 フェーダー・システムにおけるスイッチと PSU の配置。シャーシ 1 (左端) に 16 ポート・スイッチ、シャーシ 4 に 24 ポート・スイッチを設置。

7 シャーシ・システム

図 6 は、7 シャーシ・システムの例 (M40-48-9-D など) です。この構成では、16 ポート・スイッチと 24 ポート・スイッチを 1 つずつ使用しています。

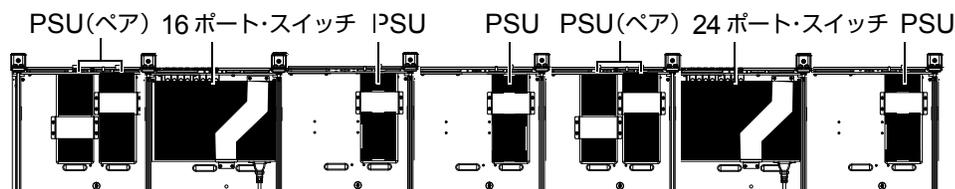


図 6. Ethernet スイッチが 2 つ必要な 48 フェーダー・システムにおけるスイッチと PSU の配置。シャーシ 2 に 16 ポート・スイッチ、シャーシ 6 に 24 ポート・スイッチを設置。

9 シャーシ・システム

図 7 は、9 シャーシ・システムの例 (M40-64-9 など) です。この構成では、16 ポート・スイッチと 24 ポート・スイッチを 1 つずつ使用しています。

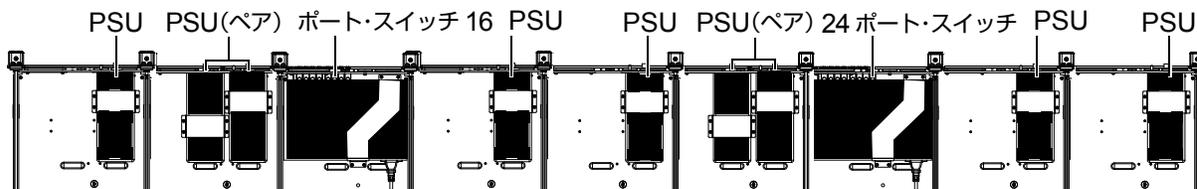


図 7. Ethernet スイッチが 2 つ必要な 64 フェーダー・システムにおけるスイッチと PSU の配置。シャーシ 3 に 16 ポート・スイッチ、シャーシ 4 に 24 ポート・スイッチを設置。

図 8 は、9 シャーシ・システムのもう 1 つの例 (M40-64-9-D など) です。この構成では、24 ポート・スイッチを 2 つ使用しています。

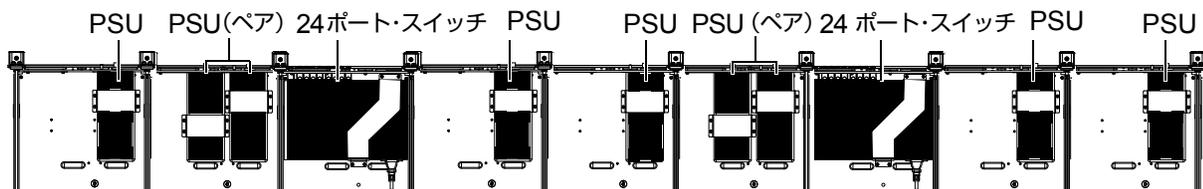


図 8. 24ポートEthernetスイッチを2つ使用する64フェーダー・システムにおけるスイッチとPSUの配置。シャーシ1とシャーシ7に1つずつスイッチを設置。

Ethernetスイッチを設置する

システムの許容量（ポート数）およびスイッチの数は、システム内のシャーシとモジュールの数に応じて決まります。シャーシとモジュールの数が少ないシステムでは、16ポート・スイッチが1つしか必要ではありませんが、それより大規模なシステムでは、24ポート・スイッチが必要です。また、大規模なシステム（モジュール23個以上）では、Ethernetスイッチが2つ必要です。Ethernetスイッチは、特定のシャーシに設置し、同梱されている固定用ブラケットに固定します。

☰ システムにProducer's Desk オプションを設置する場合は、スイッチ、PSU、およびケーブル配線の手順について、『Producer's Desk Guide』を参照してください。

Ethernetスイッチを設置するには：

- 1 Ethernetスイッチ、同梱のEthernetケーブル、および留め具付き固定用ブラケットを開封します。Ethernetスイッチの箱に含まれているスイッチには標準電源ケーブルが付属していますが、ボルスター・パッケージに含まれている別の電源ケーブル（C14タイプ）を1本使用する必要があります。
- ⚠ Ethernetスイッチの箱に含まれている電源ケーブルは使用しないでください（これは標準のIECコネクタ・オスであるため、S6テーブルタップでは使用できません）。
- 2 同梱されている脚部をEthernetスイッチの底面に取り付けます。（とても重要です）
- 3 構成に応じたスイッチとPSUの配置場所については、37ページの「システム構成に応じたEthernetスイッチとPSUの配置」の図を参照してください。
- 4 構成に従って配置を決めたら、該当するシャーシにEthernetスイッチを設置するため、以下の作業を行います。
 - 必要に応じて、背面タイ・プレート内にある端末ポートから電源ハーネスを外します（図9を参照）。

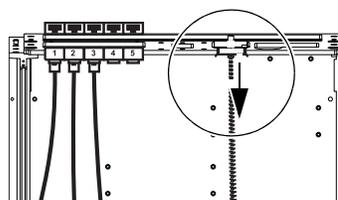


図 9. 電源ハーネス（Ethernetスイッチを設置する前に外れていることを確認）

- ポートがフレームの背面側にくるように、つまり、背面タイ・プレートの横長の開口部からポートが見えるように、シャーシ内にスイッチを配置します（図10を参照）。

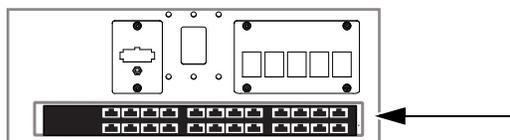


図 10. Ethernetスイッチを設置したシャーシの背面図

Ethernetスイッチに電源をつなぐ

Ethernetスイッチに電源をつなぐには：

- 1 Ethernetスイッチに付属しているAC電源ケーブル・オスを、スイッチから抜いて横に置いておきます。
- 2 別のAC（C14）電源ケーブルが、ボルスター・パッケージに含まれていることを確認します。
- 3 スwitchの端子を背面タイ・プレートの開口部から入れて、Ethernetスイッチに接続します。
 - 小型フレーム・シャーシを組み立てている場合は、電源ケーブルをスイッチの下に配置する必要があります（電源ケーブルがぴったり収まります）。
- 4 もう一方の端子を、この章の冒頭で設置したテーブルタップに接続します。
- 5 システムにEthernetスイッチを2つ設置する場合は、もう1つのスイッチについて、上記のステップを繰り返します。
- 6 固定用ブラケットを横に置いておきます（すべてのケーブルを配置した後で設置します）。

PSUを設置する

各シャーシには、モジュールの電源を供給するために、PSUが1つずつ必要です。PSUは単体またはペアで設置し、固定用ブラケットを使って固定します（各シャーシ・パッケージに固定用ブラケットが1つずつ同梱されています）。

PSUを設置するには：

- 1 すべてのPSUを開封し、ボルスター・パッケージに同梱されている専用のACケーブルをまとめておきます。
 - 2 単体のPSUは、各シャーシに1つずつ配置しますが、Ethernetスイッチと同じシャーシ内には配置しないでください。ペアのPSUは、Ethernetスイッチの隣のシャーシに配置します。さらに：
 - PSUは、ビルトイン・ケーブル・ハーネスの下または間（上ではない）に配置します。
 - DCケーブルがフレームの前面を向いていること、およびACソケットがフレームの背面を向いていることを確認します。
- 37ページの「システム構成に応じたEthernetスイッチとPSUの配置」の図を参照し、構成に応じてスイッチとPSUの配置を決めます。
- 3 DCケーブルを背面タイ・プレートのもっとも大きい開口部から引き出します。
 - 4 図11を参照し、固定用ブラケットを使ってPSUを固定します（各シャーシ・キットに留め具付き固定用ブラケットが1つずつ同梱されています）。

PSU固定用の留め具と工具

留め具	M3x6 SEMS
工具	#1 Phillips

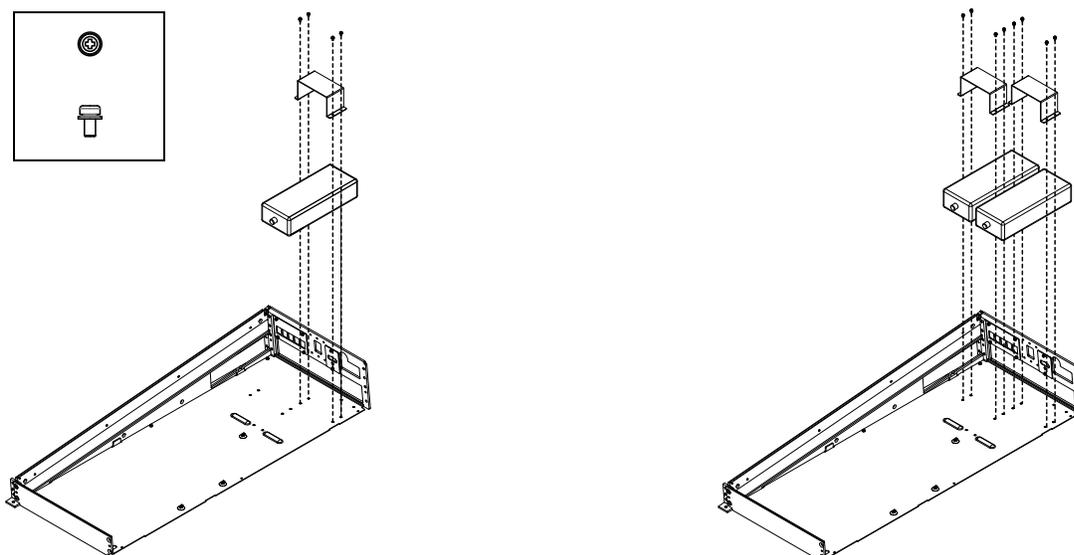


図 11. 単体のPSUと固定用ブラケットの設置(左)、ペアのPSUと固定用ブラケットの設置(右)。ケーブルとウォールは図に含まない。

電源ケーブルを PSU に接続する

電源を PSU に接続するには：

- 1 各 PSU の DC 電源ケーブルを背面タイ・プレートの開口部からまだ引き出していない場合は、引き出します (図 12 を参照)。

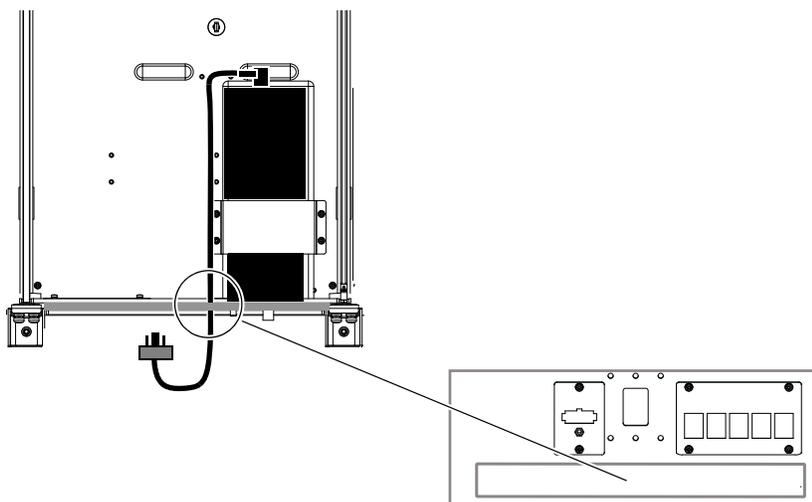


図 12. 背面タイ・プレートを通した電源ケーブル端子

- 2 ケーブル端子をシャーシの背面から、背面タイプ・プレート上の電源端子コネクタにつなぎます (図 13 を参照)。小型のマイナス・ドライバーを使って、プラグを端末に固定します。

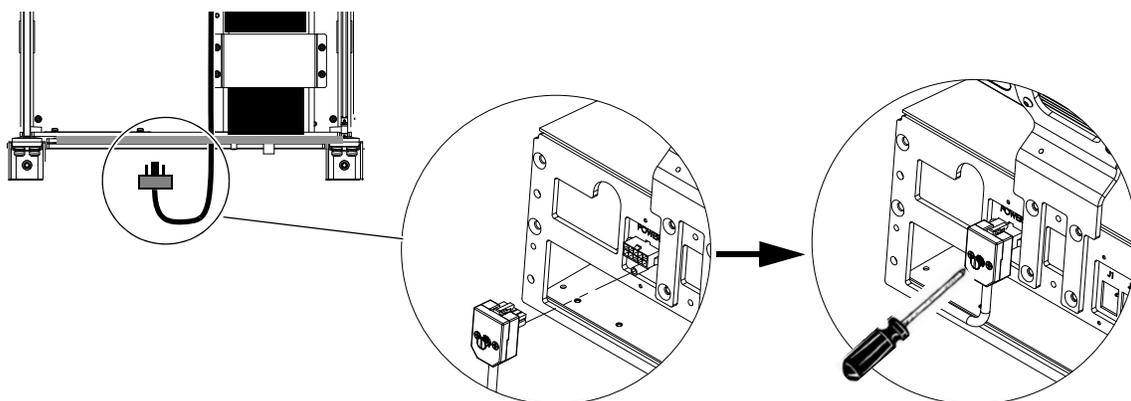


図 13. ケーブル端子を背面タイ・プレートに接続

- 3 以下の作業を行って、Ethernet スイッチを設置したシャーシに電源をつなぎます (図 14 を参照)。
 - ペアの PSU を設置したシャーシで、2 番目の PSU の DC ケーブルを、背面タイ・プレートのもっとも大きい開口部から引き出した後、スイッチを設置したシャーシまで伸ばします。
 - 端子を、そのシャーシの背面タイ・プレートにある電源端子コネクタにつなぎ、マイナス・ドライバーを使って固定します。

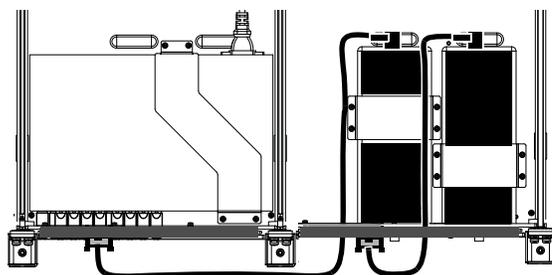


図 14. Ethernet スイッチを設置したシャーシに電源ケーブルをつなぐ

- 4 電源ケーブルが、各 PSU の箱およびボルスター・パッケージに含まれていることを確認します。
- 5 ボルスター・パッケージから取り出した電源ケーブルの該当する端子を PSU につなぎます（すべての PSU に対してこのステップを繰り返します）。
- 6 それらの AC ケーブルのもう一方の端子を、各背面タイ・プレートの開口部に通し、リア・パネル上部のケーブル・ガイド開口部（四角形の開口部）に通します（図 15 を参照）。

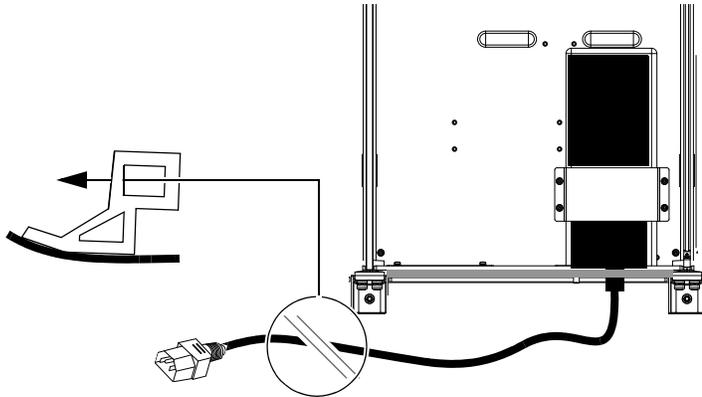


図 15. ケーブルを背面タイ・プレートに通し、PSU につなぐ（Ethernet スイッチは図に含まない）

- 7 各 PSU の AC ケーブルを、この章の冒頭で設置したテーブルタップの利用可能なソケットに挿します。

各シャーシへ電源ケーブル・ハーネスを接続し直す

Ethernet および PSU のすべての電源ケーブルをつないだら、各電源ハーネスをシャーシ電源端子に接続し直します（図 16 を参照）。

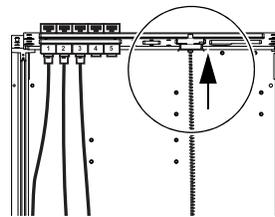


図 16. 電源ハーネスを接続し直す（スイッチと PSU は図に含まない）

ケーブルの設置と接続

Ethernet スイッチおよび PSU を設置したら、次にケーブル・セットを設置します。

ケーブル・セット

ケーブル・セットは、Ethernet スイッチと各シャーシを接続する Ethernet ケーブルのバンドルです。ケーブルにはラベル（1～5）が付けられており、ケーブルと接続を識別および編成できるようになっています。ケーブル・セットには、長さが異なる小、中、大のセットがあり、フレーム構成に応じて組み合わせて使うことができます。

大 シャーシ3つ分の長さがあるケーブル

中 隣のシャーシまで届く長さのケーブル

小 Ethernet スイッチを設置したシャーシ内で Ethernet を提供するための短いケーブル

単一 単一の Ethernet ケーブル（紫色）は、ワークステーションにスイッチを接続するため、またはネットワークに接続するために提供されています。

 2つの Ethernet スイッチが必要なシステムでは、その2つのスイッチをつなぐためのケーブルが1つ追加が必要となります。

ケーブル・セットを設置する

ケーブル・セットを設置するには：

- 1 システムに同梱されているすべてのケーブル・セットを開封し、確認します。ケーブル・セットは、長さ（小、中、大）に応じて色分けされています。
- 2 Ethernet スイッチを設置したシャーシの背面に立ち、最初のケーブル・セットのケーブル1～5を、背面タイ・プレートのスロットから、Ethernet スイッチのポートにつなぎます（図 17を参照）。その際の注意事項を以下に示します。
 - マスター・セクションのシャーシに必要な Ethernet 接続は 3 つのみであるため、このシャーシには 3 本のケーブルを接続します。
 - 奥行が浅いフレーム（小型フレーム・シャーシ）を組み立てている場合、各シャーシに必要な Ethernet ケーブル接続は 4 つのみです。使用しなかった残り 1 本の Ethernet ケーブルは、スイッチおよびシャーシに接続しなくて構いません。

使用するスイッチ・ポートは、距離、特定のしやすさ、個人的好みなどを基に最適なものを選んでください。一番下の列から順に使用していくと、後から別のケーブル・セットをつなぐときに作業しやすくなりますが、それぞれの構成に応じた最適な配置方法があります。

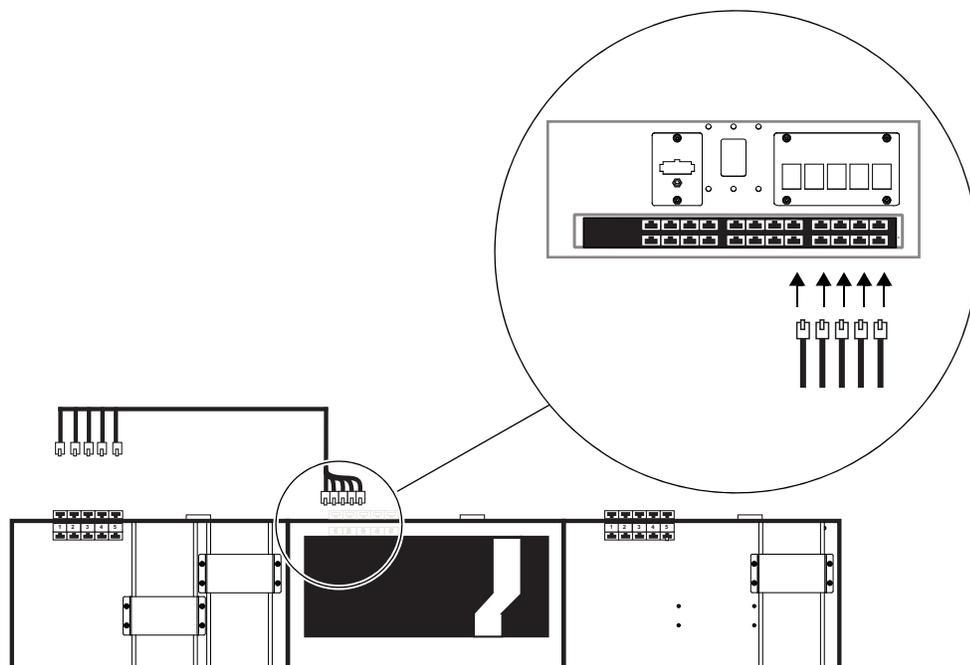


図 17. 最初のケーブル・セットを Ethernet スイッチにつなぐ様子を示した上面図（左下）、およびシャーシの背面図（右上）

- 3 ケーブル・セットをリア・パネル・ブラケット下部にある三角形のケーブル・ガイドに通し、もっとも離れたシャーシ（左端または右端）まで伸ばします（図 18を参照）。（シャーシ4つ以上の幅のシステムの場合は、46ページの「大規模構成にケーブル・セットを設置する」を参照してください。）
- 4 ケーブルの反対側（1～5）を、シャーシの背面にある Ethernet 端子ポート（1～5）につなぎます。

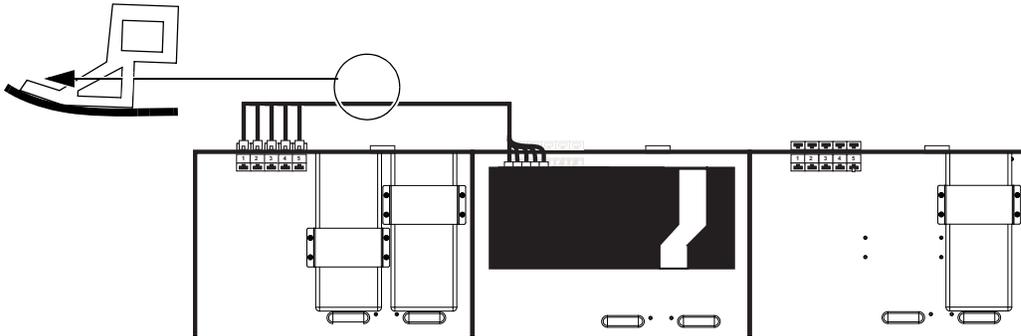


図 18. 最初のケーブル・セットを最初（左端）のシャーシの Ethernet 端末ポートにつなぐ

- 5 残りのケーブル・セットとシャーシ（ただし、Ethernet スイッチを設置したシャーシは除く）について、上記のステップを繰り返します（図 19を参照）。
 - 次のセットのケーブル 1～5 を Ethernet スイッチにつなぎます。
 - そのケーブル・セットをリア・パネル取り付け用ブラケットの三角形のケーブル・ガイドに通し、次のシャーシまで伸ばします。
 - ケーブル・セットのケーブル 1～5 を各シャーシの Ethernet 端末ポート 1～5 につなぎます。

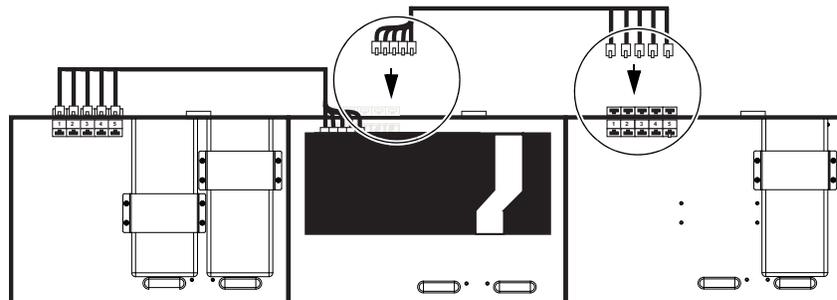


図 19. 次のケーブル・セットを右端のシャーシの Ethernet 端末ポートにつなぐ

- 6 Ethernet スイッチを設置したシャーシの場合は、ケーブル・セット小を使い、ケーブル 1～5 を Ethernet スイッチの使用可能なポートにつなぎ、それらの反対側をシャーシの端末ポート 1～5 につなぎます。

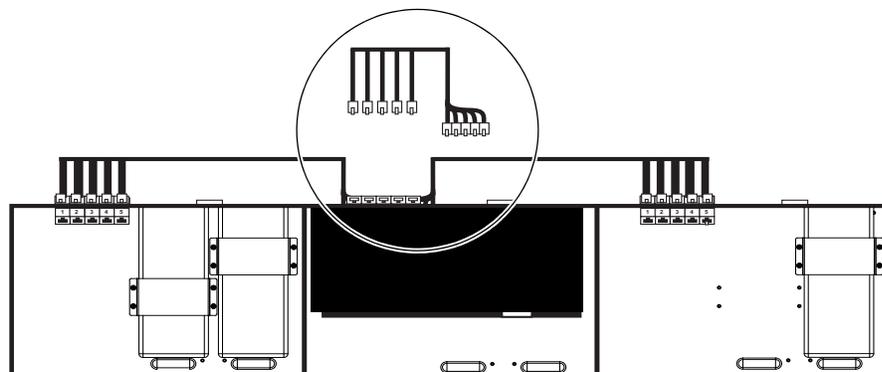


図 20. ケーブル・セット小を、スイッチ・シャーシの背面にある Ethernet 端末ポートにつなぐ

大規模構成にケーブル・セットを設置する

4シャーシ（24フェーダー）の大規模システム構成のケーブル・セット設置例については、次の図を参照してください。図内の数字は、ケーブル・セットの設置タイプを示しています。

4シャーシ・システム

(図 21を参照)：

- 1 ケーブル・セット大
- 2 ケーブル・セット中
- 3 ケーブル・セット小

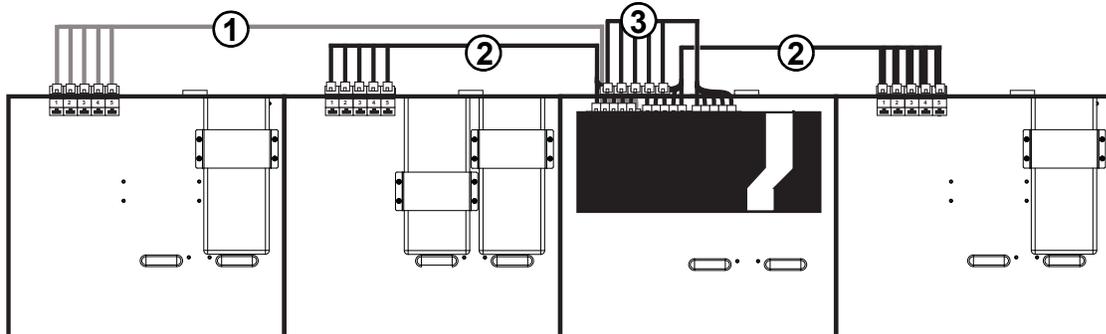


図 21. 24フェーダー（4シャーシ）システムのケーブル・セット

5シャーシ・システム

(図 22を参照)：

- 1 ケーブル・セット大
- 2 ケーブル・セット中
- 3 ケーブル・セット小

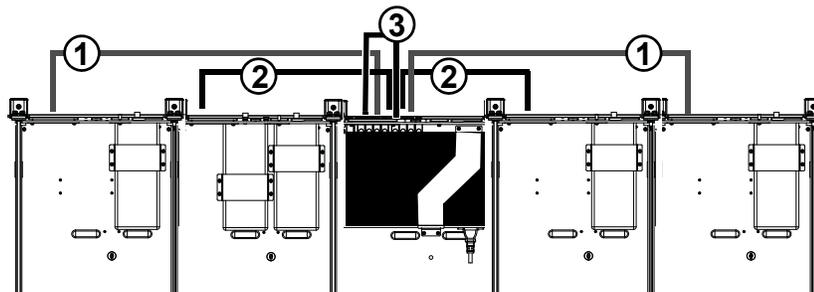


図 22. 32フェーダー（5シャーシ）システムのケーブル・セット

6 シャーシ・システム

40 フェーダー（6 シャーシ）のシステムの場合は、システム内のモジュールの数（必要な Ethernet スイッチの数が1つであるか2つであるか）に応じて、ケーブル配線が多少異なります。

例1 (Ethernetスイッチ1つ：図 23を参照)：

- 1 ケーブル・セット大
- 2 ケーブル・セット中
- 3 ケーブル・セット小

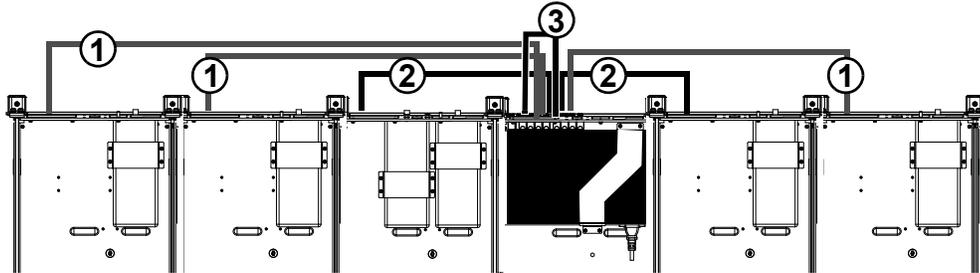


図 23. 例1：Ethernetスイッチを1つ使用する40フェーダー（6シャーシ）システムのケーブル・セット

例2 (Ethernetスイッチ2つ：図 24を参照)

- 1 ケーブル・セット大
- 2 ケーブル・セット中
- 3 ケーブル・セット小
- 4 2つのスイッチをつなぐ Ethernet ケーブル（単一）

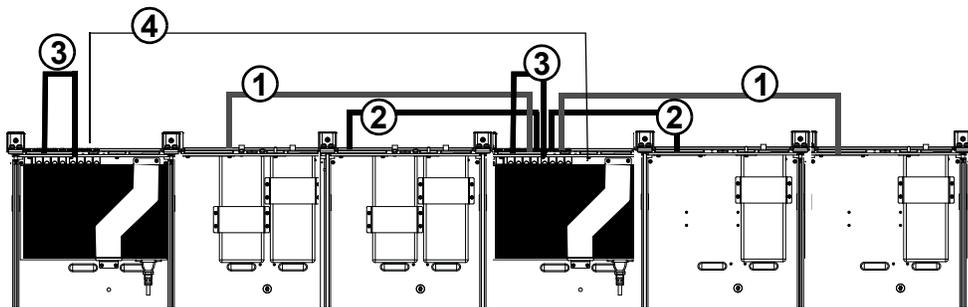


図 24. 例2：Ethernetスイッチを2つ使用する40フェーダー（6シャーシ）システムのケーブル・セット

7 シャーシ・システムと9 シャーシ・システム

シャーシが7つ以上あるシステムの場合は、上記の図と接続順序を参照して、ケーブル・セットを設置してください。例えば、7シャーシ・システムを組み立てる場合は、上記の例のように、長い Ethernet ケーブルを1本使ってイーサネット・スイッチ間をつないでから、ケーブル・セット大と中を使って各スイッチを周囲のシャーシにつなぎます。

ノブ・モジュールおよびディスプレイ・モジュール用の短いEthernetケーブル

(シャーシごとに2つのノブ・モジュールを設置したシステム、ディスプレイ・モジュールのみを設置したシステム、またはこの両方を設置したシステム)

システム内のいずれかのシャーシにノブ・モジュールを2つ設置した場合は、同梱の12インチ長のEthernetケーブル1本を、背面タイ・プレートの内側にある使用可能なポートにつなぎます。2つのノブ・モジュールを設置するすべてのシャーシに対して、この作業を繰り返します。

M40ベースのシステムに1つ以上のディスプレイ・モジュールを設置した場合は、12インチ長のEthernetケーブル1本を、シャーシ背面の中央の穴に通します(図25を参照)。ケーブル・ハーネスに含まれる使用可能な2ピン電源ケーブルを、同じ開口部から引き出します(これらは後からディスプレイ・モジュールにつなぎます)。

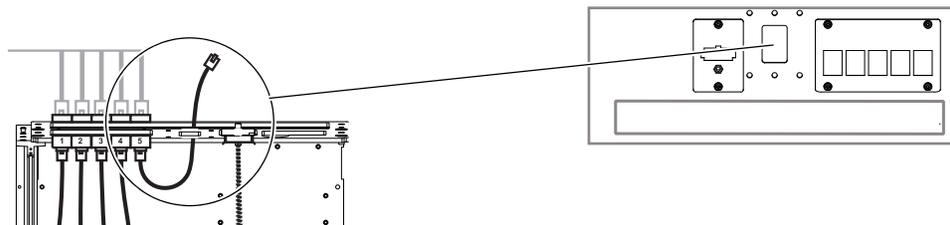


図 25. ディスプレイ・モジュール用の短いEthernetケーブルをつなぐ(2ピン電源ケーブルは図に含まない)

Ethernetスイッチを2つ使用するシステムのEthernetケーブル配線

システムに23個以上のモジュールを設置した場合は、Ethernetスイッチが2つ必要です。2つのスイッチを1本のEthernetケーブルでつなぐ必要があります。

2つのEthernetスイッチを相互につなぐには：

- 1 同梱の単一Ethernetケーブルの一方の端子を、Ethernetスイッチを設置したシャーシの背面にある開口部に通します。
- 2 これを一方のスイッチの使用可能なポートにつなぎます。
- 3 リア・パネルにある三角形の開口部にケーブルを通し、もう一方のスイッチの使用可能なポートにつなぎます。

ワークステーション用のEthernetケーブルを接続する

ワークステーション接続用のEthernetケーブルを接続するには：

- 1 単一Ethernetケーブル(Ethernetスイッチと同梱)の一方の端子を、スイッチの使用可能なポートに接続します。
- 2 ケーブルをリア・パネルの左端または右端まで伸ばします。この時点ではまだ、ケーブルをワークステーション、ルーター、またはスイッチに接続しないでください。
- ▲ S6システム・ソフトウェアを更新するまでは、システムをワークステーション、外部ルーター、スイッチ、またはネットワークに接続しないでください(本ガイドで後から説明します)。
- 3 この時点ではまだケーブルを接続しません(このケーブルは、S6ソフトウェアの更新後にワークステーションまたはルーターに接続します)。
- 4 複数のワークステーションに直接接続する計画の場合は、別のEthernetケーブル(同梱されていない)を、スイッチおよびルーターの使用可能なポートに接続します(上記のステップを参照)。

Ethernet スイッチの固定用ブラケットを設置する

すべての Ethernet および電源ケーブルを設置したら、同梱の固定用ブラケットを使って Ethernet スイッチをシャーシに固定します（図 26 を参照）。ブラケットは Ethernet スイッチ・パッケージに含まれており、留め具はブラケットにテープ止めされた小さいビニール袋に入っています。

Ethernet スイッチ固定用の留め具と工具

留め具	M3x6
工具	#1 Phillips

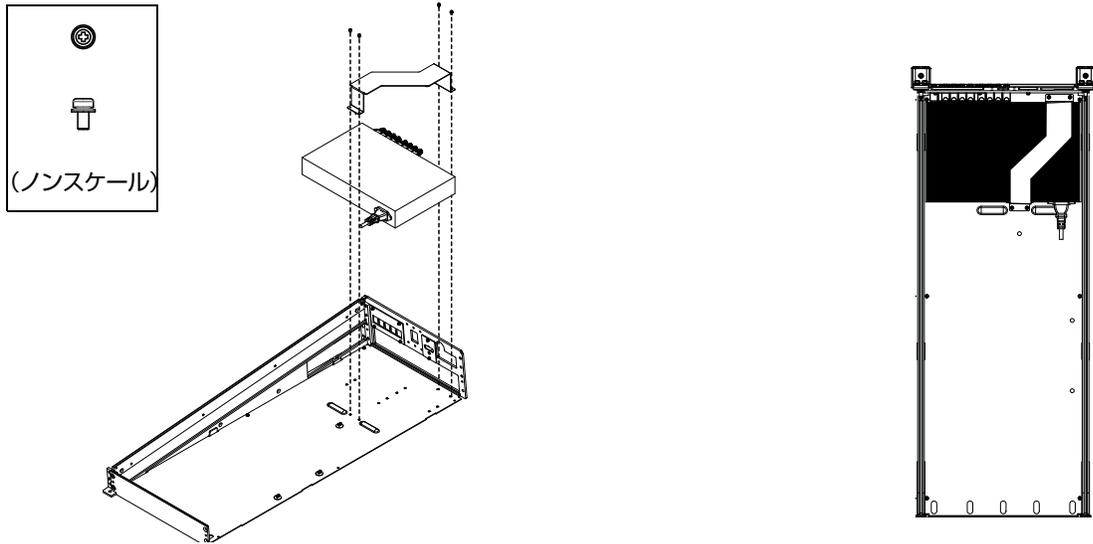


図 26. Ethernet スイッチと固定用ブラケットの設置（左）、および設置後（右）。ケーブル・ハーネスは図に含まない。

外側のサイド・カバーを取り付ける

ケーブル配線が終わったら、外側のサイド・カバーを設置します（外側のサイド・カバーは、モジュールより先に設置する必要があります）。

サイド・カバーを取り付けるには：

- 1 外側のサイド・カバーを取り付ける前に、単一 Ethernet（ワークステーション用）ケーブル、およびリア・パネルを横切ってテーブルタップにつながれている AC 電源が、外側のリア・パネルの右（または左）の穴に下向きに通されていることを確認します（図 27 を参照）。

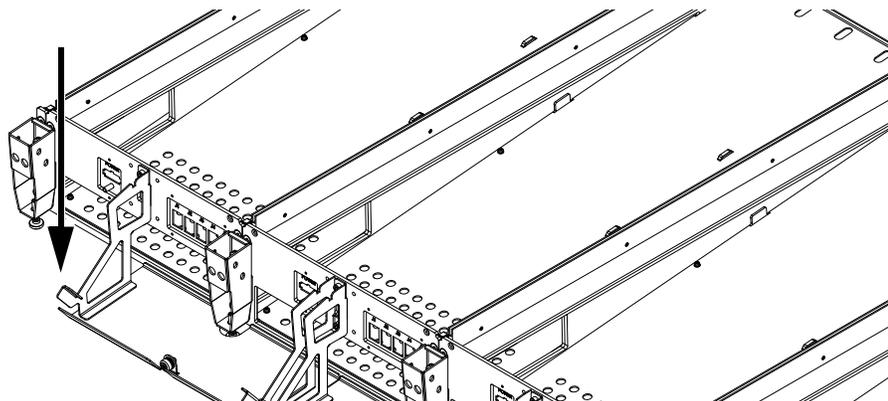


図 27. テーブルタップ AC およびワークステーション用 Ethernet を通す穴

- 2 電源ケーブルと Ethernet ケーブルが取り付けの邪魔にならないことを確認してから、取り付け用プレートのスロットにパネルのタブを引っ掛けてパネルをサイド・ブラケットに取り付けます（図 28 を参照）。

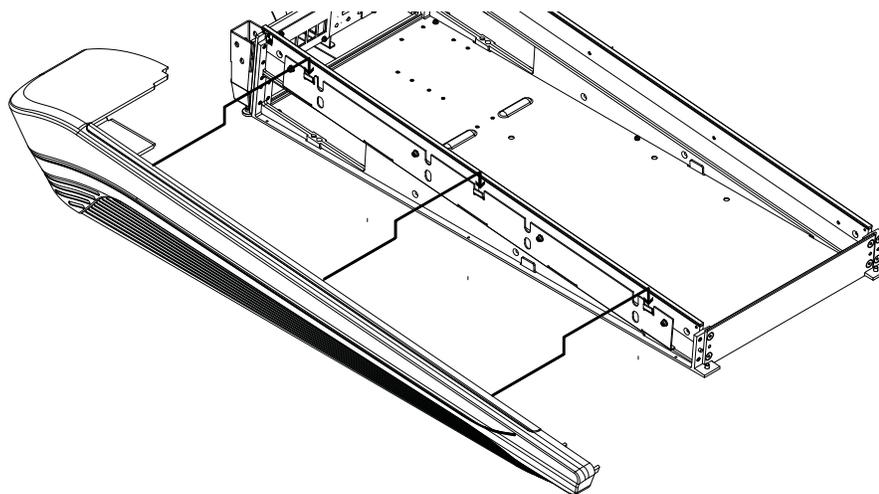


図 28. 左側のサイド・カバーを取り付ける

- 3 シャーシの内側から、同梱のフィリップスのフラットヘッドねじ4つを使って、サイド・カバーをフレームに固定します（図 29を参照）。

サイド・カバーの留め具と工具

留め具	M4x14 FHPH
工具	#2 Phillips

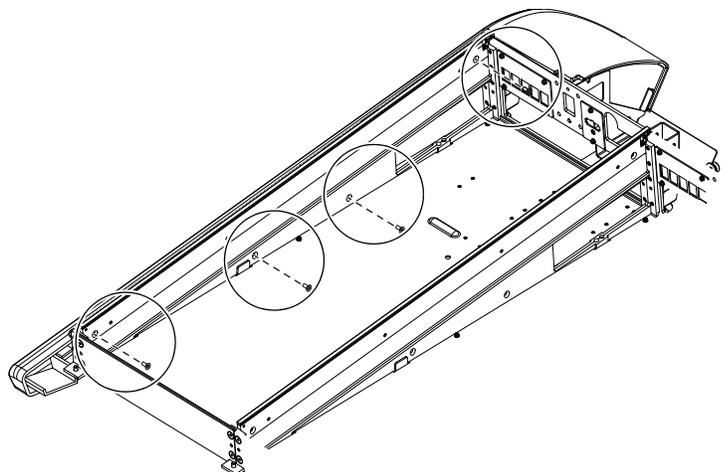


図 29. 左側のサイド・カバーを固定する

- 4 電源ケーブルと Ethernet ケーブルが取り付けの邪魔にならないことを確認してから、右側のサイド・カバーを右側の取り付け用プレートに取り付けます（図 30を参照）。

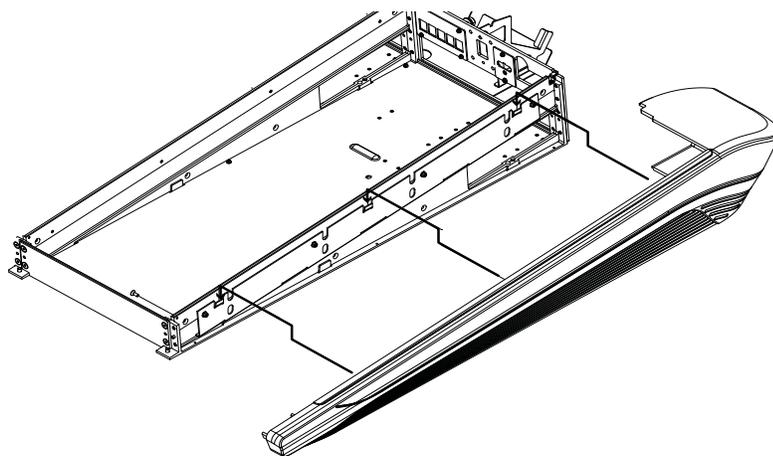


図 30. 右側のサイド・カバーを取り付ける（ボルスターは図に含まない）

- 5 シャーシの内側から、フィリップスのフラットヘッドねじを4つ使って、右側のサイド・カバーをフレームに固定します（図 30を参照）。

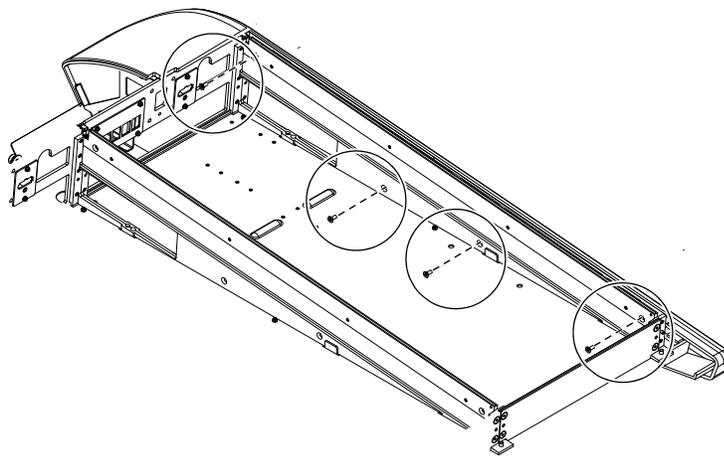


図 31. 右側のサイド・カバーを取り付ける（ボルスターは図に含まない）

- ▲** どのようなサイズのシャーシでも、そのサイド・カバー、ボルスター、またはリア・パネルを持って移動したり持ち上げたりしないでください（破損するおそれがあります）。移動したり持ち上げたりするときには、金属製シャーシ（フレーム）を持ってください。

作業の進め方

フレームを組み立てて、Ethernet スイッチ、PSU、およびケーブルを設置したら、第 6 章「モジュールを設置する」に進みます。

第6章：モジュールを設置する

この章では、組み立てたフレームにハードウェア・モジュールを設置し、接続する方法について説明します。

モジュールを設置および接続するための基本ステップは以下のとおりです。

- 最初（左端）のシャーシに設置するモジュールをすべて設置します。
- 前面にあるシャーシから順にモジュールを設置し、接続します。

A マスター・モジュールと他のモジュールをつなぐケーブル接続の中には、専用の接続が必要なものもあります。すべての手順を慎重に実行してください。

- 上記のステップを繰り返して、残りのすべてのシャーシにモジュールを設置します。
- ディスプレイ・モジュールがある場合は、設置します。
- フィル・パネルを空のスロットに設置します。
- コンプレッション・パネルを各シャーシに取り付けて、組み立てを完了します。

記載する手順について

以下の手順では、構成例として S6 M40-24-5 システムを使用しています（図 32 を参照）。この構成は、24 フェーダー・ストリップ（各ストリップに 5 つのノブを設置）、および標準構成のマスター・セクション・モジュールから成ります。

- 3つのフェーダー・モジュール
- 3つのプロセス・モジュール
- 3つのノブ・モジュール
- 1つのマスター・モジュール（M40）
- 1つのオートメーション・モジュール

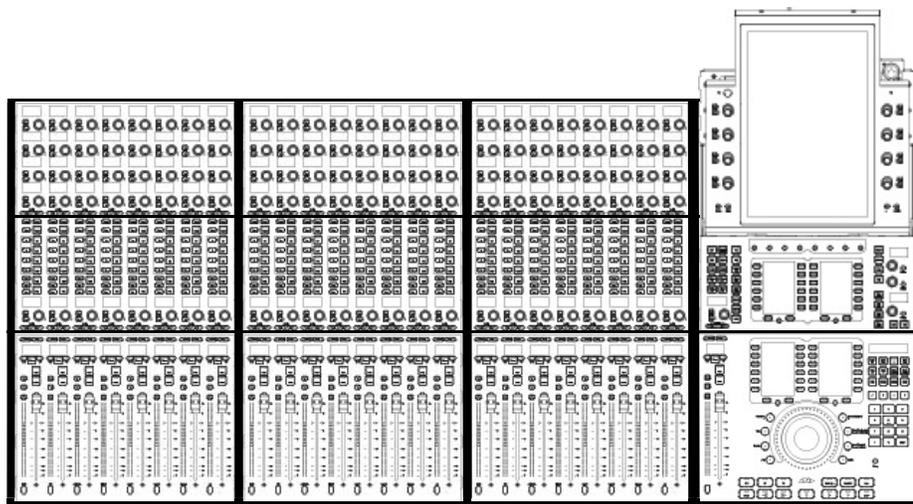


図 32. S6 M40 24-5 システムのモジュール配置例

この構成例では、マスター・セクション・モジュールがシステムの右端にあり、フェーダーが左側にあります。ただし、モジュールはさまざまな位置に配置できます（第2章「モジュールと構成の概要」を参照）。システムに応じて、およびモジュールの配置要件に応じて、実際の設置手順はこの構成例とは多少異なります（あらゆる可能性について適宜明記しています）。

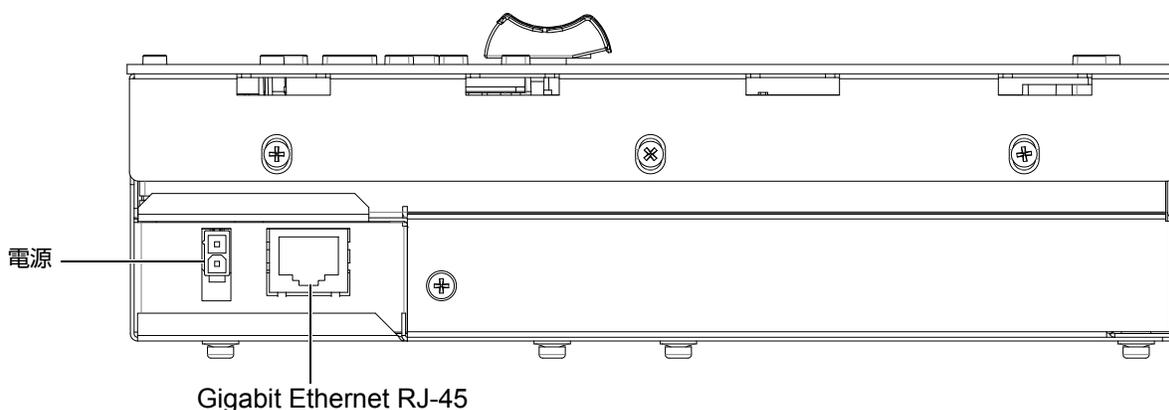
モジュールを設置する

左端のシャーシから順に、すべてのモジュールを設置します。最前面のスロットまたはモジュール（スロット1）から作業を始めます。構成例 S6 M40 24-5 では、左端のシャーシにチャンネル・モジュールを設置するため、設置する最初（最前面）のモジュールは、フェーダー・モジュールになります。構成によっては、左端のシャーシにマスター・モジュールを設置する場合があります（57ページの「マスター・セクション・モジュールを設置する」を参照）。

チャンネル・モジュールを設置する

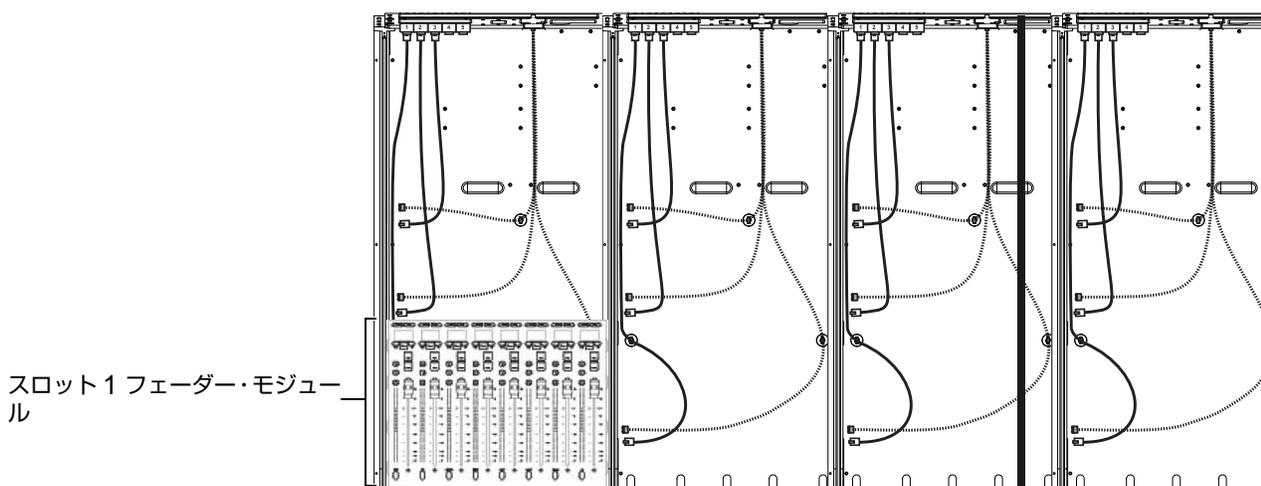
チャンネル・モジュールを設置するには：

- 1 フェーダー・モジュール、プロセス・モジュール、およびノブ・モジュールがまだ未開封の場合は、それぞれ1つずつ開封します。
- 2 フェーダー・モジュールを設置先のシャーシに近づけて持ち、以下の作業を行います。
 - ビルトイン・ケーブル・ハーネスの中でもっとも長い2ピン Molex 電源ケーブルを、モジュールの側面にある DC 入力につなぎます。
 - ビルトイン・ケーブル・ハーネスのもっとも長い RJ-45 ケーブルの1本を、モジュールの側面にある Ethernet ポートにつなぎます。



フェーダー・モジュールの電源ポートと Ethernet ポート

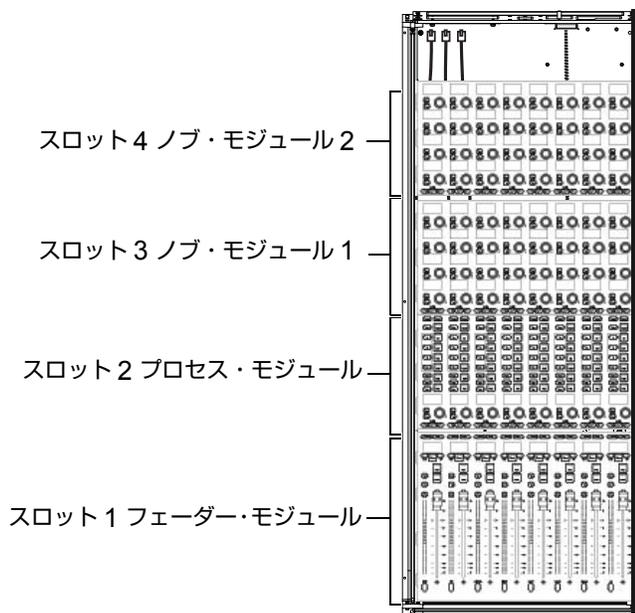
- 3 接続されているフェーダー・モジュールを、その方向が正しいことを確認し、シャーシの前面の端に合わせて、シャーシ内のスロット1（最前面のスロット）に設置します。この例では、最初のフェーダー・モジュールを最初（左端）のシャーシのスロット1に設置します。モジュールがケーブルの上に乗っておらず、フレームに完全に収まっていることを確認します。



シャーシのスロット1に設置したフェーダー・モジュール（スイッチとPSUは図に含まない）

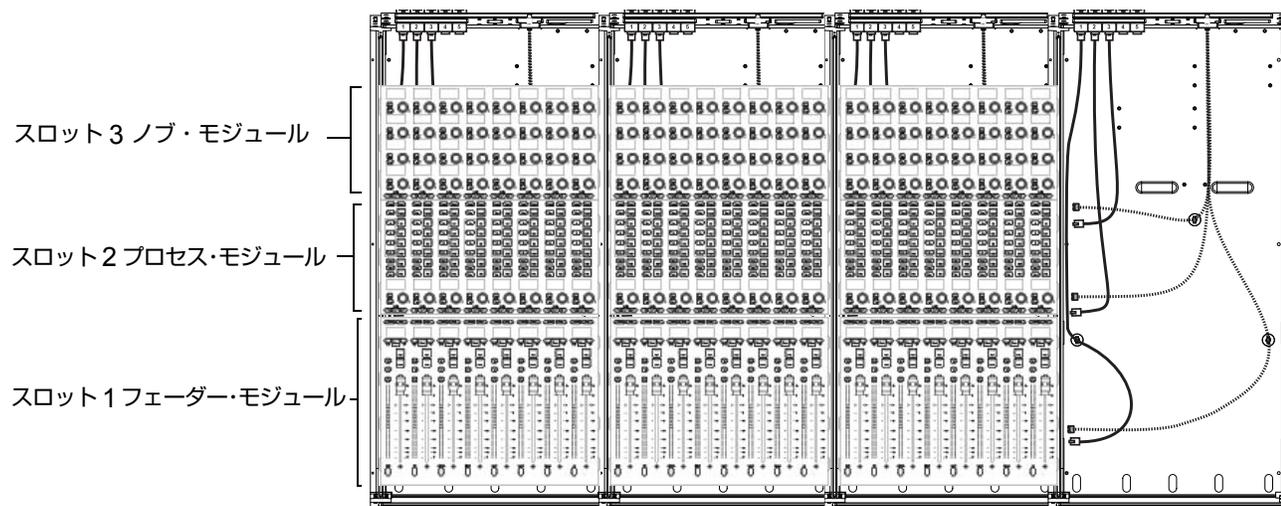
💡 すべてのモジュールを配置した後で、コンプレッション・パネルとTストリップを取り付けて、シャーシに固定します。

- 8 大型フレーム・シャーシに2つのノブ・モジュールを設置する場合は、以下の作業を行います。
- 2番目のノブ・モジュールに電源をつなぎます。
 - 同梱の12インチEthernetケーブルの1本を、使用可能なシャーシのポートにつなぎ、反対側をノブ・モジュールにつなぎます。
 - 2番目のノブ・モジュールをスロット4（最初のノブ・モジュールのすぐ上）に設置します。モジュールがケーブルの上に乗っておらず、フレームに完全に収まっていることを確認します。



フェーダー・モジュール1つ、プロセス・モジュール1つ、およびノブ・モジュール2つを設置した大型フレーム・シャーシの例

- 9 残りのすべてのチャンネル・モジュールについて、ステップ1～7を繰り返します。



設置したチャンネル・モジュール（スイッチとPSUは図に含まない）

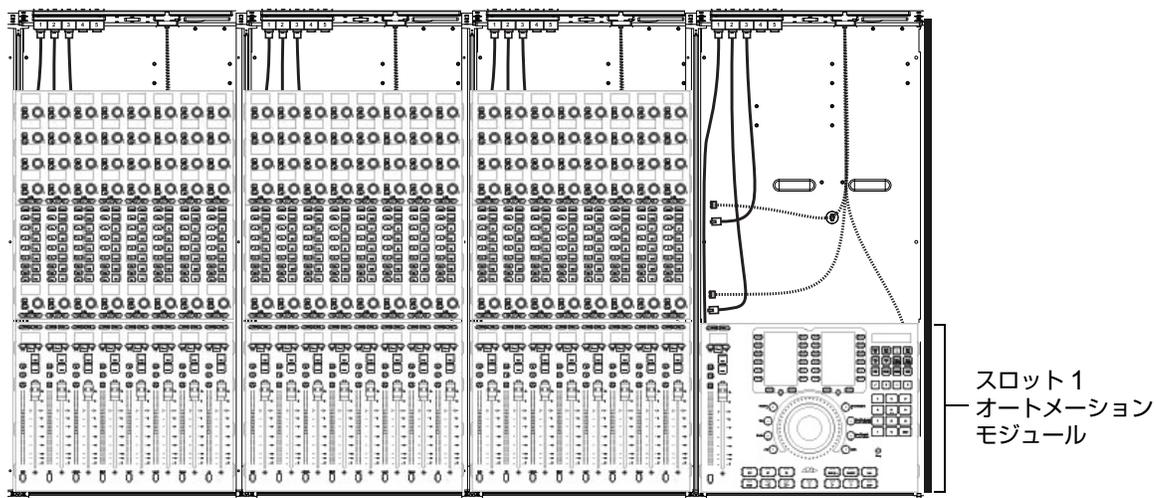
マスター・セクション・モジュールを設置する

オートメーション・モジュールの設置は、フェーダー・モジュールの設置とほぼ同じです。

オートメーション・モジュールを設置する

オートメーション・モジュールを設置するには：

- 1 オートメーション・モジュールとマスター・モジュールがまだ未開封の場合は、開封します。
- 2 オートメーション・モジュールをシャーシより上まで持ち上げて、以下の作業を行います。
 - もっとも長い2ピンMolex電源ケーブルを、モジュールの側面にあるDC入力につなぎます。
 - もっとも長いEthernetケーブルを、モジュールの側面にあるEthernetポートにつなぎます。
- 3 接続されたオートメーション・モジュールを、シャーシの最初（最前面）の Slots に設置します。モジュールがケーブルの上に乗っておらず、フレームに完全に収まっていることを確認します。



シャーシの Slot 1 に設置したオートメーション・モジュール（スイッチと PSU は図に含まない）

マスター・モジュールを設置する

マスター・モジュールの設置は、その他のモジュールと同様ですが、より多くの接続を必要とします。

マスター・モジュールを設置するには：

- 1 マスター・モジュールをシャーシより上まで持ち上げた状態で、ケーブル・ハーネスに含まれる2ピン Molex ケーブル2本を、モジュールの側面にある2つの DC 入力に、それぞれ1本ずつつなぎます（図 33 を参照）。

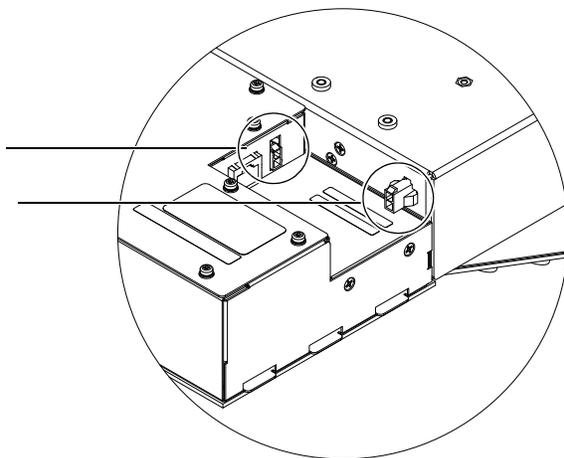


図 33. 両方の DC 電源ケーブルをマスター・モジュールにつなぐ

- 2 使用可能なもっとも長い Ethernet ケーブルを、モジュールの側面にある Ethernet ポートにつなぎます（図 34 を参照）：

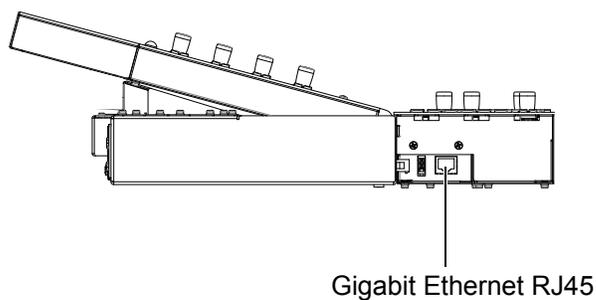


図 34. マスター・モジュールのサイド・パネルの Ethernet ポート

3 Ethernetをマスター・モジュールのプライマリ Ethernet ポート（サイド・パネルのポート）につないだら、以下のいずれかの作業を行います（図 35を参照）。

- ネットワーク上の既存の DHCP サーバーに S6 が接続されている場合は、別のケーブル・ハーネスの Ethernet ケーブルをマスター・モジュールの背面パネルの Ethernet ポート 1（左）につなぎます。
- ネットワーク上の既存の DHCP サーバーに S6 が接続されていない場合は（S6 を 1 つのワークステーションのみに直接接続する場合を含む）、2 番目のシャーシの Ethernet ケーブルを背面パネルの Ethernet ポート 2（右）につなぎます。

DHCP サーバーがネットワーク上にあるかどうか不明な場合は、組織の IT 部門にお問い合わせください。

A シャーシの Ethernet は、サイド・パネルのプライマリ・モジュールにつないだ後、背面にある 2 つの Ethernet ポートのいずれか 1 つにのみつないでください。マスター・モジュールは合計 2 つの Ethernet 接続をサポートしますが、1 つはサイド・パネルのプライマリ・ポートにつながする必要があります。

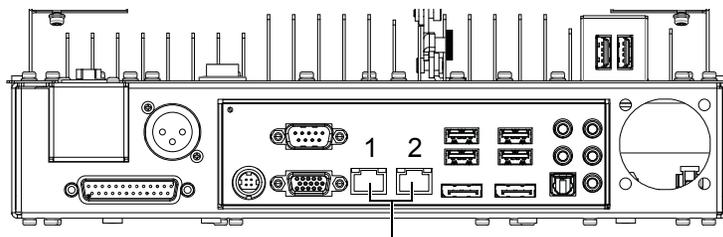
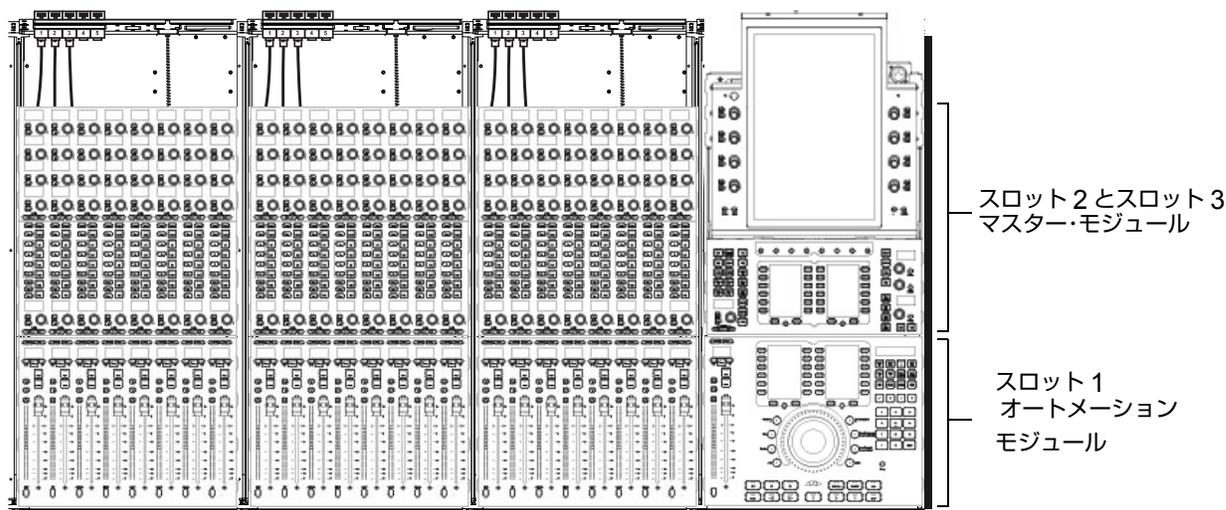


図 35. マスター・モジュールの背面パネルにある Ethernet ポート 1（左）と 2（右）

 詳細については、『S6 ガイド』（アクティベート後の Avid マスター・アカウントでダウンロードできる他の資料に含まれている）を参照してください。

- 4 トークバック・マイクを使用する計画の場合は、XLR ケーブル（90 度角度付きジャックを推奨）をマスター・モジュールの背面にある **XLR THRU** ポートに接続し、背面タイ・プレートの開口部を通します。左端または右隅までケーブルを伸ばし、サイド・カバーとシャーシの間の開口部から下に引き出します。
- 5 接続されたマスター・モジュールをスロット 2 と 3 に設置します（マスター・モジュールが 2 つのスロットを占有します）。モジュールの方向が正しいことを確認し、オートメーション・モジュールの上端に合わせます。接続されたケーブルを折り重ねたり、挟まれた状態にしないでください。（背面パネルの Ethernet コネクタ（必須）およびトークバック（オプション）には、特に注意を払ってください。）



マスター・モジュールとマスター・オートメーション・モジュール

6 マスター・モジュールを設置したら、タッチスクリーンの保護フィルムをはがします。

タッチスクリーンの角度を決める

マスター・モジュールを設置したら、タッチスクリーンを適切な角度に傾け、角度調節付きスタンドの蝶ねじを閉めて固定します。

フィル・パネルを設置する

金属製またはアクリル仕上げのフィル・パネルを使用でき、小型スロット用と大型スロット用の2つのサイズがあります。

大型フィル・パネル フェーダー・モジュールと同じ大きさで、スロット1にはめ込むことができます。

小型フィル・パネル プロセス・モジュールおよびノブ・モジュールと同じ大きさで、スロット2、3、または4にはめ込むことができます。

フィル・パネルを設置するには：

- フレーム・パネルのパッケージを開封し、フィル・パネルを取り付けて、空のスロットを覆います。フィル・パネルは、モジュールと同様に、適所に配置できます。

ディスプレイ・モジュールを設置する

システムにディスプレイ・モジュールを設置する場合は、次にその設置作業を行います。

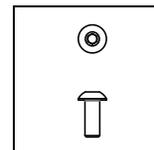
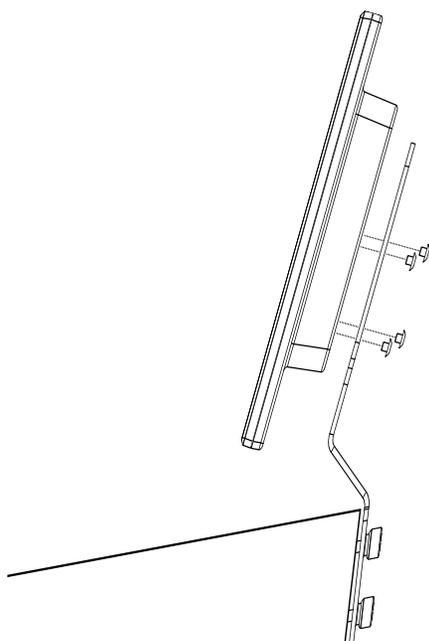
 取り付け用ブラケットを取り付けるには、29ページの「ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットを設置する」を参照してください。

ディスプレイ・モジュールを設置するには：

- 1 ディスプレイ・モジュールに丸型の取り付けねじが4つ同梱されていることを確認します。これは、取り付け用ブラケットを設置したときに開封したものです。
- 2 ディスプレイ・モジュールは2箇所（高い位置と低い位置）に設置できます。どちらの位置に設置するかを決めてから、ディスプレイ・モジュールをディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットに取り付け、同梱の取り付けねじで固定します。

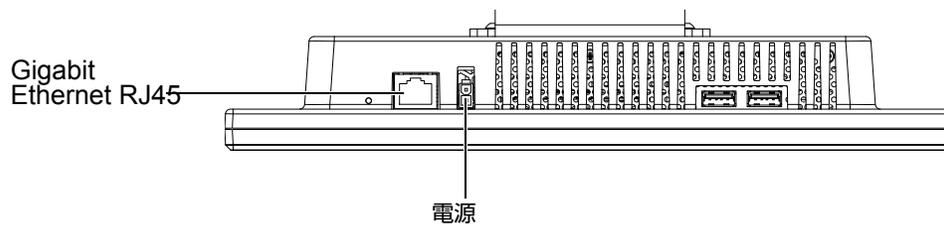
ディスプレイ・モジュールの留め具と工具

留め具	M4x10 BCHS
工具	M2.5 Hex



ディスプレイ・モジュールを取り付け用ブラケットに取り付ける（側面図）

- 3 電源と Ethernet をディスプレイの下部にあるコネクタータに つなぎます。各シャーシの背面タイ・プレートから出ている電源ケーブルと 12 インチ Ethernet ケーブル（どちらも黒いケーブル・ハーネスに含まれる）を使います（48 ページの「ノブ・モジュールおよびディスプレイ・モジュール用の短い Ethernet ケーブル」を参照）。



ディスプレイの下部にあるコネクタ

▲ Avid 正規サービス・プロバイダーから直接指示されない限り、USB ポートには何も接続しないでください。

- 4 上記のステップを繰り返して、残りのすべてのディスプレイ・モジュールを設置します。
- 5 すべてのディスプレイ・モジュールを設置したら、第 7 章「作業の進め方」に進んで、S6 システムの設置を完了させます。

第7章：作業の進め方

システムを組み立て、モジュールを設置したら、この章の手順に従って、以下の作業を行ってください。

- システムを初めて起動させ、電源とEthernetを確認します(63ページの「起動およびシャットダウンする」を参照)。
- 購入情報をアクティベートし、登録してから、使用可能なアップデートをダウンロードし、インストールします(63ページの「アクティベートおよび登録する」を参照)。
- 最後のハードウェア・コンポーネントを追加して、フレームを完成させます(64ページの「ハードウェアの組み立てを完了する」を参照)。
- S6システム・ソフトウェアおよびサポート・ソフトウェアを更新します(67ページの「S6システム・ソフトウェアの更新」を参照)。

起動およびシャットダウンする

初めてS6を起動するときには、以下の手順に従ってください。

初めて起動する

初めてシステムを起動するには：

- 1 システムが、外部ワークステーション、ルーター、スイッチ、またはその他のネットワーク・デバイスに接続されていないことを確認します。
- 2 電源装置（UPS、電力調整器など）でS6テーブルタップの電源を入れます。
- 3 EthernetスイッチのすべてのLink LEDを調べて、すべてが通信状態を示していることを確認します。通信状態になっていないものがある場合は、ケーブルがソケットにしっかりつながっているかどうかを確認します。
- 4 タッチスクリーンに、S6マスター・モジュール起動画面が表示されます。
- 5 画面の指示に従い、シャットダウンします。
- 6 パーソナル・コンピューターを使って、オンラインでアクティベーションと登録を行い、重要なソフトウェアとアップデートをダウンロードし、それらに含まれている手順に従います(63ページの「アクティベートおよび登録する」を参照)。

シャットダウンする

シャットダウンするには：

- 1 タッチスクリーンの [シャットダウン] をタッチします。必要に応じて、タッチスクリーンで [About] ページまで進み、[シャットダウン] をタッチします。

▲ 必ずマスター・モジュールをシャットダウンしてから、システムの電源を切ってください。

- 2 S6テーブルタップに電力を供給する電源装置（UPS、電力調整器など）の電源を切ります。

アクティベートおよび登録する

先へ進む前に、アクティベーション・カードとオンライン登録情報カード（この『S6 設置ガイド』セットの表紙に付いている小袋の中）の内容を確認してください。別のコンピューターでAvidマスター・アカウントをアクティベートし（必須）、購入情報を登録する（オプションだが推奨される）ための手順に従います。

▲ 同梱のS6アクティベーションカードを使って、購入情報をアクティベートします。これにより、お使いのAvidマスター・アカウントで直接、ソフトウェア・アップデートを受け取ることができるようになります。サーフェスの構成後すぐに、Avidアカウントでアップデートがないか確認します。

詳しい手順については、67ページの「S6システム・ソフトウェアの更新」を参照してください。

ハードウェアの組み立てを完了する

電源と Ethernet の接続を確認したら、コンプレッション・パネルと T ストリップを取り付けてモジュールを固定し、リア・パネル上部を取り付けてケーブルを隠します。

コンプレッション・パネルを設置する

すべてのモジュールを設置し、空のスロットをフィル・パネルで覆ったら、各シャーシの上部にコンプレッション・パネルを設置します。

コンプレッション・パネルはスプリング式パネルで、各シャーシの上面をふさぎ、モジュールを動かないようにします。コンプレッション・パネルには、チャンネル（すべてのフレーム・シャーシ・キットに同梱）、マスター ED（大型フレーム・シャーシで構成したシステムのマスター・シャーシ用）、およびマスター RD（小型フレーム・シャーシで構成したシステムのマスター・セクション・シャーシ用）の3つのサイズがあります。



図 36. コンプレッション・パネル：チャンネル（左）、サイズ大のマスター（中央）、およびサイズ小のマスター（右）

コンプレッション・パネルを設置するには：

- 1 コンプレッション・パネル（リア・パネル・パッケージに同梱）を開封します。各パネルから保護フィルムを外します。
- 2 そのシャーシにすでにディスプレイ・モジュールを取り付けてある場合は、電源ケーブルと Ethernet ケーブルを背面タイ・プレートの開口部に通します（これらのケーブルは、後から取り付けるリア・パネル上部によって、動かないように固定されます）。
- 3 パネルをある程度傾けて持ち、パネルのスプリング側をシャーシの背面に合わせ、スプリングが縮むように適度な力を加えてから、コンプレッション・パネルの前面の端を押し下げて、シャーシの上面にはめ込みます（図 37を参照）。

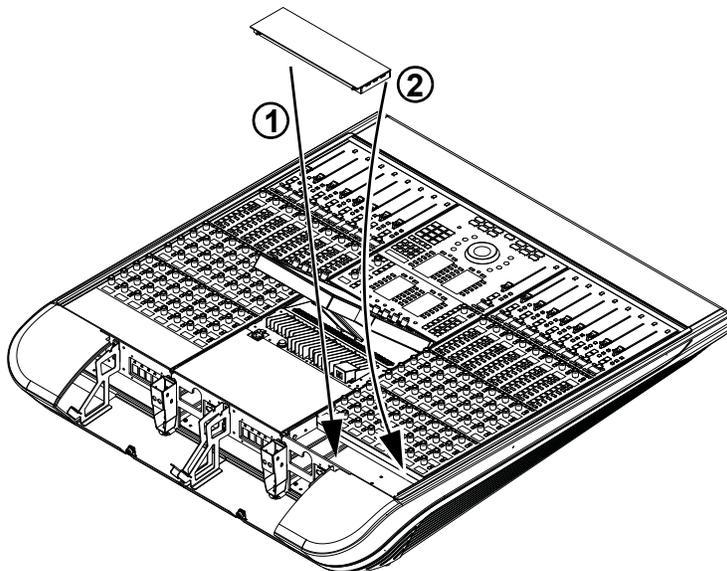


図 37. チャンネル・コンプレッション・パネルを設置する

- 4 残りのチャンネル・シャーシについて、上記のステップを繰り返します。
- 5 マスター・コンプレッション・パネル（サイド・カバー・パッケージに同梱）を、そのスプリングがフレームの背面側にくるように持ちます。小型フレーム・シャーシの場合は、小さいサイズのマスター・コンプレッション・パネルを使用してください。

- 6 パネルをある程度傾けて持ち、パネルのスプリング側を、シャーシの背面に合わせます。スプリングが縮むように適度な力を加えてから、前面の端を押し下げてカチッとはめ込みます。

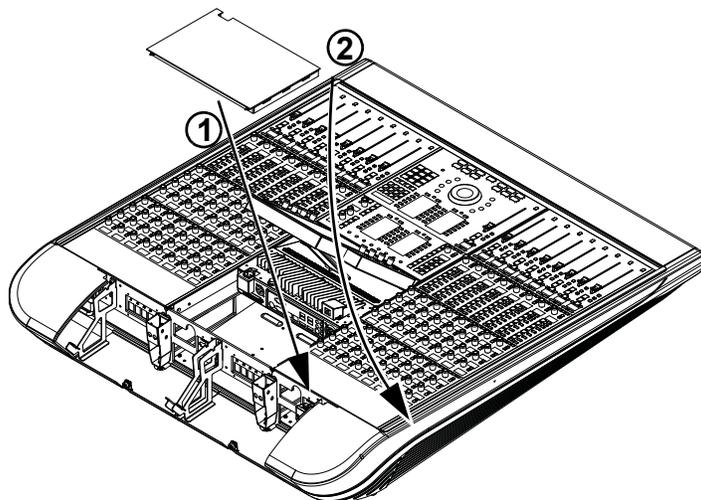


図 38. マスター・セクションのコンプレッション・パネルを設置する

Tストリップを設置する

モジュールとコンプレッション・パネルを設置したら、Tストリップを設置して、モジュールをシャーシにしっかり固定します。

Tストリップを設置するには：

- 1 すべてのTストリップ（各フレーム・シャーシ・キットに1つずつ、およびサイド・カバー・キットに1つ同梱）をまとめておきます。
- 2 最初のTストリップを図 39に示した方向で持ち、以下の作業を行います。
 - Tストリップの下端（コントロール・サーフェスの前面にもっとも近い端）をサイド・ウォールの受けスロットに挿入します。
 - Tストリップを、下端から上端に向かって少しずつ押し下げてチャンネルにはめ込み、上端がカチッと収まるまで押し下げます。
- 3 残りのすべてのTストリップについて、上記のステップを繰り返します。

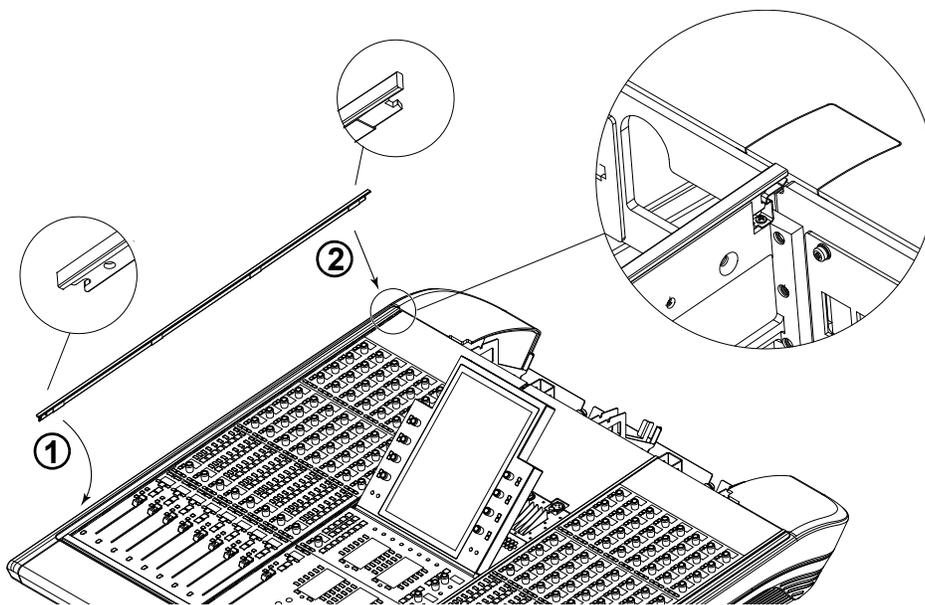


図 39. Tストリップを設置する

Tストリップを取り外す必要がある場合は、71ページの「モジュールを取り外す」を参照してください。

リア・パネル上部を取り付ける

すべてのモジュールを設置し、接続したら、リア・パネル上部を取り付けます。



図 40. リア・パネル上部

リア・パネル上部を設置するには：

- 1 リア・パネル上部の1つを、取り付け用ねじがパネル下部の受け部と同じ高さになるまで押し下げてから、そのつまみねじを締めて、リア・パネル取り付け用ブラケットのねじ受けに固定します。

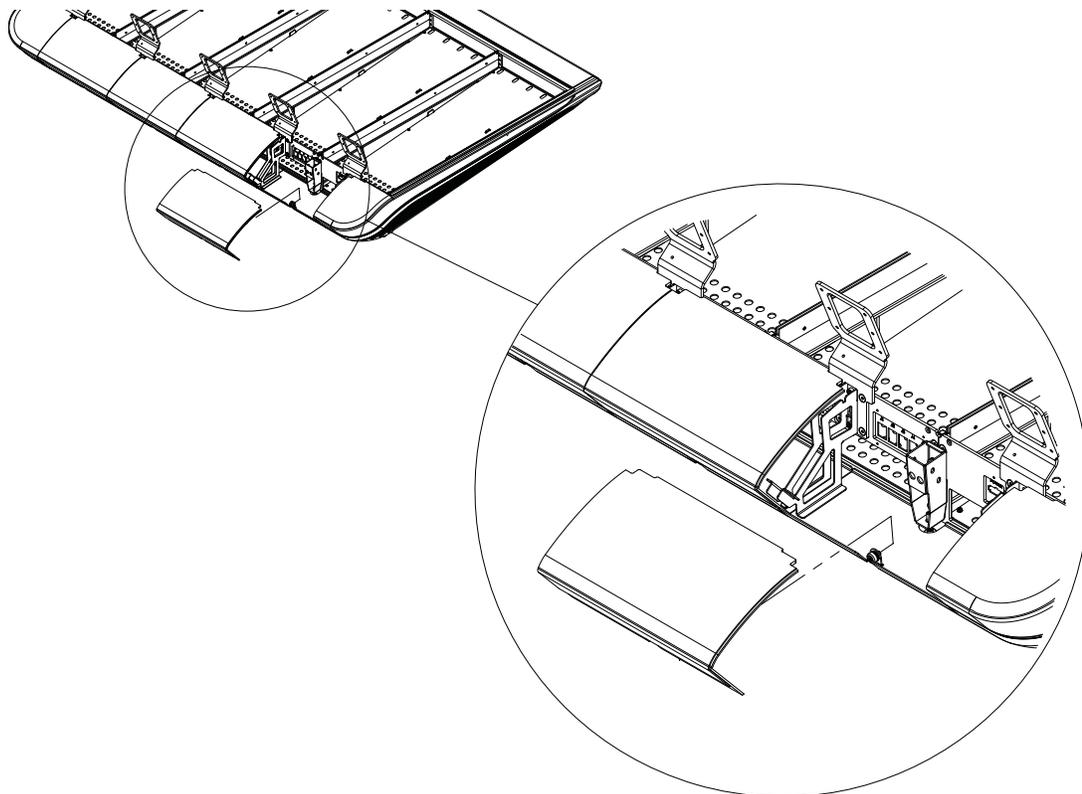


図 41. リア・パネル上部の取り付け（ディスプレイ・モジュールのケーブルは図に含まない）

- 2 パネルを閉じる前に、システムの構成に応じて以下の作業を行います。

- システムにディスプレイ・モジュールを設置した場合は、それらの電源ケーブルと Ethernet ケーブルがリア・パネル上部の角の切り欠きにケーブルが通されていることを確認してから、カバーを閉じれてケーブルを隠します。ディスプレイ・モジュール・フィラーは取り付けないでください。

▲ リア・パネル上部を閉じるときに、ディスプレイ・モジュールのケーブルが挟まって損傷しないように注意してください。

- システムにディスプレイ・モジュールを設定していない場合は、リア・パネルの上部カバーを閉じてから、ディスプレイ・モジュール・フィラー（図 42 を参照）を取り付けて、隣り合うカバーの角にある開口部を塞ぎます。各シャーシに1つずつフィラーが付属しています。



図 42. ディスプレイ・モジュール・フィラー

S6システム・ソフトウェアの更新

このセクションでは、更新されたS6マスター・モジュール・ソフトウェア（MTMApp）を取得してインストールする方法を説明します。

インストールに必要なもの

S6システムにMTMAppソフトウェアを転送するためには、以下のものがが必要です。

- USBフラッシュ・ドライブ（同梱されていない）。NTFS、FAT32、またはその他のWindows 8互換ファイル・システムでフォーマット済みであること（Macフォーマットのドライブはサポートされません）。
- ▲** 同梱のシステム復元USBドライブを使用しないでください。別のUSBフラッシュ・ドライブを使用します。
- インターネット接続およびUSBポートのあるMac（OS X）またはWindows（Windows XP、Windows 7、Windows 8）のコンピューター

マスター・モジュール・ソフトウェアを更新する

S6ソフトウェアを取得し、更新するには、以下の基本的なステップを実行します。

- Avidマスター・アカウントからソフトウェア・アップデートをダウンロードし、インストーラーをUSBフラッシュ・ドライブに転送します。
- S6マスター・モジュールに管理者としてログインします。
- USBフラッシュ・ドライブを挿入し、マスター・モジュール・ソフトウェアのアップデートをインストールします。
- モジュール・ファームウェアを更新するように求められたら、更新します。

ソフトウェア・アップデートをダウンロードして転送する

S6ソフトウェアおよびその他のリソースをダウンロードするには：

- 1 システムがアクティベーションされていることを確認します（『S6ソフトウェア インストール・ガイド』の説明を参照してください）。
- 2 別のコンピューターで、www.avid.com にアクセスし、[アカウント] をクリックして、Avidマスター・アカウントにログインします。ソフトウェア・アップデート（ある場合）、ワークステーション・ソフトウェア、マニュアル、およびその他のリソースを、[My Products] セクション（S6ソフトウェア・アップデートの下）で入手できます。
- 3 S6 マスター・モジュール・ソフトウェア（ZIP ファイル）の最新版をクリックして、Avid アカウントからコンピューターにダウンロードします。

 併せて、利用可能なワークステーション・ソフトウェア（WSCControl）のインストーラーとS6マニュアルもダウンロードしておきます。

- 4 USBフラッシュ・ドライブをコンピューターの使用可能なUSBポートに挿入します。

▲ 同梱のシステム復元USBドライブを使用しないでください。別のUSBフラッシュ・ドライブを使用します。

- 5 ZIPファイルを解凍して、マスター・モジュール・ソフトウェアを抽出します。
- 6 結果フォルダーをUSBドライブの最上位（ルート）にコピーします。

マスター・モジュール・ソフトウェアおよびモジュール・ファームウェアを更新する

S6マスター・モジュール・ソフトウェアをインストールおよび更新するには：

- 1 S6マスター・モジュールのタッチスクリーンで、[ログアウト]（Logout）を選択します。
- 2 [管理者]（Administrator）を選択します。パスワードを入力するように求められたら、次の標準設定のパスワードを入力します。
パスワード
ログインすると、Windows 8のスタート画面が表示されます。
- 3 [ファイルエクスプローラー]（File Explorer）というタイルをクリックします。

- 4 ダウンロードしたS6 マスター・モジュールのインストーラーが保存されているUSBフラッシュ・ドライブを、マスター・モジュールの背面にある使用可能なUSBポートの1つに挿入します。[コンピューター] (Computer) 下の左側の列に、USBドライブが表示されます。
- 5 USBフラッシュ・ドライブをタップして、内容を表示します。
- 6 フラッシュ・ドライブ内のS6MasterModuleInstallソフトウェアのアイコンをダブルタップして起動します。画面の指示に従います。
- 7 インストーラーが完了すると、マスター・モジュールを再起動するように求められます。[はい] (Yes) をクリックして再起動します。
- 8 モジュール・ファームウェアを更新するように求められた場合は、以下の操作を行います。
 - [設定] (Settings) > [サーフェス] (Surface) ページに移動して、[更新] (Update) をクリックします。



[更新] オプションが表示されない場合は、システムがまだ完全に起動していないか、またはモジュールがその画面上で選択されています。システムが完全に起動されるまで待ってから、画面上でモジュールが選択されていないことを確認してください。

[更新] (Update) を確定したら、すべてのモジュールが更新されるまで待ちます (これは数分かかる場合があります)。このプロセス中は、どのモジュールの電源もオフにしないでください。更新が完了したことを確認するメッセージが画面に表示され、その後システムが自動的に再起動します。

S6サポート・ソフトウェアをインストールする

Avidマスター・アカウントでは、WindowsおよびMac用のワークステーション・ソフトウェア、およびS6マニュアルを提供しています。XMON EUCONおよびStudio Monitor Pro2ソフトウェア・オプションは、それらのインストーラーに含まれています。

S6システム・ソフトウェアを更新した後、以下の操作を行います。

- 1 まだログインしていない場合は、別のコンピューターで、www.avid.com にアクセスし、[アカウント] をクリックして、Avidマスター・アカウントにログインします。[S6 Software Updates] の [My Products] セクションで、WSControl (ワークステーション) ソフトウェア、S6マニュアル、その他の使用可能なリソースの最新バージョンをクリックしてダウンロードします。



これらのコンポーネントは、S6とともに使用する予定のワークステーションに直接ダウンロードすることも、USBフラッシュ・ドライブにダウンロードすることもできます (以下のステップを参照)。

- 2 インストーラーをUSBフラッシュ・ドライブに転送します。



同梱のシステム復元USBドライブを使用しないでください。別のUSBフラッシュ・ドライブを使用します。

WSControl (ワークステーション) ソフトウェアをインストールするには :

- 1 ダウンロードしたWSControlインストーラーが保存されているUSBドライブを、ワークステーションの使用可能なUSBポートに挿入します。
- 2 USBドライブにアクセスし、Workstationソフトウェア・インストーラーをダブルクリックして、画面の指示に従います。XMON EUCONまたはStudio Monitor Pro2をインストールするには、これらのオプションにチェック・マークが付けられていることを確認します。
- 3 S6システム・ソフトウェアを更新し、WSControlをワークステーションにインストールした後で、48ページの「ワークステーション用のEthernetケーブルを接続する」でS6 Ethernetスイッチに接続した単一Ethernetケーブル (紫色) を、ワークステーション、ルーター、またはスイッチに接続します。



システムにXMONを接続するための手順については、『XMON EUCON Application Guide』を参照してください。Studio Monitor Proについては、『Studio Monitor Pro Guide』を参照してください。どちらのガイドも、Avidマスター・アカウントでダウンロードできるS6マニュアルに含まれています。

S6システムを構成する

S6マニュアルのダウンロードに含まれている電子ガイド『S6 Guide』を参照して、サーフェスを構成し (モジュールの配置方法をシステムに指示し)、プロジェクトでのS6の使用方法を確認します。

IV部：付録

付録 A : S6 の拡張または解体

このセクションでは、モジュール、PSU、Ethernet スイッチ、およびシャーシ（フレーム）の各コンポーネントの解体手順について説明します。システムを拡張または移動するとき、あるいはトラブルシューティングするときには、これらの手順に従ってください。

重要

フレームに損傷を与えないようにするため、幅がシャーシ 5 つ分以上ある組み立て済みの S6 デスクトップ・システムを持ち上げたり、移動したりしないでください。シャーシ 5 つ分以上の幅の S6 システム（脚部を設置していない）を移動する必要がある場合は、セクションの幅が 4 つ分以下になるように、フレームを部分的に解体してください。

- A** 幅がシャーシ 5 つ分以上ある S6 デスクトップ・システム（32 フェーダー以上）を持ち上げたり、移動したりしないでください。また、どのようなサイズのシャーシでも、そのサイド・カバー、ボルスター、またはリア・パネルを持って移動したり持ち上げたりしないでください（破損するおそれがあります）。移動したり持ち上げたりするときには、金属製シャーシ（フレーム）を持ってください。

概要

S6 M10 システムは、保守、移動、トラブルシューティングなどの目的で解体できます。S6 M10 システムは拡張することもでき、チャンネル・モジュールを M10 マスター・モジュールの制限数（システム内に M10 のほかに最大 10 個）まで増やすことができます。

S6 M40 システムは、カスタマイズ（モジュールの増設や再配置）、移動、保守、トラブルシューティングなどの目的で解体できます。S6 M40 システムは、さまざまな方法でカスタマイズできます。以下にその例を示します。

- ディスプレイ・モジュールを随時追加できます。
- チャンネル・モジュールとシャーシ（ただし、必要な場合）を追加して、システムのフェーダー・ストリップを増やすことができます（M40 マスター・モジュールのほかに、最大 40 個のモジュールを追加可能）。
- モジュールはさまざまな方法で配置できます。たとえば、1 つ以上のシャーシにフェーダー・モジュールを 1 つだけ設置したり、いくつかのシャーシに 2 つのノブ・モジュールを設置し、別のシャーシにノブ・モジュールを 1 つだけ設置することができます。（未使用のスロットには、フィル・パネルをかぶせることができます。）
- さらに、あるシステムからモジュールを取り外し、大規模プロジェクトに使用する別の S6 システムに設置し直すことによって、そのシステムにフェーダーやノブを追加することもできます。

モジュールを取り外す

このセクションでは、モジュールの配置を変えたり、システムを拡張したり、モジュールを交換したりする目的で、モジュールを取り外す方法について説明します。

モジュールを取り外すには：

- 1 システムの電源が入っていないことを確認します。
- 2 すべての電源接続を外します。
- 3 システムにディスプレイ・モジュールを設置する場合、1 つ以上のディスプレイ・モジュールを取り外すには、以下の作業を行います。
 - ディスプレイ・モジュールにつながっている電源ケーブルと Ethernet ケーブルを外します。
 - ディスプレイ・モジュール取り付け用ブラケットをフレームに固定しているねじ Hex を外し（ただし、ディスプレイ・モジュールはその取り付け用ブラケットに取り付けたままにする）、モジュールとブラケットをコンソールから取り外します。
- 4 チャンネル・モジュールまたはマスター・モジュールを取り外すには、まずシャーシ間の T ストリップを 1 つずつ取り外します。小型のマイナス・ドライバーなどの工具を使って、コントロール・サーフェスの上部（背面側）から順に、T ストリップを優しく取り外します。

- 5 次に、コンプレッション・パネルを各シャーシの一番上のスロットから取り外します。コンプレッション・パネルを取り外したら、シャーシ内のモジュールを、コントロール・サーフェスの背面に向けてスライドさせ、シャーシから取り外すことができます。
- 6 フィル・パネルがある場合は、取り外します。
- 7 モジュールを取り外すため、以下の作業を行います。
 - シャーシからすべてのモジュールを取り外す場合は、一番上のモジュール（通常はノブ・モジュール）から順に取り外します。1つのモジュールのみを取り外す場合は、残りのモジュールをコントロール・サーフェスの背面に向けてスライドさせます。
 - モジュールをシャーシからゆっくりと持ち上げます。このとき、電源ケーブルや Ethernet ケーブルを引っ張らないように注意します。
 - モジュールにつながっている電源ケーブル、Ethernet ケーブル、およびその他のケーブル（USB など）を外します。
 - 取り外す必要のある残りのすべてのモジュールについて、上記のステップを繰り返します。

フレームを解体する

システムを拡張するには、シャーシを既存のフレームに追加し、そのシャーシに追加のモジュールを設置します。1つ以上のシャーシをフレームに追加するには、または幅がシャーシ5つ分以上あるフレームを移動するには、まず以下の手順に従って、フレームを部分的に解体する必要があります。

フレームを解体するには：

- 1 すべてのモジュールを取り外します（71 ページの「モジュールを取り外す」を参照）。
 - 2 サイド・カバーの留め具をゆるめて外し、取り付け用スロットからサイド・カバーを取り外します。（31 ページの「サイド・カバーを設置する」を参照してください。）
 - 3 すべての Ethernet ケーブル・セット（Ethernet スイッチを各シャーシにつないでいるケーブル）を外してそばに置いておきます。
 - 4 解体する計画の各シャーシ内の Ethernet スイッチと PSU から電源ケーブルを外します。
 - 5（オプション）Ethernet スイッチと PSU（またはそのいずれか）をシャーシから取り外します。この作業は、ユニットをトラブルシューティングするとき、または交換するときのみ行います。
 - 6 リア・パネルを取り外すため、以下の作業を行います（30 ページの「リア・パネル取り付け用ブラケットを設置する」を参照）。
 - リア・パネル上部をすべて取り外すため、カバーを持ち上げてから、取り付け用ブラケット下部にリア・パネルを固定しているつまみねじを緩めます。
 - リア・パネル取り付け用ブラケットをすべて取り外します。
 - 7 相互に切り離すシャーシを決定します。
 - フレームを拡張する場合は、内側の2つのシャーシを切り離し、それらの間に新しいシャーシを設置します。
-  S6フレームを拡張するときには必ず、既存のシャーシの間に新しいシャーシを入れます（Producer's Deskを追加する場合以外は、左端または右端に新しいシャーシを追加しないでください）。これにより、左端と右端のシャーシに設置した固有のコンポーネント（サイド・パネル取り付け用プレート、後脚スペーサー・バーなど）が原因で、解体して設置し直す場合に、作業対象となるハードウェアの数を減らすことができます。
- 大型（シャーシ5つ分以上の幅）のフレームを移動する目的で解体する場合は、結合されたままになるシャーシが4つ以下になるように、必要な数だけシャーシのペアを切り離します。
- 8 2つのシャーシを切り離すため、以下の作業を行います（21 ページの「シャーシを組み立てる」を参照）。
 - 前面タイ・プレートを固定している2つの留め具 Hex を取り外します。
 - 背面タイ・プレートを固定している2つの留め具 Hex を取り外します。
 - サイド・ウォールを隣接するシャーシの底面プレートに固定している3つのねじ #1 Phillips を取り外します。
 - システムに脚部を設置する場合は、シャーシの底面プレートを梁に固定している留め具 Hex とワッシャーを取り外します。

これで、2つのシャーシを物理的に切り離すことができます。

付録 B：コンプライアンス

環境コンプライアンス

EU における使用者による廃機器の処分



製品またはそのパッケージに表示される規定のマークは、その製品を他の廃棄物と一緒に処分してはならないことを示すものです。廃電気電子機器のリサイクルのため、指定された収集地点に引き渡して廃機器を処分することは使用者の責任になります。処分時に廃機器を分別して収集およびリサイクルすることは、天然資源の保護に役立ち、人間の健康および環境を保護するようリサイクルの方法を確立することにもつながります。リサイクルのための廃機器の収集地点についての詳細は、その地域のリサイクル施設または製品を購入した販売店にお問い合わせください。

プロポジション 65 の警告

- ▲ 本製品には、癌、先天性欠損症、その他生殖異常の原因としてカリフォルニア州で認定されている鉛などの化学物質が含まれています。製品の取り扱い後は手を十分に洗ってください。

過塩素酸塩通告

本製品には、リチウム・コイン電池が含まれる場合があります。カリフォルニア州は、下記の表示を義務付けています。「Perchlorate Material – special handling may apply, See www.dtsc.ca.gov/hazardous_waste/perchlorate.」

リサイクル通告



EMC (電磁コンプライアンス)

Avidは、本製品がエミッションとイミュニティを規制する以下の規格に準拠していることを宣言します。

- FCCパート15クラスB
- EN 55022クラスB
- AS/NZS CISPR 22クラスB
- CISPR 22クラスB
- EN 55103-1、クラスE2およびE3
- EN 55103-2、クラスE2およびE3

米国向けFCCコンプライアンス

通信ステートメント

注意：本装置は、試験の結果、FCC規則パート15に準拠するクラスBデジタル装置の規制に適合しています。これらの制限は、住居内設置における受信障害から適切に保護するためのものです。本装置は、無線周波エネルギーを発生、使用し、放射することがあります。製造者の取扱説明書にしたがって設置および使用されない場合、受信障害を引き起こすことがあります。ただし、特定の設置においてそのような受信障害が発生しないことを保証するものではありません。本装置がラジオまたはテレビの受信障害を起こした場合は（装置のオン/オフを切り替えることによって判定可能）、以下の1つ以上の方法によって障害の修正を試みることをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変更するか正しく設定する。
- 装置をレシーバからさらに離す。
- 装置を、レシーバの接続に使われているコンセントとは異なる回路のコンセントに接続する。
- 正規販売店または経験を積んだラジオ/テレビ技術者に連絡して相談する。

ユニットに何らかの変更を加えると、Avidが明示的に承認している場合を除き、装置を操作するためのユーザーの認証が失われる場合があります。

オーストラリア向けコンプライアンス



カナダ向けコンプライアンス

このクラスBデジタル装置一式は、カナダ電波障害発生装置規則の要件を満たしています。

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

CEコンプライアンス

(EMCと安全性)



Avidは、CE (Conformité Européenne) マークを本規格準拠装置に適用することによって、EMC指令2004/108/ECおよび低電圧指令2006/95/ECへの適合を宣言します。

安全性コンプライアンス

安全性ステートメント

本装置は、試験の結果、UL 規格の仕様である UL 60065 7th Edition、2007-12-11、CAN/CSA C22.2 No. 60065-03、1st Edition、2006-04 + A1:2006、EN 60065:2002 + A1:2006 + A11:2008、IEC 60065:2001 + A1:2005 + A2:2010。Avid Technology Inc. は、その規格準拠装置に適切な NRTL マークを適用する権限を与えられています。

Korea Class B EMC コンプライアンス

이 기기는 가정용 (B 급) 전자파적합기기로서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하며, 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

警告



重要な安全指示

- 1) これらの指示をお読みください。
- 2) これらの指示を守ってください。
- 3) すべての警告に注意してください。
- 4) すべての指示に従ってください。
- 5) 本装置は水などの液体に近づけて使用しないでください。
- 6) 必ず乾いた布で清掃してください。
- 7) 通気口を塞がないでください。メーカーの指示に従って設置してください。
- 8) 熱を発生する放熱器、蓄熱器、ストーブなどの（アンプを含む）熱源の近くに設置しないでください。
- 10) 特にプラグ、利便性レセプタクル、装置に近い位置などで電源コードが踏みつけられたり、つままれたりしないよう保護してください。
- 11) メーカーが指定した付属品またはアクセサリのみを使用してください。
- 12) ラック・マウントできない製品の場合は、カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは装置と共に販売されているもの、またはメーカーが指定したものだけを使用してください。カートを使用するときは、カートと装置を一緒に移動するときに転倒による怪我を負わないよう十分注意してください。
- 13) 雷雨時または長期間使用しない場合は、本装置のプラグを抜いてください。
- 14) すべての補修・修理は認定された保守要員に依頼してください。装置が何らかの原因で破損した場合は、保守・サービスが必要になります。電源コードまたはプラグが破損した、液体がこぼれた、装置に物が落下した、装置が雨または湿気にさらされた、装置が正しく作動しない、装置を落としたなどのケースが考えられます。
- 15) 製品が主電源を使用するデバイスの場合：

装置に水滴や水などがかからないようにしてください。また液体が入った物（花瓶など）を本装置の上に置かないでください。

警告 火災や電気ショックの危険を減らすため、本装置を雨や湿気にさらさないようにしてください。

分極または接地タイプのプラグの安全規定を妨げないでください。分極プラグには2つのブレードがあり、一方が他方より幅広になっています。接地タイプのプラグには、2つのブレードと3番目の接地用ピンが付いています。幅広のブレードまたは3番目のピンは、安全のために付いています。提供されたプラグがコンセントに合わない場合は、役立たないコンセントを電気技師に交換してもらう必要があります。

16) リチウム電池を含んでいる製品の場合：

注意！電池を正しく交換しないと爆発する可能性があります。同じか同等なタイプの電池に交換してください。

17) 電源スイッチのある製品の場合：

設置完了後も、電源スイッチに簡単にアクセスできるように設置してください。

18) 本装置は、40°C以下の温度環境でご使用ください。

19) このユニットには、120V AC入力のみに対応する電源ケーブル一式が付属しています（アメリカ合衆国およびカナダ）。アメリカ合衆国およびカナダ以外の国では、認定された者により、このユニットでの使用に適した動作確認済みの電源ケーブル一式が提供されなければなりません。またそのケーブルは、使用される国の要件に準拠しており、断面積が1.0mm²以上のものでなければなりません。

20) 電源コードが2つ以上の製品について：

注意：このユニットには電源コードが2つ以上あります。感電を防ぐため、保守前には2つの電源コードを抜いてください。

ATTENTION: Cet appareil comporte plus d'un cordon d'alimentation. Afin de prévenir les chocs électriques, débrancher les deux cordons d'alimentation avant de faire le dépannage.

21) オペレーターがアクセス可能なヒューズ付製品について：

注意：火災の危険を防ぐため、ヒューズを交換する際は種類と定格が同一のものを使用してください。

ATTENTION: Pour ne pas compromettre la protection contre les risques d'incendie, remplacer par un fusible de même type et de même caractéristiques nominales.



Avid
アビッド テクノロジー株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7
ATT 新館ビル4F

テクニカル・サポート
オンラインサポートセンター
www.avid.com/support (英語)
にアクセスしてください。

製品情報
会社情報および製品情報については、
www.avid.com をご覧ください。